

参 考 资 料

目 次

1	横浜市の医療提供体制	1
2	1 3 大都市市内一般病床に占める市立病院等の一般病床数	3
3	「神奈川県保健医療計画」における二次保健医療圏と基準病床数	6
	(神奈川県ホームページ「神奈川県保健医療計画」から抜粋)	
4	市立病院等の概要	8
5	市立病院等の整備の基本的な考え方と整備の状況	11
6	市立病院の果たしてきた役割	13
7	市民病院感染症病床の稼働実績	14
8	市民病院がん検診センターの概要	15
9	市民病院がん検診センター繰入金収支状況(平成13年度)	16
10	横浜市がん検診事業の概要	17
11	脳血管医療センターの医療機能について	18
12	横浜市立脳血管医療センター及び他の脳血管治療施設経営状況等資料...	20
13	市民の健康危機への対応	43
14	市立病院と他の医療機関との連携について	44
15	横浜市立病院医療憲章	49
16	衛生局市立病院における医療事故の公表について	50
17	横浜市立港湾病院再整備の概要	54
18	市民病院の医療機能向上について	58
19	横浜市の精神科救急医療体制	59
20	横浜市内の緩和ケア病床整備状況	60
21	アレルギー疾患への対応	61
22	市立病院を中心とした半径5km圏内に所在する主な病院	62
23	救急搬送患者の市立病院等の受入状況	71
24	地域中核病院の主な機能及び支援内容	72
25	市立病院及び中核病院の経常収支の概要(平成13年度)	75

26	市立病院・中核病院の比較	76
27	市立病院の人事管理について	77
28	市立病院の経営の現状について	78
29	市立病院経営状況統計資料	82
30	市立病院のこれまでの経営改善の取組	88
31	横浜市の財政状況について	89
	諮問書（写し）	92
	横浜市市立病院あり方検討委員会設置要綱	93
	横浜市市立病院あり方検討委員会の公開に関する要領	95
	検討経過	96
	委員名簿	97

1 横浜市の医療提供体制

(1) 医療施設数 (実数・人口10万対)

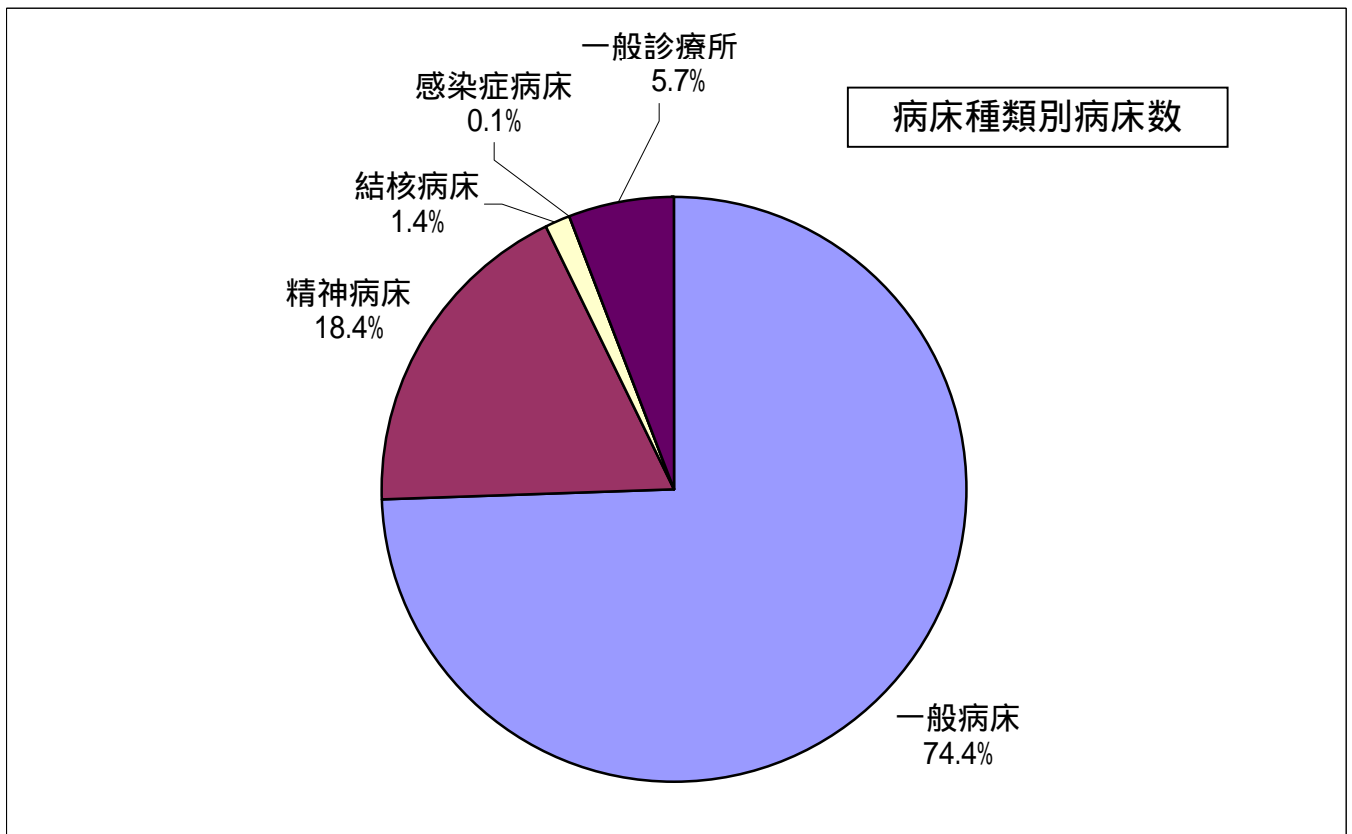
平成14年4月1日現在

	病 院						一 般 診 療 所						歯科診療所	
	総 数		一 般		精 神	結 核	総 数		有 床		無 床		施 設 数	10万対
	10万対	10万対	10万対	10万対			10万対	10万対	10万対	10万対				
医療施設数	142	4.1	123	3.5	19	0	2,486	71.6	204	5.9	2,282	65.7	1,858	53.5

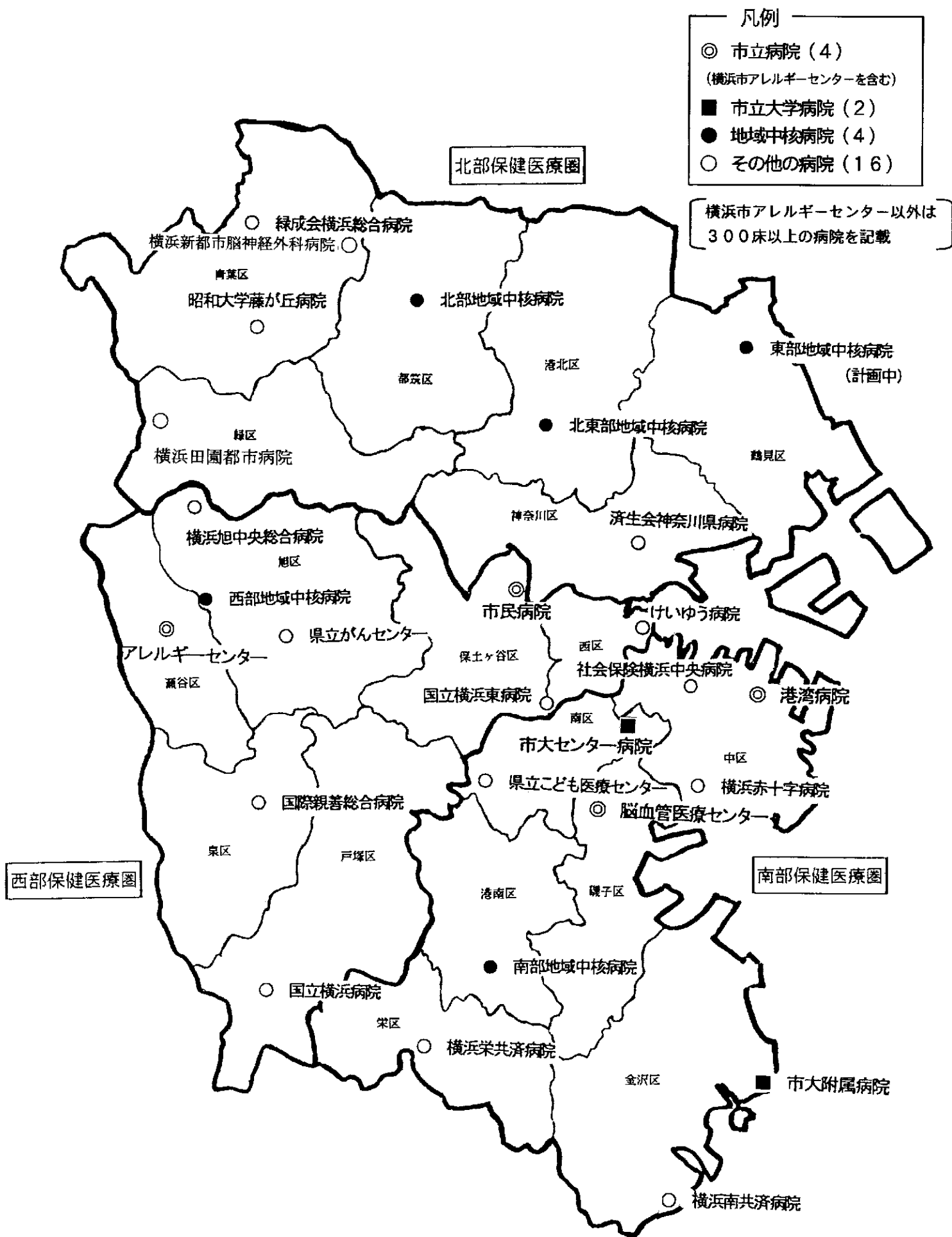
(2) 病床の種類別みた病床数 (実数・人口10万対)

平成14年4月1日現在

	総 数		病 院								一 般 診 療 所	
	10万対		一 般 病 床		精 神 病 床		結 核 病 床		感 染 症 病 床		10万対	
	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	10万対	
病床数	29,789	858.3	22,163	638.6	5,476	157.8	410	11.8	24	0.7	1,716	49.4
総数に占める割合			74.4%		18.4%		1.4%		0.1%		5.7%	



(3) 市内の主な病院



2 13大都市市内一般病床数に占める市立病院等の一般病床数

H13.4.1現在

	市立病院病床数	民間等病床数	全病床数	市立病院 病床比率
	A	B	C	A / C
札幌市	810	30,786	31,596	2.6%
	44.4	1,689.4	1,733.9	
仙台市	501	12,194	12,695	3.9%
	49.9	1,214.1	1,264.0	
千葉市	527	7,003	7,530	7.0%
	59.4	788.7	848.1	
川崎市	1,177	7,446	8,623	13.6%
	93.8	593.7	687.5	
横浜市	4,952	17,211	22,163	22.3%
(市立 + 市大 + 中核)	142.7	495.9	638.6	
横浜市	2,731	19,432	22,163	12.3%
(市立 + 市大)	78.7	559.9	638.6	
横浜市	1,484	20,679	22,163	6.7%
(市立のみ)	42.8	595.8	638.6	
名古屋市	2,316	19,674	21,990	10.5%
(市立 + 市大)	106.9	908.1	1,015.0	
名古屋市	1,544	20,446	21,990	7.0%
(市立のみ)	71.3	943.8	1,015.0	
京都市	566	19,827	20,393	2.8%
	38.7	1,354.5	1,393.1	
大阪市	2,945	33,187	36,132	8.2%
(市立 + 市大)	113.3	1,276.7	1,390.0	
大阪市	1,831	34,301	36,132	5.1%
(市立のみ)	70.4	1,319.6	1,390.0	
神戸市	1,720	13,547	15,267	11.3%
	115.0	905.9	1,020.9	
広島市	1,419	10,653	12,072	11.8%
	126.3	948.0	1,074.3	
北九州市	1,529	14,004	15,533	9.8%
	152.0	1,391.8	1,543.8	
福岡市	390	17,904	18,294	2.1%
	29.0	1,331.1	1,360.1	
東京都	5,985	101,012	106,997	5.6%
(公社含む)	49.6	837.3	886.9	
東京都	5,385	101,612	106,997	5.0%
(都立のみ(委託含む))	44.6	842.3	886.9	
合計	24,837	304,448	329,285	7.5%
(市立 + 市大 + 中核)	78.3	960.3	1,038.6	
合計	18,883	310,402	329,285	5.7%
(市立のみ)	59.6	979.1	1,038.6	

病床数(H14.4.1)

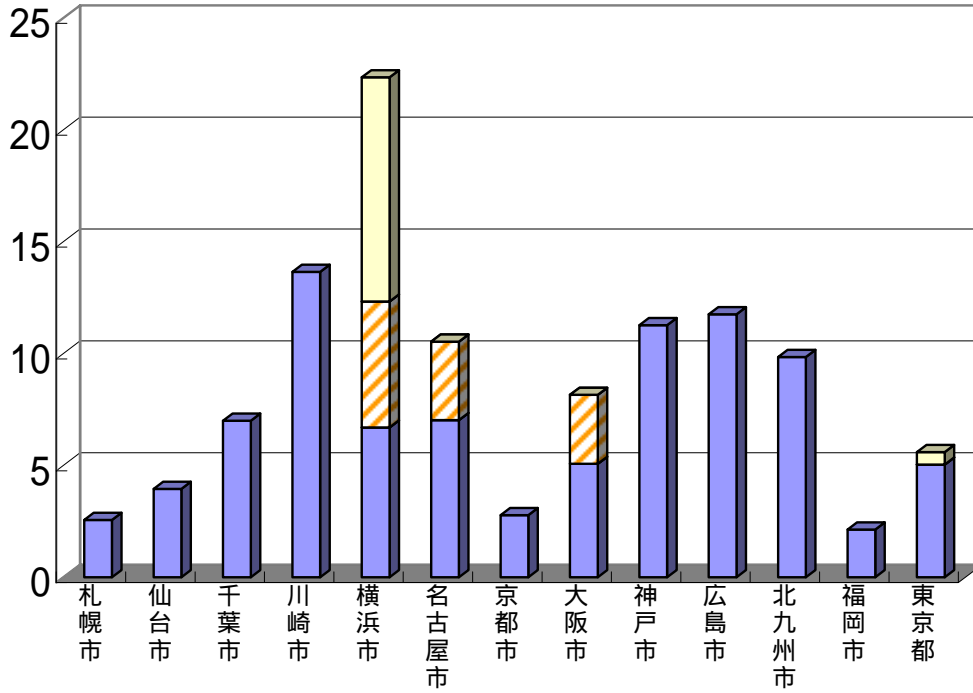
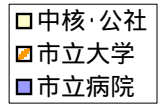
上段:実数
下段:人口10万対

参考 横浜市内病床数の内訳

市立病院	中核病院	市立大学 附属病院	国立病院	県立病院	その他 公的病院	民間病院	計
1,484	2,221	1,247	1,102	1,179	1,016	13,914	22,163

13大都市 市内一般病床数に占める 市立病院等の一般病床数比率

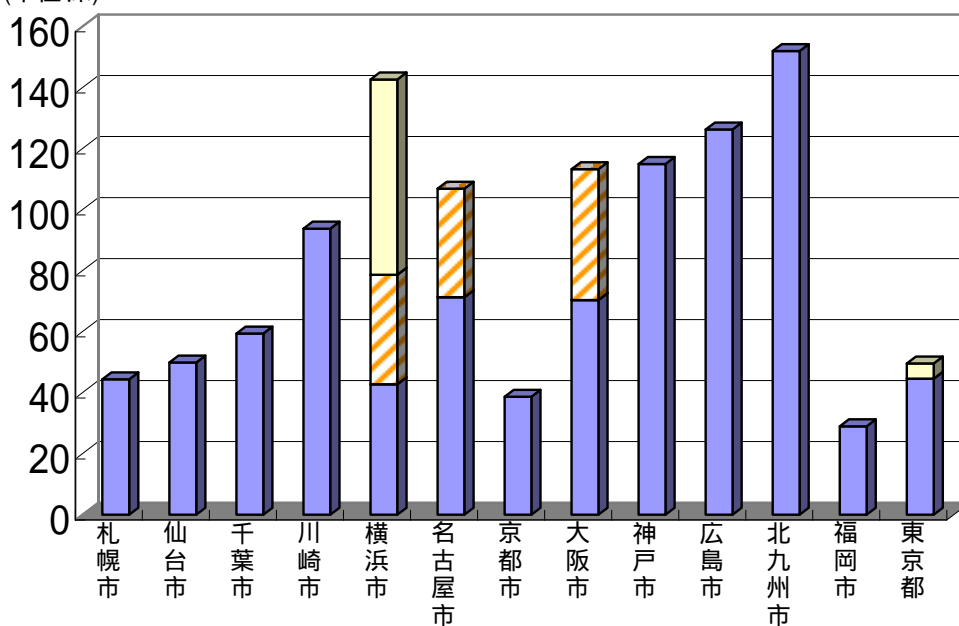
(単位:%)



13大都市 市立病院等一般病床数(人口10万対)

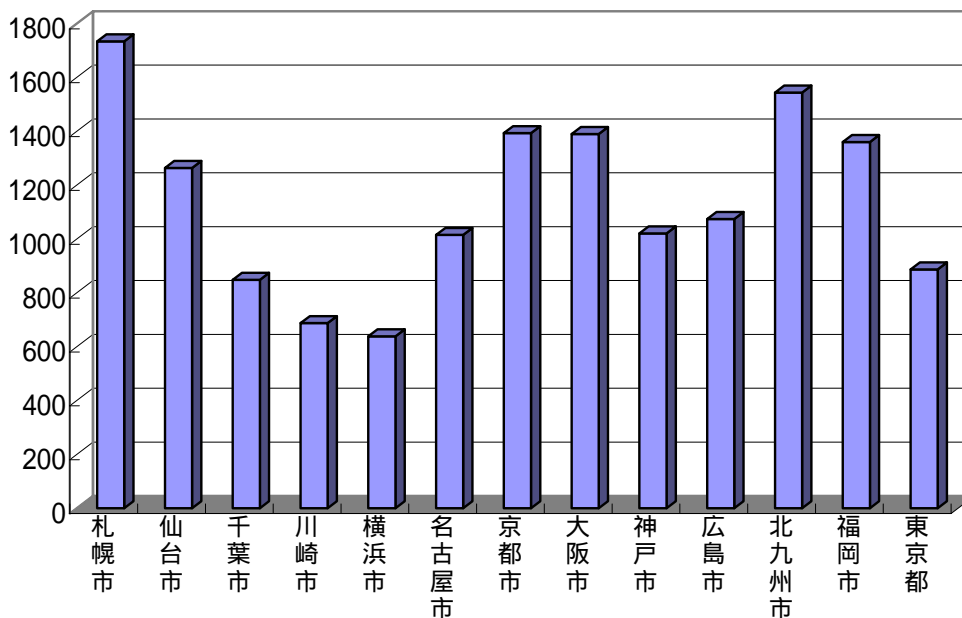
(単位:床)

- 中核・公社
- ▨ 市立大学
- 市立病院



13大都市 市内一般病床数(人口10万対)

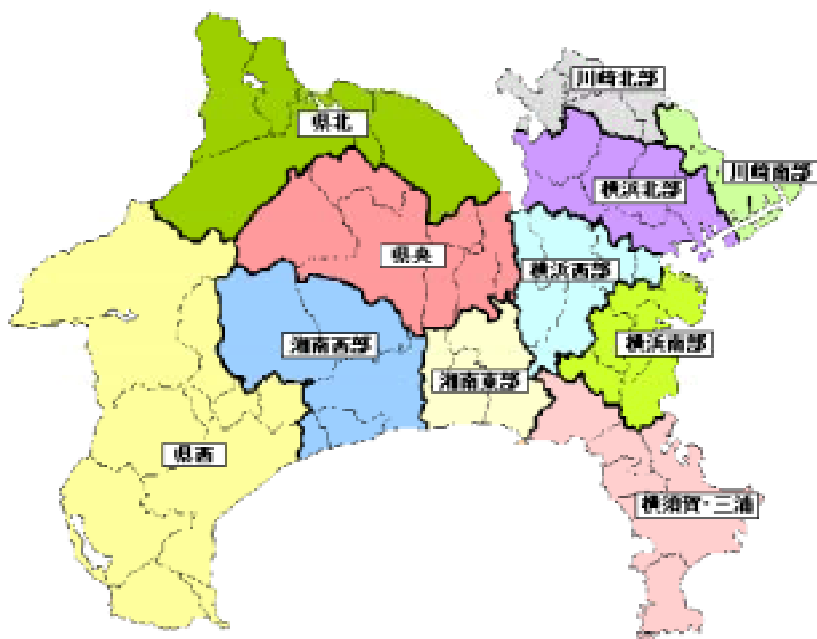
(単位:床)



3 「神奈川県保健医療計画」における二次保健医療圏と基準病床数 (神奈川県ホームページ「神奈川県保健医療計画」から抜粋)

『二次保健医療圏』

二次保健医療圏は、一般的な入院医療への対応を図る圏域で、保健医療施策の基本的な単位となります。本県では、地理的条件や社会的条件などから11の二次保健医療圏を設定し、各圏域ごとに基準となる病床数を定めています。



『基準病床数』

基準病床数は、人口や年齢構成、入院患者の流入・流出の状況などを踏まえて定めています。基準病床数及び既存病床数(2002.1.1現在)は、次のとおりです。

1 療養病床及び一般病床(合算)

二次保健医療圏	基準病床数	既存病床数
横浜北部	8,294	7,874
横浜西部	7,546	7,243
横浜南部	6,480	7,447
川崎北部	4,187	3,885
川崎南部	3,629	5,355
横須賀・三浦	5,498	5,116
湘南東部	3,810	3,440
湘南西部	4,402	5,305
県央	5,430	5,336
県北	5,857	6,943
県西	2,855	3,525
合計	57,988	61,469

2 精神病床

区 域	基準病床数	既存病床数
全 県	17,442	14,689

3 感染症病床

種 別	区 域	指定病床数	指定医療機関
第一種感染症病床	全 県	2	-
第二種感染症病床	横浜市域	24	横浜市立市民病院
	川崎市域	12	川崎市立川崎病院
	横須賀・三浦	6	横須賀市立市民病院
	湘南東部	6	藤沢市民病院
	湘南西部	6	平塚市民病院
	県 央	6	県立厚木病院
	県 北	6	相模原協同病院
	県 西	6	県立足柄上病院

4 結核病床

区 域	基準病床数	存病床数
全 県	538	765

4 市立病院等の概要

市立病院の概要

	業 務 実 績	平成13年度 決 算 値	施 設 概 要 等
市 民 病 院	入 院 患 者 数	198,298 人	施設概要 昭和35年10月開院（平成3年10月再整備） ・所在地 保土ヶ谷区岡沢町56 ・病床数 624床（うち感染症病床24床） がん検診センターを併設 診療科目（20科目） 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、 外科、胸部外科、脳神経外科、整形外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、 耳鼻いんこう科、リハビリテーション科 放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、神経内科、 神経精神科
	1 日 平 均 入 院 患 者 数	543 人	
	平 均 在 院 日 数	17.5 日	
	病 床 利 用 率	87.1 %	
	外 来 患 者 数	429,103 人	
	1 日 平 均 外 来 患 者 数	1,751 人	
病院の特徴：がん検診、365日24時間救急、感染症指定医療機関、災害医療拠点病院、臨床研修病院			
港 湾 病 院	入 院 患 者 数	88,419 人	施設概要 昭和37年5月開院 ・所在地 中区新山下3丁目2番3号 ・病床数 300床 診療科目（14科目） 内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、 耳鼻いんこう科、リハビリテーション科 放射線科、麻酔科、歯科口腔外科
	1 日 平 均 入 院 患 者 数	242 人	
	平 均 在 院 日 数	16.9 日	
	病 床 利 用 率	80.7 %	
	外 来 患 者 数	216,190 人	
	1 日 平 均 外 来 患 者 数	882 人	
病院の特徴：災害医療拠点病院、臨床研修病院			
脳 血 管 医 療 セ ン タ ー	入 院 患 者 数	90,858 人	施設概要 平成11年8月開院 ・所在地 磯子区滝頭1丁目2番1号 ・病床数 300床 ・介護老人保健施設 80人 診療科目（6科目） 内科、脳神経外科、リハビリテーション科、 放射線科、麻酔科、神経内科
	1 日 平 均 入 院 患 者 数	249 人	
	平 均 在 院 日 数	54.8 日	
	病 床 利 用 率	83.0 %	
	外 来 患 者 数	33,499 人	
	1 日 平 均 外 来 患 者 数	137 人	
病院の特徴：脳血管疾患への一貫した治療及び365日24時間救急、リハビリテーション、介護老人保健施設を併設			

市立大学病院の概要

	業 務 実 績	平成13年度 決 算 値	施 設 概 要 等
市大医学部 附属病院	入 院 患 者 数	203,751 人	施設概要 平成3年7月開院 ・所在地 金沢区福浦三丁目9番地 ・病床数 623床 診療科目(21科目) 第1内科、第2内科、第3内科、神経科、 小児科、第1外科、第2外科、整形外科、皮膚科、 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、 放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、脳神経外科、 リハビリテーション科、形成外科、 小児神経精神科、神経内科
	1 日 平 均 入 院 患 者 数	558 人	
	平均在院日数	27.1 日	
	病 床 利 用 率	89.6 %	
	外 来 患 者 数	426,088 人	
	1 日 平 均 外 来 患 者 数	1,732 人	
病院の特徴：特定機能病院、災害医療拠点病院、臨床研修病院			
市大医学部 附属市民総合医療センター	入 院 患 者 数	234,611 人	施設概要 明治24年4月横浜市十全病院(県から移管) 平成12年1月市民総合医療センターと改称 ・所在地 南区浦舟町4丁目57番地 ・病床数 720床 診療科目(21科目) 総合内科、血液内科、呼吸器内科、腎臓内科、 内分泌・糖尿病内科、神経内科、小児科、総合外科、 整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、 耳鼻いんこう科、放射線科、歯科・口腔外科・矯正歯科、 麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、 形成外科、臓器移植科
	1 日 平 均 入 院 患 者 数	643 人	
	平均在院日数	20.8 日	
	病 床 利 用 率	89.3 %	
	外 来 患 者 数	462,698 人	
	1 日 平 均 外 来 患 者 数	1,881 人	
病院の特徴：救命救急センターをはじめ8つの疾患別センターを併設、災害医療拠点病院、臨床研修病院			

地域中核病院の概要

	業務実績	平成13年度 決算値	施設概要等
南部 病院 《済生会》	入院患者数	159,535 人	施設概要 昭和58年6月開院 ・所在地 港南区港南台3-2-10 ・病床数 500床 診療科目 (18科目) 内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、 形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、 耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、 放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、精神科
	1日平均 入院患者数	437 人	
	平均在院日数	13.1 日	
	病床利用率	87.4 %	
	外来患者数	426,479 人	
	1日平均 外来患者数	1,591 人	
病院の特徴：365日24時間救急、災害医療拠点病院、臨床研修病院			
西部 病院 《聖マリアンナ 医科大学》	入院患者数	166,359 人	施設概要 昭和62年5月開院 ・所在地 旭区矢指町1197-1 ・病床数 518床 診療科目 (26科目) 総合診療科、腎臓・高血圧内科、血液・腫瘍内科、 リウマチ・膠原病内科、消化器内科、循環器内科、 内分泌代謝科、呼吸器内科、小児科、一般外科、 消化器外科、心臓血管外科、胸部外科、小児外科、 脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 放射線科、麻酔科、神経内科、神経精神科
	1日平均 入院患者数	456 人	
	平均在院日数	21.1 日	
	病床利用率	88.0 %	
	外来患者数	387,187 人	
	1日平均 外来患者数	1,429 人	
病院の特徴：救命救急センター、周産期センター、災害医療拠点病院、臨床研修病院			
(北東部) 労 災 病 院	入院患者数	230,856 人	施設概要 平成3年6月開院 ・所在地 港北区小机町3211 ・病床数 650床 診療科目 (23科目) 内科、心療内科、神経内科、精神科、呼吸器科、 消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、 形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、 歯科、歯科口腔外科
	1日平均 入院患者数	633 人	
	平均在院日数	15.8 日	
	病床利用率	97.3 %	
	外来患者数	602,056 人	
	1日平均 外来患者数	2,457 人	
病院の特徴：労災医療、365日24時間救急、災害医療拠点病院、臨床研修病院			
北 部 病 院 《昭和大学》	入院患者数	109,995 人	施設概要 平成13年4月開院 ・所在地 都筑区茅ヶ崎中央35-1 ・病床数 653床(うち精神病床50床) 診療科目 (6疾患別センター、14科) 呼吸器センター、消化器センター、 循環器センター、救急センター、 メンタルケアセンター、周産期センター 内科、小児科、皮膚科、放射線科、外科、 脳神経外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科 眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、臨床検査科、 病院病理科
	1日平均 入院患者数	301 人	
	平均在院日数	12.3 日	
	病床利用率	60.5 %	
	外来患者数	183,964 人	
	1日平均 外来患者数	630 人	
病院の特徴：緩和ケア、精神科救急、365日24時間救急、災害医療拠点病院、臨床研修病院			

5 市立病院等の整備の基本的な考え方と整備の状況

昭和	実施計画(5か年計画)	市立病院、市立大学病院及び地域中核病院整備の状況
48年(1973年)	<p>横浜市総合計画・1985 - 市民による新しいまちづくり</p> <p>人口の急激な増加、疾病構造の複雑化等に伴って医療需要は急増している。本市はこれまで市立大学病院及び市立大学付属病院に約650床を備えてきたが、市内の医療施設は他都市と比較してまだ不足している。これは人口急増が、市内の医療施設の整備が追いつかないためである。特に、開業の激しい郊外地域における不足が著しく、地域的偏在が強くなっている。</p> <p>【医療機関の整備】</p> <p>郊外部の医療施設不足に対処するため、方面別に地域医療の中核となる総合病院を3か所整備(中略)成人病、老人病、小児医療、救急医療などの特殊機能を特長(中略)これらの病院は民営を基本とし、本市はこれらに対して土地提供等の援助を行う。</p> <p>港湾病院を現在の122床から300床に増床する。</p> <p>老人病医療施設を建設し、機能回復訓練施設を整備する。</p> <p>二ツ橋学園を増設改修して、小児アレルギーの発症患者のほかに重症患者及び外来患者の治療もあわせて実施し、小児慢性疾患医療の充実をはかるとする。</p>	<p>病床数は、許可病床数による。</p> <p>昭和49年6月 老人リハビリテーション 友愛病院開院(68床) (交通局厚生会及愛病院を転用)</p> <p>市民病院 * 現施設整備以前の増床整備(42床) 昭和 35年 10月開院 (42床) 36年 7月増床 (142床) 38年 3月増床 (192床) 42~45年増床 (309床) 58~平成3年 再整備</p> <p>港湾病院 昭和 37年 5月開院 (122床) 49~51年増改修 (300床)</p> <p>(参考) 市大浦内病院 昭和 27年 4月 横浜市立大学病院、 42年 11月旧1号館(300床)竣工 47年 3月旧2号館(700床)竣工 * 市立大学設置以前の経過については省略</p>
49年(1974年)	<p>横浜市5か年計画 73~77 - 参考資料として</p> <p>長期目標(事業名) 総合計画数量 地域総合病院建設 北部地域 600床 用地40,000m² 南部地域 600床 用地40,000m² 西部地域 600床 用地40,000m² 178床 防災医療施設、公衆衛生施設、集団検査施設、一般救急医療施設を含む</p> <p>方面別 3か所 港湾病院拡張 300床 老人病医療施設 68床 建設</p> <p>二ツ橋学園のレールギーセンター整備 180床 市民病院整備 救急病床 24床</p>	<p>5か年目標 南部地域総合病院 用地 40,000m² 同左 同左 同左</p>
50年(1975年)	<p>77~81 横浜市新5か年計画</p> <p>長期目標(事業名) 総合計画数量 地域総合病院建設 南部地域 600床 用地40,000m² 西部地域 600床 用地40,000m² 北部地域 600床 用地40,000m² 180床(増改修) 市民病院整備 救急病床 24床</p>	<p>新5か年目標 市民病院に併設 2,136m² 南部地域 600床 用地 15,000m² 西部地域用地取得 全面改築 180床 外来等部門の拡充 救急病床 40床</p>
51年(1976年)	<p>二ツ橋学園 100床を80床に拡張</p>	
52年(1977年)	<p>二ツ橋学園 100床を80床に拡張</p>	
53年(1978年)		
54年(1979年)		
55年(1980年)		
56年(1981年)	<p>よこはま21世紀プラン - 新たな道をきざめて</p> <p>医療施設の整備の状況は、国で定める医療整備基準である人口10万人当たり1700床に対して443床にすぎず、全国平均727床、10大都市平均853床に比べて極めて低い水準にある。この傾向は、宅地開発の激しかった郊外部においてとくに顕著であり、市民が常に最適な医療を受けられる環境を整備することは重要である。</p> <p>【地域中核総合病院の整備】</p> <p>交通の中核総合病院の整備は、昭和54年の備え使用の適正な配置を進める(中略)すでに医療施設が充実している中央部地域を除いて、残り3006プロックに地域中核総合病院を整備。運営は民営を基本とする。</p> <p>中央部地域にある市民病院、港湾病院について増設・スタックの拡充強化を図っていく。</p>	<p>昭和56年4月 小児アレルギーセンター開院(144床) (朝アレルギーセンター) 二ツ橋学園を再整備)</p>
57年(1982年)		
58年(1983年)		
59年(1984年)	<p>新たに6か所の地域中核総合病院(500床規模程度)を整備</p> <p>事業内容 (港南区日野町) 南部地域総合病院 (新横浜駅方面) 北部地域総合病院 (港北ニュータウン) 東部地域総合病院 (鶴見方面) 西部地域総合病院 (二ツ橋駅方面) 南西部地域総合病院 (戸塚方面) 市民病院の増床再整備(400床 600床) 港湾病院の増床再整備</p>	<p>昭和58年6月 済生会横浜市南西部病院開院(300床)</p>
60年(1985年)	<p>二ツ橋学園の増床再整備</p>	
61年(1986年)		
62年(1987年)		
63年(1988年)		
64年(1989年)		
65年(1990年)		
66年(1991年)		
67年(1992年)		
68年(1993年)		
69年(1994年)		
70年(1995年)		
71年(1996年)		
72年(1997年)		
73年(1998年)		
74年(1999年)		
75年(2000年)		
76年(2001年)		
77年(2002年)		
78年(2003年)		
79年(2004年)		
80年(2005年)		
81年(2006年)		
82年(2007年)		
83年(2008年)		
84年(2009年)		
85年(2010年)		
86年(2011年)		
87年(2012年)		
88年(2013年)		
89年(2014年)		
90年(2015年)		
91年(2016年)		
92年(2017年)		
93年(2018年)		
94年(2019年)		
95年(2020年)		
96年(2021年)		
97年(2022年)		
98年(2023年)		
99年(2024年)		
100年(2025年)		

平成	マスタープラン	実施計画(5か年計画)	市立病院、市立大学病院及び地域中核病院整備の状況
元年(1989年)	<p>よこはま21世紀プラン「世界に開かれたヒューマン都市をめぐって」</p> <p>地域における医療水準を高め、市民のニーズの高い高度医療等に先駆的に対応していくこと、地域中核総合病院や貯蔵総合病院の使命です。このため、特に市立病院については、他の医療機関等との連携と役割分担の毛とに病院機能のいっその充実に向けた積極的な取組をすすめていく必要</p>	<p>よこはま21世紀プラン第3次実施計画(1990～1994)</p> <p>事業名 事業内容</p> <p>地域中核総合病院の整備 北東部地域総合病院 閉院 北部地域総合病院 整備着手 南西部地域総合病院 構想検討</p> <p>市立病院の再編・強化 港湾病院の再整備着手</p> <p>市立大学病院の再編・強化 新病院の建設 旧病院の再整備</p>	<p>平成3年6月 北東部地域中核施設・横浜労災病院開院(650床)</p> <p>7月 市大附属病院開院(577床)</p> <p>9月 市民病院再整備全床開床(637床) 後に624床</p>
2年(1990年)	<p>地域中核総合病院等の整備【神奈川県医療計画との整合をまかり、今後の人口動向の変化をふまえ、引き続き整備を推進。強化】</p> <p>市立病院の再編・強化</p> <p>市民病院を市民医療の中核的病院として診療機能の充実をはかる。港湾病院については、高齢化の進行や疾病構造の変化に対応した将来のあり方を検討し、再整備をはかる。</p> <p>大学病院の再編・強化</p> <p>市立大学医学部の新病院を充実するとともに、現病院を再整備し、市民医療の充実に貢献。</p>	<p>事業名 事業内容</p> <p>北東部地域中核総合病院、北部地域中核総合病院、南西部地域中核総合病院、東部地域中核総合病院(在床12年整備水準6病院)</p> <p>市立病院の再編・強化 港湾病院等の再整備</p> <p>市立大学病院の建設 旧病院の再整備</p>	
3年(1991年)			
4年(1992年)			
5年(1993年)			
6年(1994年)	<p>よこはま21世紀プラン「基本計画」～新開港都市宣言～</p> <p>病気になるたびに、身近なところで適切な治療が受けられる体制をととのえ、すべての市民が健康で生きがいのある生活をおくれる社会をめざします。</p> <p>市民の信頼にこたえ、地域医療体制の確保</p> <p>市立大学浦舟病院を救命救急医療や難病、心臓病などの高度な先進医療を担う基幹病院として再整備</p> <p>港湾病院についても老人性痴呆疾患治療やスポーツ医学などの機能を備えた新たな再整備</p> <p>地域中核病院の整備を、人口構造や医療需要の動向をふまえながら、個別にすすめる</p> <p>救急医療センターを整備し、脳血管疾患について予防、発症直後からの診断、治療、リハビリテーションに一貫して取り組む体制をつくる。</p> <p>小児アレルギー疾患や小児成人病に対応するため、小児アレルギーセンターの機能を強化。</p>	<p>よこはま21世紀プラン第5次実施計画(1994～1999)</p> <p>事業名 事業内容</p> <p>救命救急医療、高度先進医療、疾患別センターなどの機能を備えた基幹病院として再整備</p> <p>老人性痴呆疾患治療やスポーツ医学などの機能を備えた地域の病院としての再整備</p> <p>高度救急医療や高度先進医療、老人痴呆性疾患などに対応する北部地域中核病院の整備</p> <p>脳血管疾患センター 脳血管疾患について、予防、発症直後からの診断、治療、リハビリテーションを一貫して取り組む専門医療機関の整備</p>	<p>建設地：中区新山下三丁目6-2ほか</p> <p>敷地面積：28,613㎡</p> <p>構造：SRC造 地下1階地上8階建</p> <p>延床面積：74,342㎡</p> <p>病床数：634床(一般584床、精神50床)</p> <p>特長：精神科医療(7F)救急等への対応 救急医療(24時間365日の内、小・外救急対応)ア病棟(市立病院として初めて設置) 緩和ケア病棟(児童構造物の採用等) など</p>
7年(1995年)			
8年(1996年)			
9年(1997年)	<p>よこはま21世紀プラン第6次実施計画(1997～2001)</p> <p>事業名 事業内容</p> <p>救命救急医療、高度先進医療、疾患別センターなどの機能を備えた基幹病院としての再整備</p> <p>脳血管疾患センター 脳血管疾患について、予防、発症直後からの診断、治療、リハビリテーションを一貫して取り組む専門医療機関の整備</p> <p>地域中核病院 高度救急医療や高度先進医療、老人痴呆性疾患などに対応する北部地域中核病院の整備</p> <p>脳血管疾患センター 脳血管疾患について、予防、発症直後からの診断、治療、リハビリテーションを一貫して取り組む専門医療機関の整備</p>	<p>よこはま21世紀プラン第6次実施計画(1997～2001)</p> <p>事業名 事業内容</p> <p>救命救急医療、高度先進医療、疾患別センターなどの機能を備えた基幹病院としての再整備</p> <p>脳血管疾患センター 脳血管疾患について、予防、発症直後からの診断、治療、リハビリテーションを一貫して取り組む専門医療機関の整備</p> <p>地域中核病院 高度救急医療や高度先進医療、老人痴呆性疾患などに対応する北部地域中核病院の整備</p> <p>脳血管疾患センター 脳血管疾患について、予防、発症直後からの診断、治療、リハビリテーションを一貫して取り組む専門医療機関の整備</p>	<p>平成11年8月 脳血管医療センター開院(300床)準備80床(老人リハビリテーションセンターを愛病院開院)</p> <p>平成12年1月 市大市民総合医療センター(577床) 全床開床(720床)</p>
10年(1998年)			
11年(1999年)			
12年(2000年)			
13年(2001年)			
14年(2002年)			

6 市立病院の果たしてきた役割

横浜市では、急速な人口増に対応するため、市立病院、市立大学病院の増床再整備を行い、また、方面別に公的団体を誘致して地域中核病院の整備を進めるなど地域医療の充実を図ってきました。

市立病院、市立大学病院、地域中核病院は、横浜市の医療提供体制の中で重要な役割を果たしてきています。

1 先導的医療の提供

市立病院は、市が運営している医療機関として、医療施策の懸案事項に対して、政策的に迅速かつ積極的な対応を行うことができます。

市立病院及び市立大学病院では、『横浜市立病院医療憲章』を平成12年1月に定め、患者自らの知る権利と自己決定権を尊重することとし、積極的な情報開示、インフォームドコンセントの徹底も図ってきました。

また、エイズ医療など他の医療機関では取り組みにくい医療についても、政策的に提供してきました。

市立病院が先導的役割を担うことで、地域医療全体の質の向上に貢献しています。

2 政策的医療の提供

市立病院は、救急医療、感染症医療など現在の診療報酬体系では不採算で政策的に提供しなければならない医療を提供しています。

また、個々の疾病に対しても、がんの早期発見、早期治療に対応する中核的施設として市民病院がん検診センターの設置や寝たきりの主な原因となる脳血管疾患の新たな治療を行う脳血管医療センターの設置など、先進的な取り組みをしてきました。

これらの政策的医療を提供するためには、市立病院として総合的な診療体制と充実した医療機能をもつことが必要となります。

3 市民の健康危機への対応

市立病院は、市の施策に対して迅速な対応が可能な病院として、0-157 など、感染症の集団発生への対応や、横浜駅異臭事件、東海村の放射線事故など、有事の際、迅速な対応を図りました。また、健康危機に備え、解毒剤や抗生物質、災害時医薬品の備蓄を行っています。

4 医療機関との連携

349万都市において、市立病院のみで、市民に必要な医療を提供することは不可能です。これまで、市立病院は、市立大学病院、地域中核病院をはじめ、他の公的医療機関や民間病院と連携を行いながら市の施策に迅速に対応してきました。

7 市民病院感染症病床の稼働実績

1 第2種感染症指定医療機関の指定

伝染病予防法の抜本的な見直しにより、平成10年10月、新たに「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(通称「感染症新法」)が制定され、横浜市域3医療圏の2類感染症に対応するため、平成11年4月1日、神奈川県より感染症病床24床の指定を受ける。

2 感染症病床の入院延べ患者数

(人)

		9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
2類 感 染 症	赤痢(細菌性等)	341	261	16	10	2
	腸チフス	80	133	128	92	56
	パラチフス	55		22	11	14
	コレラ	6	2		4	
	細菌性髄膜炎		14			
患者数計		1,482	1,410	166	117	72
感染症空床利用患者数		2,272	2,155	2,011	2,252	2,291
計		2,754	2,565	2,177	2,369	2,363
1日平均入院患者数		7.5	7.0	5.9	6.5	6.5
病床利用率(%)		220.4	219.0	24.8	27.0	27.0
感染症病床数		37	37	24	24	24

- 9、10年度の2類感染症は、伝染病予防法の法定伝染病患者で疑似赤痢等を含む
- 10年度までの病床利用率は、伝染病床37床で積算

3 エイズ拠点病院の指定

市民病院は平成7年11月、市立大学附属病院とともに、神奈川県のエイズ患者・感染者の中心的受入病院(エイズ拠点病院)として指定を受け、エイズに関する総合的・高度医療の提供、重篤患者の受入及び地域医療機関に対する診療上の助言指導などの役割を担っています。

【エイズ患者・感染者受入状況】

(人)

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
入院延べ患者数	984	851	671	452	447
外来延べ患者数	758	766	784	803	1,022

【参 考】

感染症新法における感染症類型と医療体制

感染症類型	感染症名等	主な対応・措置	医療体制
新感染症	都道府県知事が厚生労働省の技術的指導・助言を得て個別に急急対応する感染症	1類感染症に準じた対応	特定感染症指定医療機関 (国が指定、全国2か所)
1類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	・原則入院 ・消毒等の対物措置 (例外的に建物への措置等あり)	第1種感染症指定医療機関 都道府県知事が指定 都道府県に1か所
2類感染症	コレラ、細菌性赤痢、ジフテリア、腸チフス、パラチフス、急性灰白髄炎	・状況に応じて入院 ・消毒等の対物措置	第2種感染症指定医療機関 都道府県知事が指定 保健医療圏に1か所
3類感染症	腸管出血性大腸炎感染症	・特定業務の就業制限 ・消毒等の対物措置	一般の医療機関
4類感染症	インフルエンザ、ウイルス性肝炎、黄熱、Q熱、狂犬病、クリプトポリジウム症、 後天性免疫不全症候群 、クラミジア感染症、梅毒、麻しん、マラリア、MRSA、その他省令で定める感染症	・感染症発生状況の収集、分析とその結果の公開、提供	

8 市民病院がん検診センターの概要

市民病院がん検診センター

：横浜市におけるがん検診の専門施設として、がんの早期発見のため、一次検診から二次検診（精密検査）までを一貫して行う検診専門施設として昭和56年6月に開設

特 徴

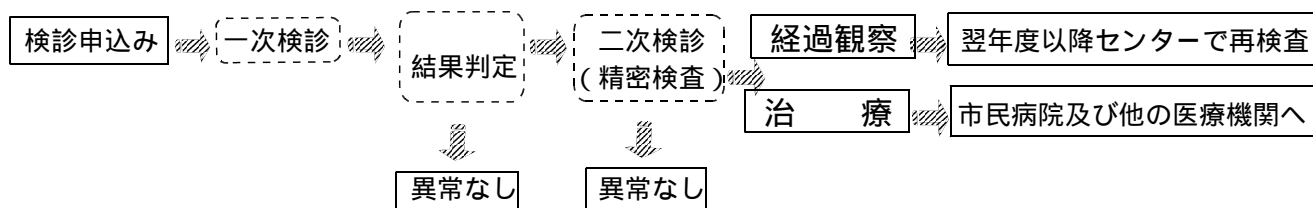
- 1 肝・胆・膵がん、卵巣がん、前立腺がんなどセンター独自検診項目の実施
- 2 地域の医療機関で要精密検査となった方への精密検査の実施
- 3 市民の利便をはかるため1日で多項目のがん検診が受診できる体制の整備及び保健師による患者及び家族の健康相談の実施
- 4 肺がん検診管理委員会をがん検診センター主催で開催するとともに、他の各がん検診管理委員会に参加するなど、がん検診センターでの検診実績をもとに市の検診精度向上への積極的な取組
- 5 検診精度の向上を図るため、区医師会の先生方を対象としてX線読影の勉強会を開催

など、本市のがん征圧の中核施設として事業を推進

がん検診の実績

	13年度			累計(S56~H13)		
	受診者数	発見がん患者数	発見率	受診者数	発見がん患者数	発見率
胃	13,027	27	0.21%	443,672	954	0.22%
子宮	2,780	4	0.14%	52,605	81	0.15%
卵巣	2,570	1	0.04%	11,606	5	0.04%
乳腺	2,866	5	0.17%	61,338	460	0.75%
肺	7,485	21	0.28%	130,553	228	0.17%
大腸	3,823	10	0.26%	50,621	229	0.45%
喉頭	3,128	0	0.00%	41,824	27	0.06%
肝・胆・膵	3,727	3	0.08%	32,515	32	0.10%
前立腺	1,517	17	1.12%	7,382	81	1.10%
その他		6			116	
合計(その他含)	40,923	94	0.23%	832,116	2,213	0.27%

がん検診の流れ



- ・ 胃、子宮、乳、肺、喉頭、大腸、肝・胆・膵、前立腺及び卵巣の9項目について予約制で実施
- ・ 胃集団検診車により市内を巡回検診するとともに、肺については全区福祉保健センター撮影分の読影を実施

9 市民病院 がん検診センター繰入金収支状況(平成13年度)

(単位:千円)

	金額	備考
収入	290,722	
一次検診	31,012	検診者数 36,846人
二次検診	259,710	検診者数 25,919人
支出	950,986	
給与費	568,839	医師、看護師、放射線技師等
材料費	161,928	薬品費、診療材料費等
経費	166,143	光熱水費、委託料等
減価償却費	26,102	建物、機械備品等
企業債利息	27,974	がん検診センター分
繰入金を含まない決算額	-660,264	
繰入金額	660,264	
繰入後の収支	0	

10 横浜市がん検診事業の概要

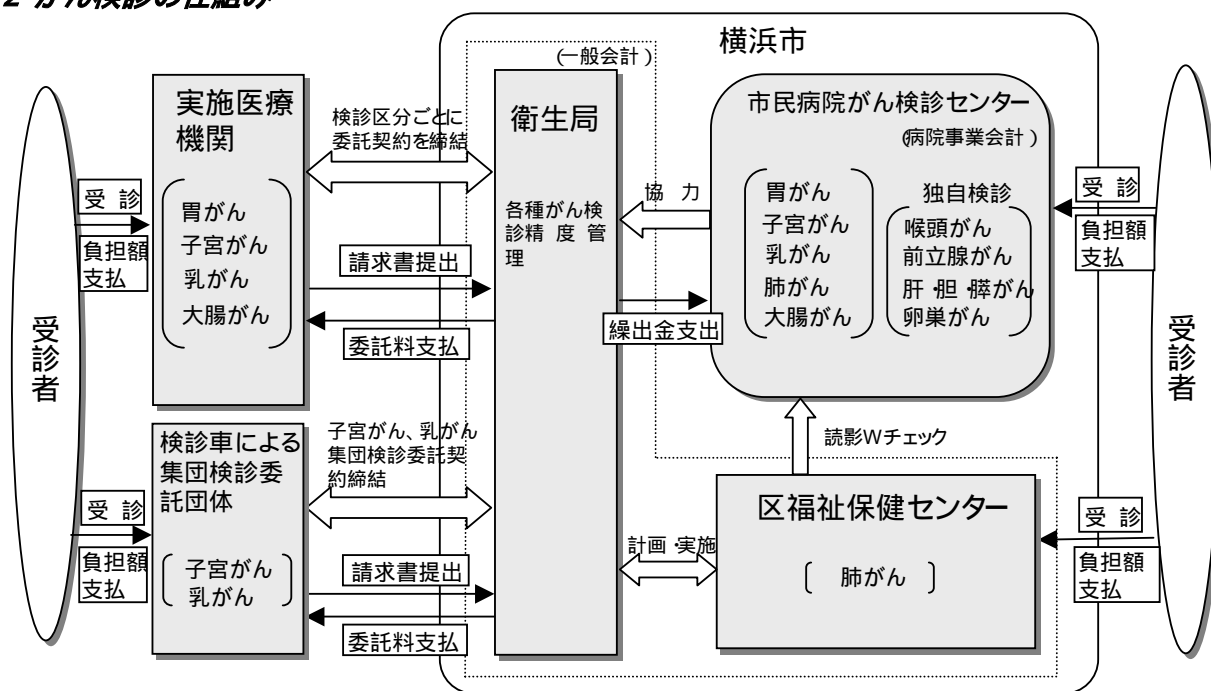
国における「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき、死亡原因の第一位であるがんを早期に発見し、適切な治療に結びつけるため、各種がん検診を福祉保健センター、民間の実施医療機関及びがん検診センターで実施しています。

1 検診区分と実施内容等

区分	対象	実施内容等	実施機関	受診者負担額 1	実施医療機関 への委託料 2	平成14年度 検診計画人員
胃がん	40歳以上	間接撮影	がん検診センター (臨検診及び特検診)	1,230円		55,700人
		直接撮影	実施医療機関	2,450円	16,120円	
子宮がん	30歳以上	頸部検診のみ	検診車(委託)	880円	3,954円	100,100人
			がん検診センター			
		体部附検診含む	実施医療機関		8,680円	
			がん検診センター	1,990円		
実施医療機関		6,300円				
乳がん	30歳以上	視触診	がん検診センター	400円		50,100人
			検診車(委託)		2,808円	
		視触診マンモグラフィ	実施医療機関	570円	3,850円	
			がん検診センター	1,080円		
		マンモグラフィのみ	実施医療機関		7,230円	
			がん検診センター	510円		
実施医療機関		6,080円				
肺がん	40歳以上	間接撮影	福祉保健センター がん検診センター	580円		7,400人
		喀痰検査含む	福祉保健センター がん検診センター	1,080円		
大腸がん	40歳以上	便検査	がん検診センター	600円		65,700人
		実施医療機関		2,670円		
喉頭がん	40歳以上	間接撮影含む	がん検診センター	3,100円		12,500人
		視触診 他に音声テレフォンサービスあり(無料)	がん検診センター	400円		
前立腺がん	40歳以上	血液検査	がん検診センター	1,600円		
肝胆膵がん	40歳以上	超音波、血液検査	がん検診センター	3,700円		
卵巣がん	30歳以上	超音波、血液検査	がん検診センター	3,500円		
計						291,500人

1 65歳以上の人、生活保護世帯、市・県民税非課税世帯、均等割のみ課税世帯は減免。受診者が実施医療機関に支払う負担額を含んだ額

2 がん検診の仕組み



1 1 脳血管医療センターの機能について

1 設立の背景と目的

高齢化の進展とともに、寝たきりの最大原因である脳血管疾患患者の増加が見込まれる中、「寝たきり」の防止など、横浜市の重要な施策課題に対応するため、老人リハビリテーション友愛病院（昭29年建設、68床）の老朽化を契機に、新たな機能を持った「脳血管医療センター」を設立しました。

整備の目的 { 増加する「寝たきり」防止への取組
患者・家族が住み慣れた地域や家庭で安心して暮らせるようにする
介護等の社会的な負担の軽減を図る

脳血管医療センターは、欧米などで普及が進んでいる脳卒中に対する効果的・効率的な取組をもとに、**早期治療と発症直後の早期から安定期まで一貫したリハビリテーションを行うことを理念とした全国で初めての先導的役割を担う専門病院**です。

増える脳卒中（受療率：人口10万人対患者数）

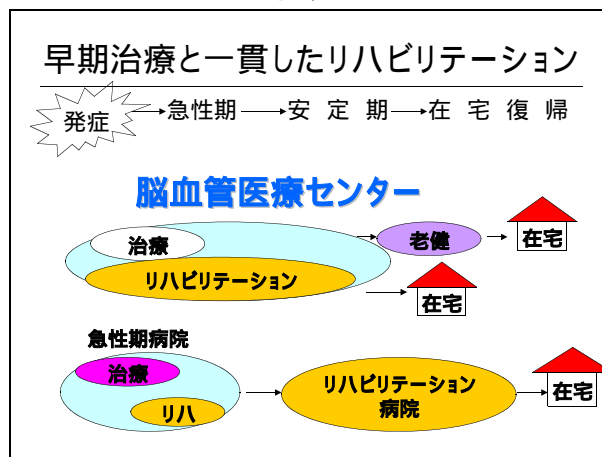
1964年	1999年	35年間で4倍以上
69人	288人	

（財）厚生統計協会編「国民衛生の動向」から

寝たきりの主な原因

脳血管疾患	36%
高齢による衰弱	14%
骨折・転倒	12%

平成10年「国民生活基礎調査」から



参考：脳血管医療センターの診療方針 *

「今後高齢化の進展とともに増加が見込まれる三大成人病の一つであり、寝たきりの最大原因である脳血管疾患に対し、早期治療と一貫したリハビリテーションを実施することにより、寝たきりの患者を少なくすることを目的とする。」

* 「脳血管医療センター（仮称）整備（友愛病院再整備）基本計画書」から

2 センター機能の特徴

脳血管疾患の後遺症を最小限に抑え、寝たきりを防止し、患者・家族にとって日常生活の質が向上することを目的に、次の機能を持っています。

(1) ストロークユニット

各科医師、看護師、各セラピスト等の専門スタッフが協力し、共有化された診療方針に基づいて、効果的かつ効果的に「チーム医療」を行っています。

(2) 的確な超早期診断・治療

24時間365日体制で、専門医がCT、MR等の機器を活用して診断・治療を行っています。

(3) 一貫したリハビリテーション

入院翌日のベッドサイドから在宅復帰まで、一貫したリハビリテーションを行っています。

(4) 患者特性に配慮した施設

「片まひ」など、機能に障害のある脳卒中患者等が動きやすい建物の構造・設備を有しています。

(5) **介護老人保健施設を併設**

入院治療は必要としないが、なおリハビリテーションや介護等を必要とする高齢者などに対応し、在宅復帰を支援するため、介護老人保健施設を併設しています。

(6) **予防・地域連携**

専門病院として、市民への予防啓発や地域医療機関との連携強化を積極的に図っています。

3 機能の評価

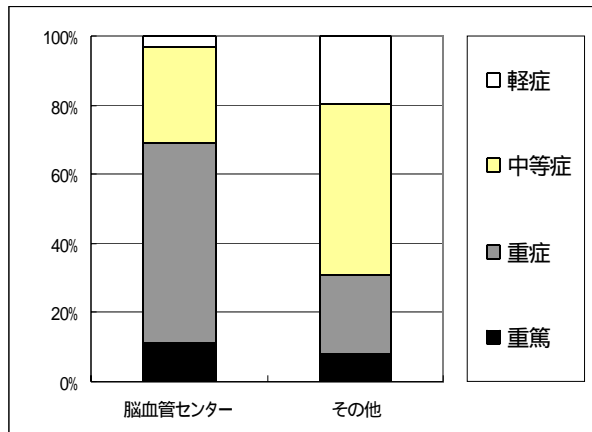
(1) **重症度の高い救急患者の受入**

市内脳卒中救急患者の「重症以上」が3割程度であるのに対して、脳血管医療センターで受け入れている患者は、約7割が重症以上の患者となっています。

また、センターへの搬送にあたっては、救急隊や医師の選定等によることが多いことから、センターの機能が評価されているものと考えられます。

搬送先の選定者 平成13年横浜市消防局統計から

	患者	医師	救急隊
脳血管医療センター	16%	35%	49%
市内脳卒中受入医療機関	43%	13%	44%



(2) **高い在宅復帰率と短い在院日数**

脳卒中を発症して、急性期からセンターに入院した患者の在宅復帰率は69%（平成13年度）と高く、また在院日数は57日と短かく、卒中患者の全国平均（110日）の約半分となっています。

平成13年度センター業務統計から（ただし、全国は（財）厚生衛生協会編平成10年版「国民衛生の動向」から）

脳卒中患者の平均在院日数

脳血管医療センター平均	64日
急性期からのセンター入院患者	57日
安定期からのセンター入院患者	82日
全国平均	110日

(3) **予防啓発への取組**

市民講座「脳卒中にならないために」を区福祉保健センター（保健所）との共催で行っており、計7回、約2,600人の参加を得ました。

また、毎月1回、脳卒中の電話相談を行っており、これまでに計820件の相談を受けました。

(4) **地域医療連携**

センターの紹介率は78%、逆紹介率は89%（平成13年度）となっています。

紹介元医療機関数は434（平成13年度）と、広範囲からの紹介を受けています。特に病院からの紹介については、市内では南部保健医療圏以外からも広く紹介を受けるとともに、市外からも多くの紹介を受けています。

紹介元医療機関 平成13年度センター業務統計から

診療圏	病院	診療所
南部医療圏	25 (14.2%)	152 (58.9%)
西部医療圏	23 (13.1%)	31 (12.0%)
北部医療圏	16 (9.1%)	33 (12.8%)
市内計	64 (36.4%)	216 (83.7%)
市外	112 (63.6%)	42 (16.3%)
総計	176 (100%)	258 (100%)

(5) **地域医療支援への取組**

地域医療機関や消防局救急隊との合同症例検討会を開催し、医療連携の強化やセンター機能の理解促進に努めています。また、豊富な脳卒中臨床実績を活用して診療支援等を行うためのデータベースを作成中です。

1 2 横浜市立脳血管医療センター及び他の脳血管治療施設

経営状況等資料

目 次

資料1 経営状況等資料（平成13年度決算）

- 1 施設概要
- 2 収入
- 3 支出
- 4 収支状況
- 5 患者実績等
- 6 患者1人1日あたりの診療収入
- 7 業務実績
- 8 脳ドック
- 9 各病院の近隣における脳外科手術のできる高次機能病院の状況

資料2 横浜市立脳血管医療センター

- 1 診療科別患者数
- 2 病床利用率（病棟別、急性期・安定期別）
- 3 平均在院日数（病棟別、急性期・安定期別）
- 4 疾病別退院患者数
- 5 退院患者に占める他医療機関転院等に係る比率
- 6 術式別手術件数
- 7 リハビリテーション実施状況

資料3 A病院

- 術式別手術件数

資料4 秋田県立脳血管研究センター

- 1 診療科別患者数
 - (1) 入院
 - (2) 外来
- 2 疾患別入院患者数
- 3 術式別手術件数

資料 1 経営状況等資料（平成 13 年度決算値）

1 施設概要

	横浜市立 脳血管医療センター	A 病院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病院
開設者	横浜市	医療法人	秋田県	財団法人
所在地	横浜市磯子区	東日本	秋田県秋田市	東日本
開院年	平成 11 年 8 月	昭和 42 年	昭和 44 年	昭和 38 年
病床数	300 床(一般病床) (+介護老人保健施設 80 床)	672 床(一般病床)	160 床(一般病床)	189 床 (内訳) ・一般病床 45 床 ・特殊疾患療養病床 45 床 ・回復期リハビリテーション病棟 99 床 (+介護老人保健施設 100 床)
診療科目	6 科目 神経内科/脳神経外科/リハビリテーション科/内科/放射線科/麻酔科	9 科目 脳神経外科/神経内科/神経眼科/神経耳鼻科/心臓血管外科/整形外科/リハビリテーション科/放射線科	7 科目 脳卒中診療部/内科/神経内科/脳神経外科/循環器科/放射線科/麻酔科	7 科目 神経内科/脳神経外科/整形外科/内科/外科/放射線科/リハビリテーション科
特徴	脳血管疾患への一貫した治療 24時間365日救急 リハビリテーション 介護老人保健施設を併設	脳血管外科 24時間365日救急 脳ドックの充実	脳卒中の専門研究医療機関 24時間365日救急	脳卒中を主とした神経疾患の専門病院 介護老人保健施設、訪問看護ステーションを併設

2 収入

(単位：千円)

	横浜市立 脳血管医療センター	A 病院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病院
総収益（収益的収入）	5,194,435	-	3,931,004	2,855,260
医業収益	3,249,582	-	2,018,818	2,256,582
入院収益	2,641,762	-	1,336,220	1,691,328
外来収益	315,860	-	524,767	359,874
検診収益	外来収益に含む	-	5,333	62,242
室料差額収益	91,455	-	7,832	143,138
一般会計繰入金	200,505	-	-	-
医療相談収益	-	-	17,503	-
その他	-	-	127,163	-
医業外収益	1,618,417	-	1,912,186	31,418
国・県補助金	1,656	-	-	25,783
一般会計繰入金	1,548,186	-	1,896,189	-
その他	68,575	-	15,997	5,635
介護老人保健施設収益	326,436			567,260
入所収益	292,152			381,167
通所者収益	23,603			161,618
室料差額収益	10,680			24,475
その他	1			

注1) A病院はデータを入力できず。

注2) B病院の室料差額収益は利用料を含む。

収益的収入：当該年度の企業の経営活動に伴い発生が予定される全ての収益をいう。サービスの提供の対価としての料金収入を主とする「営業収益」、受取利息、他会計補助金等の「営業外収益」、固定資産売却益等の「特別利益」からなる。

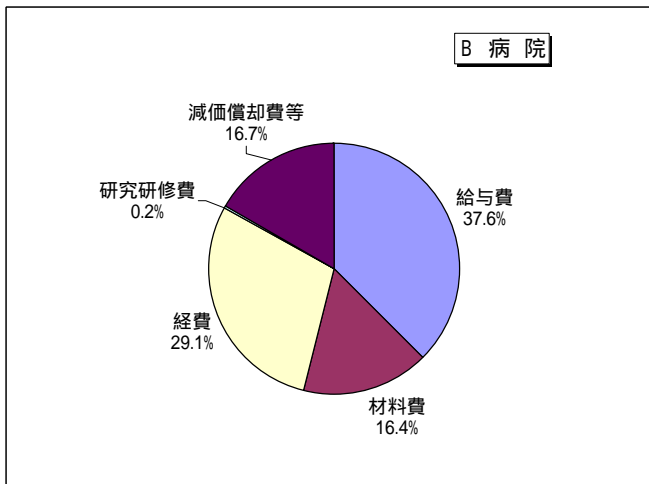
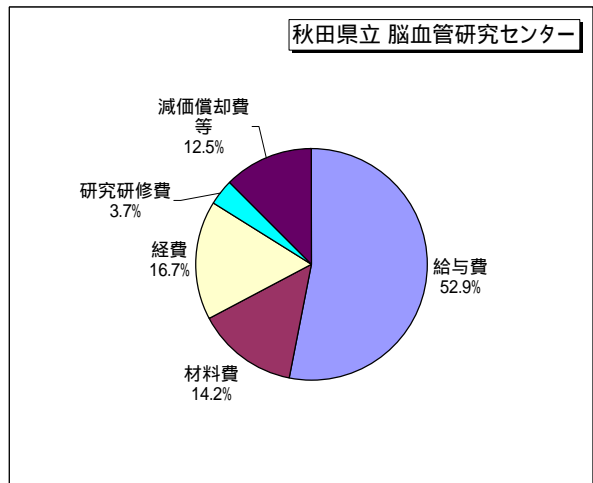
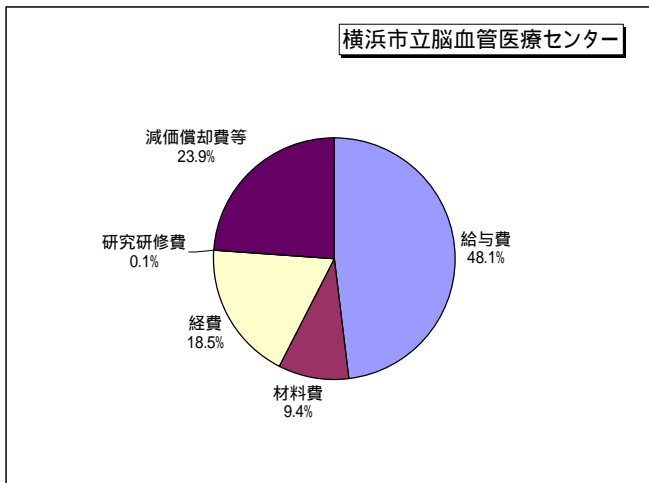
3 支出

	横浜市立 脳血管医療センター			A 病院			秋田県立 脳血管研究センター			B 病院		
	費用 (千円)	医業費用に 占める割合	医業収益に 対する比率	費用 (千円)	医業費用に 占める割合	医業収益に 対する比率	費用 (千円)	医業費用に 占める割合	医業収益に 対する比率	費用 (千円)	医業費用に 占める割合	医業収益に 対する比率
総費用（収益的支出）	7,703,562			-	-	-	3,891,423			2,442,784		
医業費用	6,961,322	100.0%	214.2%	-	-	-	3,517,286	100.0%	174.2%	2,383,477	100.0%	105.6%
給与費	3,347,953	48.1%	103.0%	-	-	-	1,862,036	52.9%	92.2%	895,797	37.6%	39.7%
うち職員給与費	3,228,942	46.4%	99.4%	-	-	-	1,805,111	51.3%	89.4%	880,917	37.0%	39.0%
材料費	653,949	9.4%	20.1%	-	-	-	500,296	14.2%	24.8%	390,899	16.4%	17.3%
薬品費	395,045	5.7%	12.2%	-	-	-	330,926	9.4%	16.4%	203,115	8.5%	9.0%
診療材料費	163,902	2.4%	5.0%	-	-	-	139,844	4.0%	6.9%	112,842	4.7%	5.0%
給食材料費	91,104	1.3%	2.8%	-	-	-	26,723	0.8%	1.3%	68,579	2.9%	3.0%
医療消耗備品費	3,898	0.1%	0.1%	-	-	-	2,803	0.1%	0.1%	6,363	0.3%	0.3%
経費	1,289,115	18.5%	39.7%	-	-	-	585,701	16.7%	29.0%	694,193	29.1%	30.8%
光熱水費	208,091	3.0%	6.4%	-	-	-	95,606	2.7%	4.7%	68,396	2.9%	3.0%
修繕費	5,406	0.1%	0.2%	-	-	-	69,784	2.0%	3.5%	12,564	0.5%	0.6%
賃借料	87,314	1.3%	2.7%	-	-	-	25,317	0.7%	1.3%	74,625	3.1%	3.3%
委託料	920,653	13.2%	28.3%	-	-	-	326,829	9.3%	16.2%	64,258	2.7%	2.8%
その他	67,651	1.0%	2.1%	-	-	-	68,165	1.9%	3.4%	474,350	19.9%	21.0%
研究研修費	9,293	0.1%	0.3%	-	-	-	130,188	3.7%	6.4%	3,804	0.2%	0.2%
減価償却費等	1,661,012	23.9%	51.1%	-	-	-	439,065	12.5%	21.7%	398,784	16.7%	17.7%
医業外費用	742,240			-	-	-	374,137			59,307		
支払利息及び諸費	634,466			-	-	-	269,535			51,803		
繰延勘定償却， 控除対象外消費税	107,739			-	-	-	103,538			-		
その他	35			-	-	-	1,064			7,504		

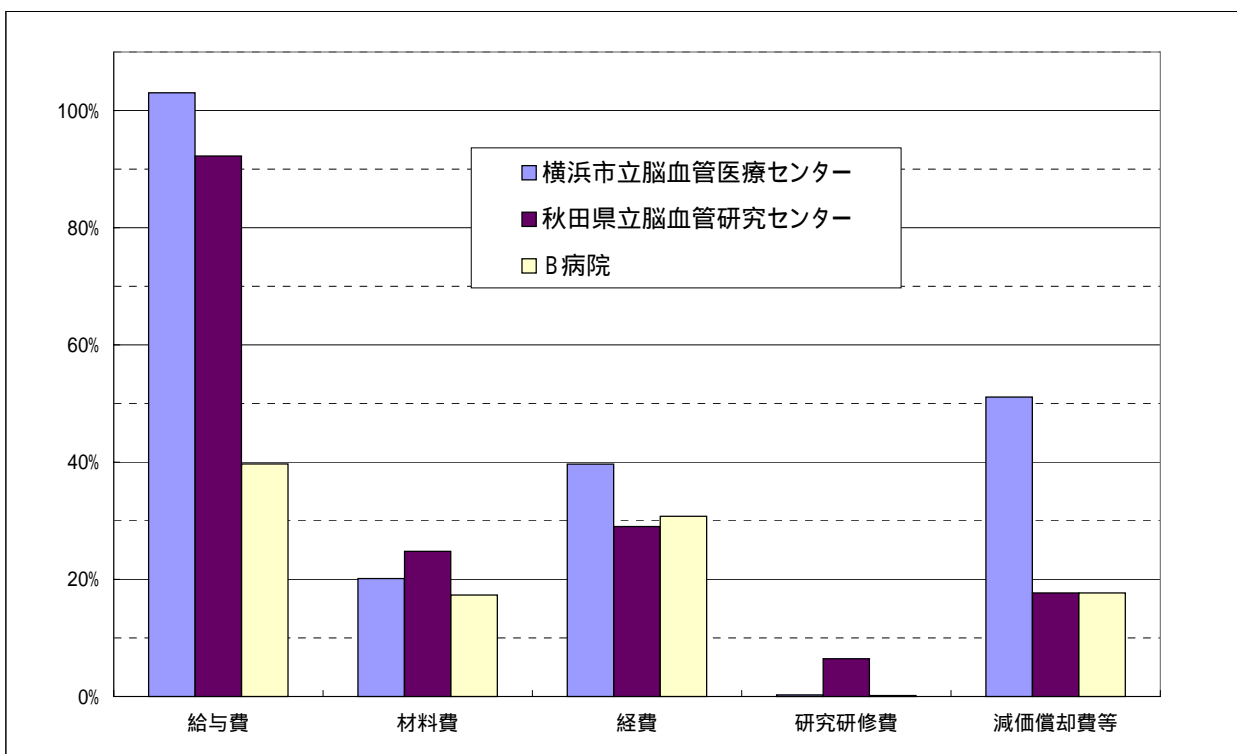
注1) 横浜市立脳血管医療センター、B病院の費用は、介護老人保健施設を含んだもの

注2) A病院はデータを入力できず。

医業費用に占める各項目の割合



医業収益に対する支出項目の比率



4 収支状況

	横浜市立 脳血管医療センター	A 病院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病院
収益的収入(千円)	5,194,435	-	3,931,004	2,855,260
うち医業収益(千円)	3,249,582	-	2,018,818	2,256,582
収益的支出(千円)	7,703,562	-	3,891,423	2,442,784
うち医業費用(千円)	6,961,322	-	3,517,286	2,383,477
経常収支(千円) 注	2,509,127	1,145,000	39,581	412,476
医業収支(千円) 注	3,711,740	-	1,498,468	126,895
経常収支比率 注	67.4%	112.5%	101.0%	116.9%
医業収支比率 注	46.7%	-	57.4%	94.7%
一般会計からの繰入金(千円)	1,748,691	-	1,896,189	-
繰入金を除いた実質経常収支比率	44.7%	112.5%	52.3%	116.9%

注) 横浜市立脳血管医療センター、秋田県立脳血管研究センターは、一般会計からの繰入金を含んだ金額

5 患者実績等

		横浜市立 脳血管医療センター	A 病院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病院	
入院	延患者数(人)	90,858	214,541	39,057	60,709	
	1日平均患者数(人)	249.0	590.0	107.0	167.0	
	職員1日当たり 取扱患者数	医師(人)	8.6	10.9	4.7	20.9
		看護師(人)	0.9	1.6	1.0	2.2
	平均在院日数(日)	54.8	22.2	27.8	急性期：13.6日 療養：73.9日	
	病床利用率(%)	83.0	87.7	66.9	87.4	
	退院患者に占める他病 院転院者の割合(%)	20.6	-	45.5	-	
外来	延患者数(人)	33,499	98,479	60,661	35,756	
	初診(人)	2,568	-	4,626	3,614	
		再診(人)	30,931	-	56,035	32,142
	1日平均患者数(人)	137.0	332.0	247.6	122.0	
	職員1日当たり 取扱患者数	医師(人)	4.7	6.1	10.8	15.3
		看護師(人)	0.5	0.9	2.4	1.6
	紹介率(%)	78.1	-	35.9	22.0	
	逆紹介率(%)	89.4	-	69.5	-	
院外処方せん 発行率(%)	0.2	-	82.3	68.6		
救急	救急患者数(人)	1,613	8,865	1,857	345	
	うち直入院患者数 (人)	1,084	2,406	774	300	
介護老人 保健施設	入所者数(人)	21,923			35,722	
	1日平均(人)	60.0			70.8	
	通所者数(人)	2,091			7,978	
	1日平均(人)	9			21.7	

注1) A病院は、一部のデータを入手できず。

注2) B病院は、逆紹介率の統計をとっていない。

6 患者1人1日あたりの診療収入

(単位:円)

	横浜市立 脳血管医療センター	A 病 院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病 院
入 院	29,076	35,405	34,302	30,314
基本診療料	15,601	16,286	17,098	17,332
投薬・注射料	2,127	2,832	3,645	2,308
処置・手術料	1,371	4,957	4,885	3,779
検査料	1,300	2,478	2,283	753
画像診断料	1,730	3,186	3,228	1,304
その他	6,947	5,666	3,163	4,837
外 来	9,429	15,980	8,837	9,994
基本診療料	873	1,278	1,260	1,246
投薬・注射料	4,045	7,031	2,532	905
処置・手術料	94	160	4	104
検査料	1,183	1,278	1,038	892
画像診断料	1,927	5,433	2,532	2,553
その他	1,307	800	1,471	4,295

7 業務実績

(単位:件)

	横浜国立 脳血管医療センター	A 病院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病院
手術件数	96	1,306	203	339
(参考)手術室数	1室	3室	3室	2室 (脳神経外科専用 1室 整形外科専用 1室)
検査件数	125,250	-	227,517	114,888
患者100人あたり	100.7	-	228.2	119.1
放射線件数	6,258	-	7,416	5,085
患者100人あたり	5.0	-	7.4	5.3
調剤件数	150,965	-	63,409	26,197
患者100人あたり	121.4	-	63.6	27.2
解剖件数	6	-	16	3
リハビリテーション実施件数	113,521	-	3,041	47,210
入院	105,746	-	3,031	42,216
外来	7,775	-	10	4,994
患者100人あたり	91.3	-	3.0	48.9
M R I	3,999	-	4,844	3,458
C T	3,762	-	7,306	2,035
アンギオ	203	-	280	976
P E T	463	-	403	-
S P E C T	1,583	-	663	-

注1) A病院は、手術件数のみ入手。

注2) A病院は、平成13年実績(13年1月1日～12月31日)

8 脳ドック

	横浜市立 脳血管医療センター	A 病院	秋田県立 脳血管研究センター	B 病院
受診者数（人）	192	1,065	411	89
受診費用（円）	54,000	Aコース（日帰り）：35,000円 Bコース（日帰り）：50,000円 （おまけ） 高次脳機能検査（神経心理検査）：5,000円 脳血流検査（IMP-SPECT）： 100,000円	45,000	20,000

9 各病院の近隣における脳外科手術のできる高次機能病院の状況

	病院名	所在地	病床数	診療科	特徴
横浜市立脳血管医療センター	市大センター病院	神奈川県横浜市南区	720床	21科 総合内科、血液内科、呼吸器内科、腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、神経内科、小児科、総合外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科、口腔外科、矯正歯科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科、臓器移植科	地域の基幹病院 救命救急センター 8つの疾患別センター
	市大医学部附属病院	神奈川県横浜市金沢区	623床	21科 第1内科、第2内科、第3内科、神経科、小児科、第1外科、第2外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科、小児神経精神科、神経内科	特定機能病院
	国立横浜病院	神奈川県横浜市戸塚区	552床	21科 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、精神科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科	救命救急センター
A 病院	札幌医科大学医学部附属病院	北海道札幌市中央区	994床	19科 内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、産科、周産期科、小児科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、神経精神科、放射線科、麻酔科、総合診療科、歯科口腔外科、リハビリテーション科	特定機能病院 高度救命救急センター
	北海道大学医学部附属病院	北海道札幌市北区	923床	28科 第一内科、第二内科、第三内科、循環器内科、神経内科、第一外科、第二外科、循環器外科、整形外科、産科、婦人科、眼科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科神経科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、形成外科、核医学診療科、リハビリテーション科、血液内科、生体医工学・スポーツ診療科、総合診療科、小児外科、救急科	特定機能病院
	国立札幌病院	北海道札幌市白石区	550床	20科 内科(血液科、呼吸器科、消化器科、循環器科)、精神科、神経科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科(ペインクリニック)、形成外科	北海道におけるがん基幹施設
	市立札幌病院	北海道札幌市中央区	820床	22科 内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科	救命救急センター(第3次)
	北海道脳神経外科記念病院	北海道札幌市中央区	134床	4科 脳神経外科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科	24時間365日救急
	新さっぽろ脳神経外科病院	北海道札幌市厚別区	135床	2科 脳神経外科、リハビリテーション科	24時間365日救急
	積心会病院	北海道札幌市東区	142床	6科 脳神経外科、整形外科、循環器科、形成外科、麻酔科、放射線科	24時間365日救急
	秋田大学医学部附属病院	秋田県秋田市	610床	20科 第一内科、第二内科、第三内科、老年科、一般外科、胃腸外科、肝・胆・膵外科、食道外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科、小児科、心臓血管外科、脳神経外科、小児科、産科婦人科、神経科精神科、心療センター、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、疼痛外来、歯科口腔外科、リハビリテーション部	特定機能病院
秋田県立脳血管研究センター	秋田赤十字病院	秋田県秋田市	496床	18科 内科、循環器科、呼吸器科、精神科、神経内科、消化器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科	救命救急センター(第3次)
	市立秋田総合病院	秋田県秋田市	516床	21科 循環器内科、消化器内科、代謝科、呼吸器内科、血液腎臓内科、神経内科、精神科、小児科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科	24時間365日救急
	秋田組合総合病院	秋田県秋田市	479床	19科 内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	24時間365日救急
	中通総合病院	秋田県秋田市	539床	19科 内科、消化器科、循環器科、神経内科、代謝科、神経精神科、呼吸器科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、小児科、皮膚科、乳腺内分泌外科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、小児科、産科、婦人科、病理科、麻酔科	24時間365日救急
B 病院	伊勢崎市民病院	群馬県伊勢崎市	524床	19科 内科、精神神経科、神経内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科	地域の中核病院 介護老人保健施設、訪問看護ステーション併設
	伊勢崎佐波医師会病院	群馬県伊勢崎市	255床	13科 内科、外科、整形外科、脳外科、循環器科、胃腸科、放射線科、リハビリテーション科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科	救急医療センター(二次救急から一部部門においては三次救急まで対応)
	国立高崎病院	群馬県高崎市	406床	20科 内科、精神科、神経科、呼吸器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科	救命救急センター(三次救急中心)

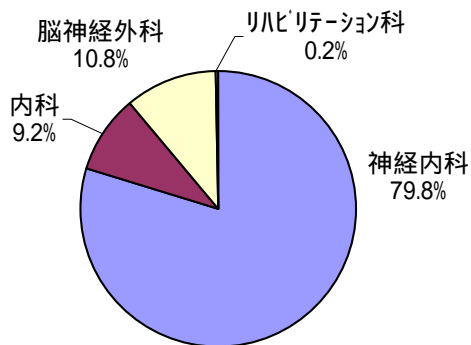
資料2 横浜市立脳血管医療センター

1 診療科別患者数

(1) 入院

(単位：人)

	延患者数			1日平均患者数		
	11年度	12年度	13年度	11年度	12年度	13年度
神経内科	29,774	59,088	72,511	122.0	161.9	198.7
内科	1,792	7,700	8,329	7.3	21.1	22.8
脳神経外科	4,636	11,190	9,838	19.0	30.7	27.0
リハビリテーション科	980	287	180	4.0	0.8	0.5
合計	37,182	78,265	90,858	152.4	214.4	248.9

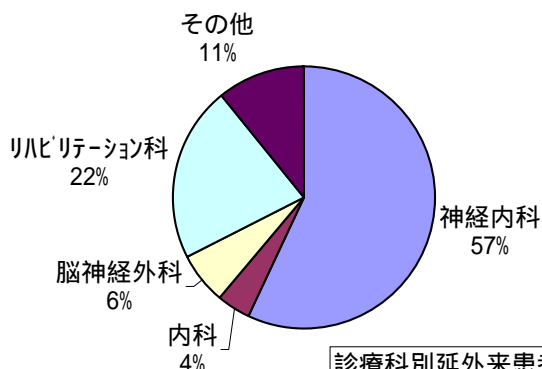


診療科別延入院患者の割合(13年度)

(2) 外来

(単位：人)

	延患者数			1日平均患者数		
	11年度	12年度	13年度	11年度	12年度	13年度
神経内科	5,099	14,038	19,078	31.5	57.3	77.9
内科	308	1,168	1,398	1.9	4.8	5.7
脳神経外科	723	1,616	2,120	4.5	6.6	8.7
リハビリテーション科	3,470	8,187	7,282	21.4	33.4	29.7
精神科	79	191	294	0.5	0.8	1.2
整形外科	25	40	24	0.2	0.2	0.1
皮膚科	34	159	305	0.2	0.6	1.2
泌尿器科	79	236	309	0.5	1.0	1.3
婦人科	0	10	14	0.0	0.0	0.1
眼科	35	278	445	0.2	1.1	1.8
耳鼻科	30	111	98	0.2	0.5	0.4
歯科	451	1,432	1,714	2.8	5.8	7.0
放射線科	11	77	225	0.1	0.3	0.9
麻酔科	0	4	1	0.0	0.0	0.0
脳ドック科	58	175	192	0.4	0.7	0.8
合計	10,402	27,722	33,499	64.2	113.2	136.7



診療科別延外来患者の割合(13年度)

2 病床利用率（病棟別、急性期・安定期別）

(上)平成13年 (下)平成12年

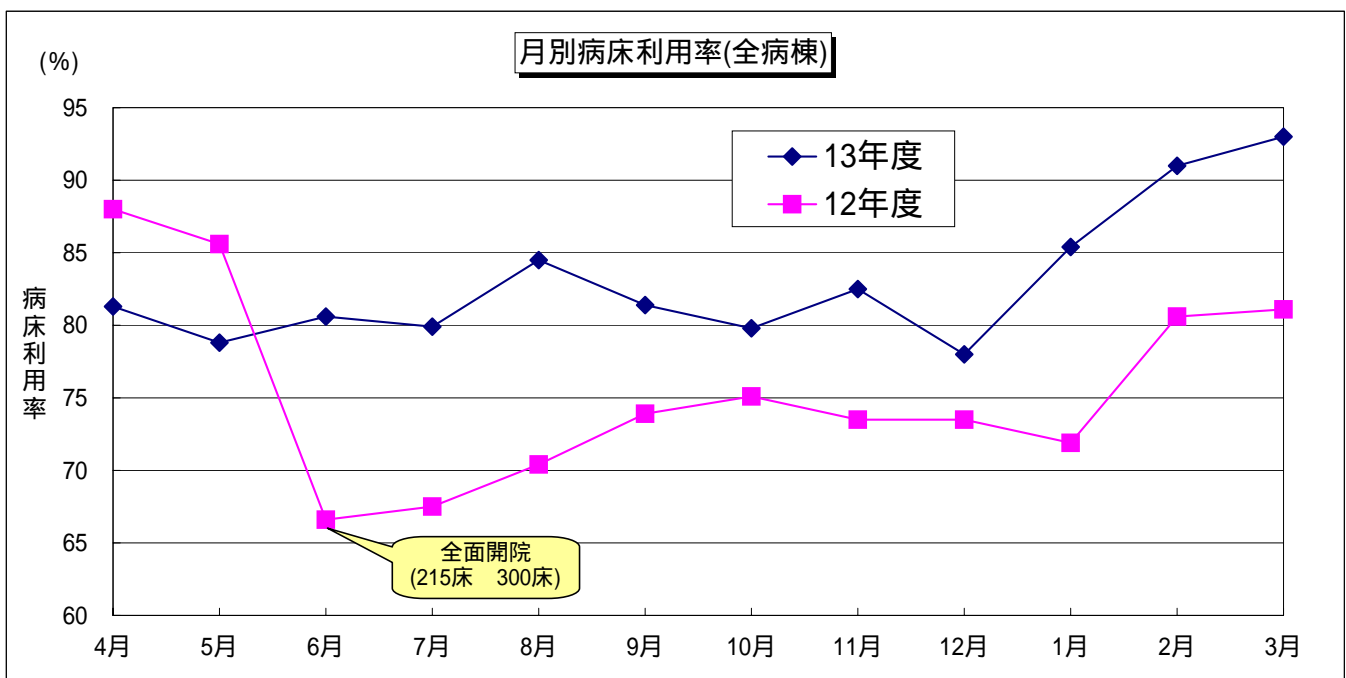
(単位：%)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
全病棟			81.3	78.8	80.6	79.9	84.5	81.4	79.8	82.5	78.0	85.4	91.0	93.0	83.0
			88.0	85.6	66.6	67.5	70.4	73.9	75.1	73.5	73.5	71.9	80.6	81.1	75.0
病棟別	安定期 (91床)	5 W (45床)	75.4	77.6	85.6	75.6	87.2	83.3	81.4	84.0	80.6	88.0	94.4	95.9	84.0
		5 E (46床)	-	-	47.6	56.1	65.9	71.9	68.3	68.5	65.3	60.3	76.9	77.6	65.8
	安定期 (98床)	4 W (49床)	77.0	76.1	86.6	82.7	83.2	81.2	75.8	85.2	72.2	84.2	91.5	95.0	82.5
		4 E (49床)	86.2	83.3	56.1	54.7	61.4	66.9	71.5	66.0	67.5	70.1	73.2	76.8	69.5
	急性期 (81床)	3 W (41床)	87.3	86.4	83.4	88.9	89.2	87.8	88.1	88.3	80.8	89.1	95.0	95.5	88.3
		3 E (40床)	95.0	91.4	84.4	80.2	78.1	88.3	78.8	82.7	79.9	72.3	87.0	91.4	84.1
	急性期	2 W (24床)	89.7	81.4	84.1	84.9	90.2	87.6	81.8	87.4	84.3	85.5	91.3	94.1	86.8
		I C U (6床)	90.1	85.8	85.5	86.4	82.6	87.3	87.2	79.1	79.9	79.6	89.7	90.3	85.3
	急性期	3 W (41床)	79.6	77.6	78.6	78.0	87.0	80.0	80.1	85.4	81.8	87.3	92.4	95.3	83.6
		3 E (40床)	86.6	84.1	64.4	64.5	65.7	57.0	71.4	70.6	72.7	72.6	77.5	77.3	72.0
	急性期	2 W (24床)	80.4	75.7	73.5	76.4	79.9	74.5	78.5	70.9	71.2	83.8	90.4	90.3	78.7
		I C U (6床)	-	-	52.9	58.1	69.1	73.0	75.2	74.3	74.4	75.0	80.4	77.6	70.9
急性期	2 W (24床)	79.6	77.7	67.9	71.2	69.9	71.0	70.3	71.4	75.4	76.3	79.3	82.0	74.3	
	I C U (6床)	79.4	86.0	77.6	76.5	67.2	66.7	74.7	73.9	76.7	74.5	77.5	71.0	74.9	
I C U (6床)	2 W (24床)	66.7	57.0	58.9	49.4	60.8	61.1	60.8	65.6	55.9	78.0	69.0	70.4	62.7	
	I C U (6床)	69.4	71.5	55.0	37.1	61.8	66.1	48.4	63.3	62.4	69.4	70.8	68.8	61.9	
急安別	安定期	安定期	82.6	83.2	84.9	83.2	87.5	85.1	81.9	86.3	79.6	86.7	93.0	95.2	85.5
		急性期	90.5	86.9	69.0	69.9	72.3	78.9	76.7	74.3	73.4	70.8	81.9	84.3	76.9
	急性期	79.2	78.3	73.4	74.4	79.3	75.0	76.3	76.1	75.2	83.2	87.6	89.3	78.7	
			82.7	82.7	62.6	63.3	67.0	65.3	72.2	72.2	73.6	73.7	78.2	75.6	71.8

平成12年6月に3 E、5 W病棟を供用開始し、215床から300床に増床

発症直後は急性期Ⅰに入院し、症状の改善とともに急性期Ⅰ 安定期Ⅰ 安定期 と移る患者が多い。

急性期Ⅰ、安定期Ⅰ、安定期Ⅱは、それぞれ2病棟に分かれているが、機能的な違いはない。



3 平均在院日数（病棟別、急性期・安定期別）

(上)平成13年 (下)平成12年

(単位：日)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
全病棟		58.1	52.1	56.3	62.7	59.8	55.7	54.6	48.3	43.3	53.7	62.7	55.4	54.8	
		57.4	55.1	45.5	60.7	59.8	59.4	55.9	50.6	45.9	58.9	61.0	57.8	55.1	
病棟別	安定期 病棟 (91床)	5 W (45床)	29.9	37.4	42.2	43.2	44.5	35.5	43.8	35.5	28.6	36.1	32.8	36.5	36.5
			-	-	24.5	48.4	40.4	47.9	35.4	39.3	32.5	45.3	32.7	45.3	38.1
		5 E (46床)	39.5	37.2	32.2	37.6	34.3	35.1	36.9	39.7	31.0	33.1	33.5	41.9	35.8
		-	-	20.4	41.7	55.1	41.3	40.6	35.2	28.0	53.8	30.0	31.0	35.0	
	安定期 病棟 (98床)	4 W (49床)	46.0	55.1	54.1	58.2	57.8	62.4	58.4	100.9	39.0	54.5	67.7	69.9	57.6
			-	-	36.9	63.6	43.3	62.6	44.1	49.2	40.0	47.1	44.3	58.9	47.7
		4 E (49床)	64.7	48.2	56.5	58.9	86.2	75.9	57.4	71.5	57.7	58.6	57.6	54.4	61.0
		-	-	42.4	70.4	64.4	85.0	60.8	45.3	42.5	51.7	63.6	52.7	55.5	
	急性期 病棟 (81床)	3 W (41床)	31.2	24.3	23.2	33.2	29.4	29.6	28.6	20.0	19.1	26.3	36.7	23.9	26.2
			-	-	28.0	36.7	29.8	26.8	31.0	26.1	26.3	29.0	24.0	31.3	28.6
		3 E (40床)	21.6	22.2	22.1	24.3	22.8	24.5	27.0	17.8	14.9	22.3	28.1	23.5	22.1
		-	-	-	18.0	29.9	27.7	31.3	28.4	23.8	18.6	22.6	23.0	23.4	24.0
	急性期 病棟(24床)	2 W	7.0	6.8	7.3	7.7	6.9	7.5	6.5	5.7	5.8	6.0	6.8	6.8	6.6
		-	-	7.8	8.7	8.3	7.7	7.3	6.8	6.4	6.9	6.8	7.1	7.3	
I C U (6床)		6.5	6.8	5.9	6.1	4.6	5.3	6.7	5.0	4.8	5.1	6.5	5.1	5.6	
		-	-	6.7	4.7	10.9	7.5	5.1	5.6	5.0	5.2	6.2	6.2	6.0	
急安別	安定期		53.4	52.5	55.0	61.8	68.3	53.3	57.8	62.7	45.6	57.4	58.8	54.5	56.3
			-	-	43.6	63.7	59.4	74.5	61.1	49.6	49.5	74.0	54.3	57.3	57.4
	急性期		26.8	23.4	27.0	29.3	27.9	26.7	30.1	22.0	20.1	26.5	29.8	26.2	26.0
		-	-	24.6	29.0	32.4	29.6	29.2	26.1	22.2	30.5	27.3	26.2	27.3	

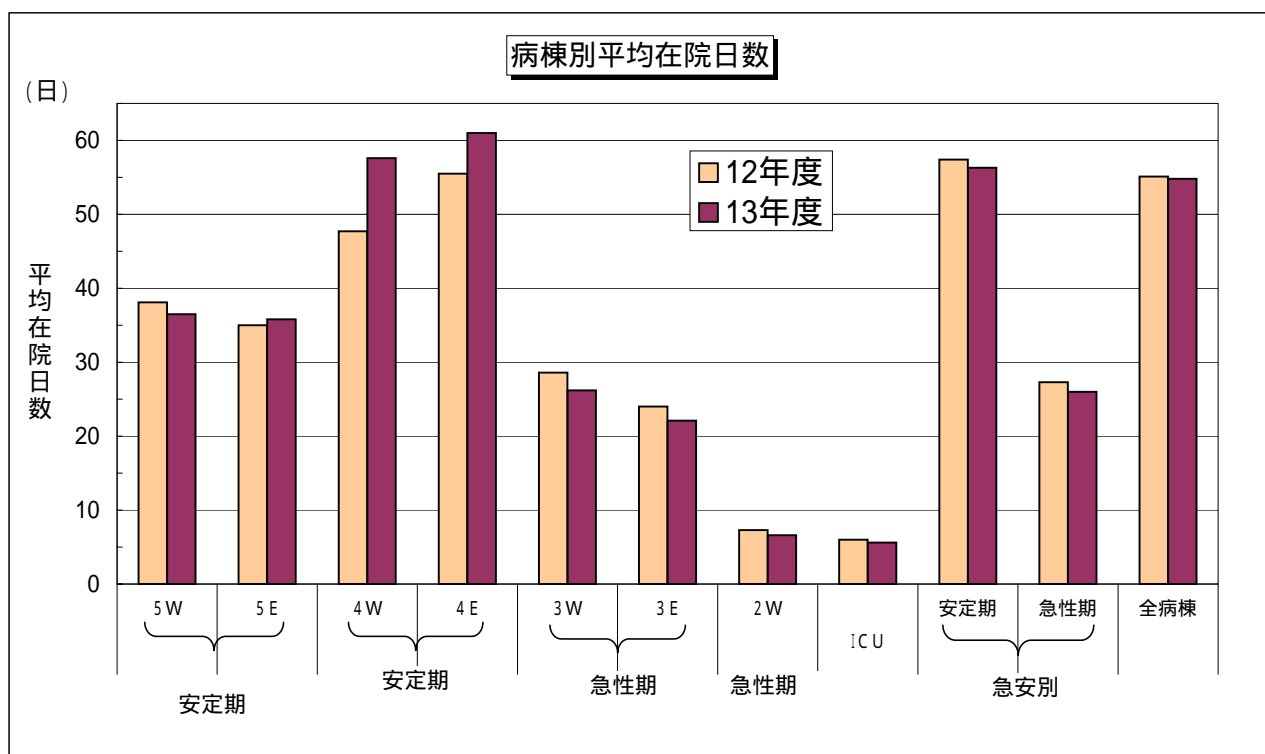
平成12年6月に3 E、5 W病棟を供用開始し、215床から300床に増床

発症直後は急性期 病棟に入院し、症状の改善とともに急性期 安定期 安定期 と移る。

他病院から、リハビリ目的で安定期病棟に転院してくる患者も多い。そのような患者は発症直後に入院した患者と比べて在院日数が長く、安定期 病棟の平均在院日数が長い原因の1つとなっている。

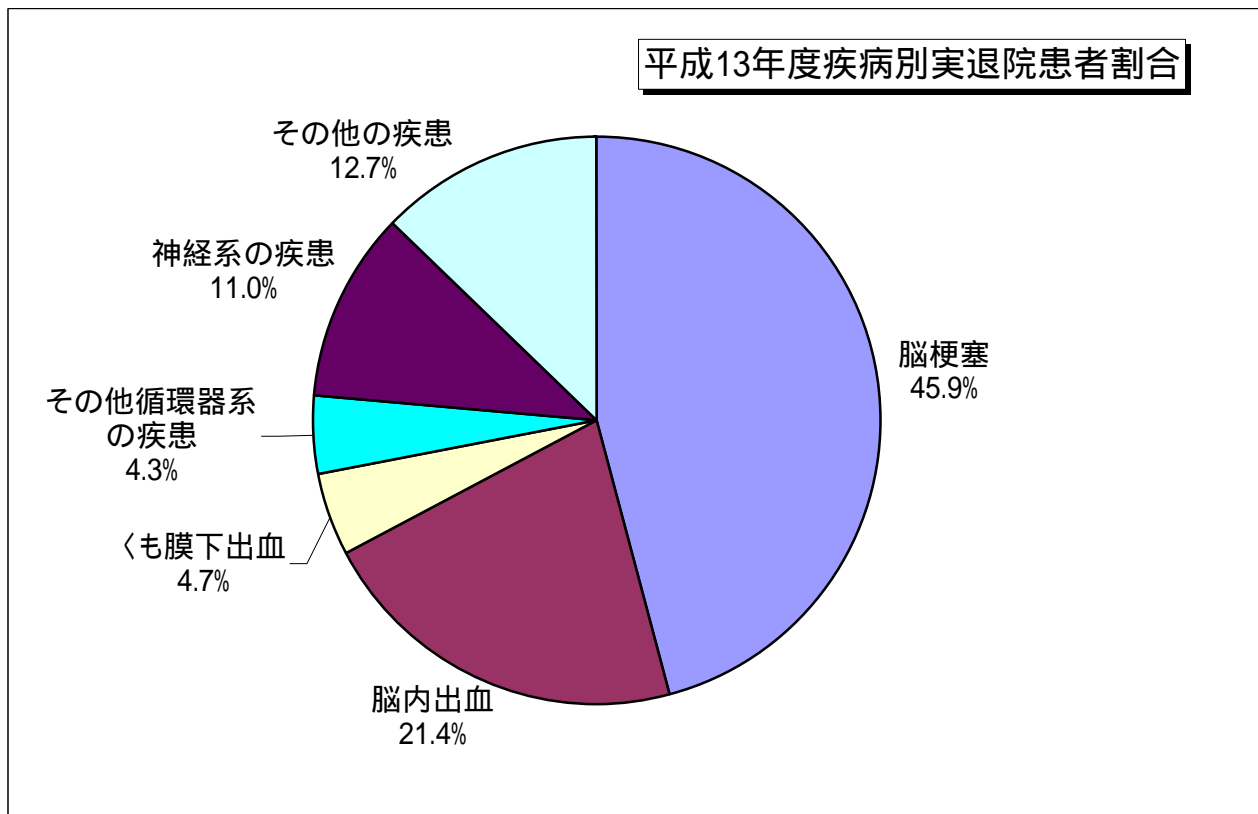
急性期、安定期、安定期は、それぞれ2病棟に分かれているが、機能的な違いはない。

平成12年4,5月は病棟別データなし



4 疾病別退院患者数

大分類コード 3桁分類	患者数(人)		
	男	女	計
感染症および寄生虫症	4	2	6
新生物	10	4	14
内分泌、栄養および代謝疾患	10	10	20
精神および行動の障害	12	5	17
神経系の疾患	98	84	182
眼および付属器の疾患	3	1	4
耳および乳様突起の疾患	20	17	37
循環器系の疾患			
I60 くも膜下出血	32	46	78
I61 脳内出血	207	147	354
I63 脳梗塞	472	288	760
その他	41	31	72
小計	752	512	1,264
呼吸器系の疾患	11	7	18
消化器系の疾患	3	4	7
皮膚および皮下組織の疾患	1	0	1
筋骨格系および結合組織の疾患	1	0	1
尿路性器系の疾患	1	2	3
先天奇形、変形および染色体異常	4	9	13
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	29	26	55
損傷、中毒およびその他の外因の影響	8	2	10
傷病および死亡の外因	1	2	3
健康状態に影響をおよぼす要因および保険サービスの利用	0	1	1
合計	968	688	1,656

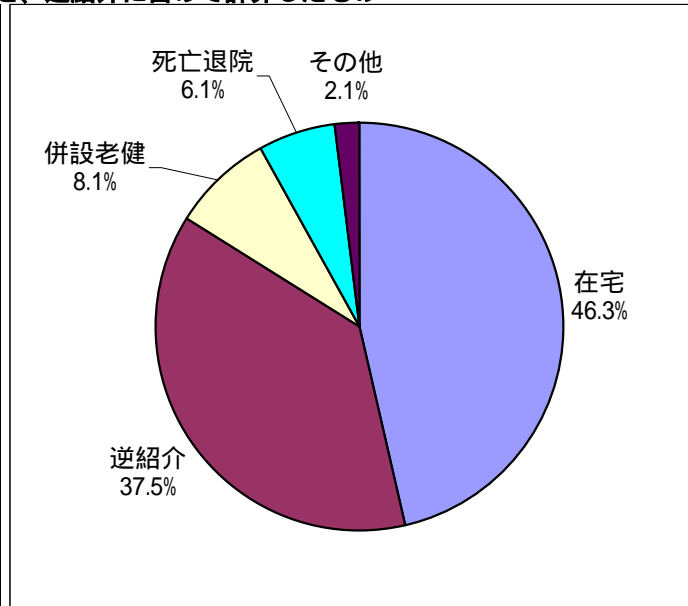


5 退院患者に占める他医療機関転院等に係る比率

【集計1】

逆紹介患者のうち、「診療所」、「あて先なし」を、逆紹介に含めて計算したもの

項目	退院患者数(人)	率
在宅	765	46.3%
逆紹介	619	37.5%
市内	396	24.0%
病院	241	14.6%
診療所	155	9.4%
県内病院 1	73	4.4%
県外病院 1	27	1.6%
あて先なし 2	123	7.4%
併設老健	134	8.1%
死亡退院	100	6.1%
その他	34	2.1%
他施設老健	20	1.2%
特別養護老人ホーム	6	0.4%
グループホーム	3	0.2%
その他	5	0.3%
合計	1,652	100.0%

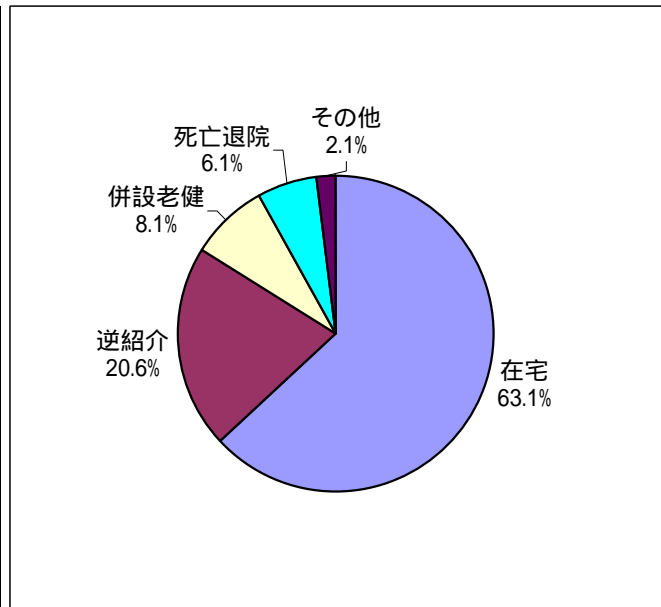


- 1 逆紹介の区分「病院」については療養型病床群と一般病床を擁する病院が含まれているが、両者の区分は不明
- 2 診療情報提供書に医療機関名の記載がないもの

【集計2】

逆紹介患者のうち、「診療所」、「あて先なし」については、実質的に在宅の区分に該当するため、在宅に含めて計算したもの

項目	退院患者数(人)	率
在宅	1,043	63.1%
逆紹介	341	20.6%
市内	241	14.6%
病院	241	14.6%
診療所	在宅に算入	
県内病院 1	73	4.4%
県外病院 1	27	1.6%
あて先なし 2	在宅に算入	
併設老健	134	8.1%
死亡退院	100	6.1%
その他	34	2.1%
他施設老健	20	1.2%
特別養護老人ホーム	6	0.4%
グループホーム	3	0.2%
その他	5	0.3%
合計	1,652	100.0%



- 1 逆紹介の区分「病院」については療養型病床群と一般病床を擁する病院が含まれているが、両者の区分は不明
- 2 診療情報提供書に医療機関名の記載がないもの

6 術式別手術件数

オペ室で行われた手術

術式名	件数(件)
V Pシャント術	10
開頭血腫除去術	3
脳動脈瘤クリッピング術	44
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄ドレナージ術	18
脳内血腫除去術	2
脳動脈奇形摘出術	2
V Pシャント抜去術	1
慢性硬膜下血腫術	1
開頭腫瘍摘出術	2
減圧開頭術	4
定位脳手術	3
頭蓋骨形成術	6
合 計	96

(参考) オペ室以外で行われた手術 (医科点数表区分内の手術)

術式名	件数(件)
胃瘻造設術 (経皮的内視鏡下胃瘻造設術を含む。)	46
気管切開術	10
血管結紮術 (その他のもの)	1
四肢の血管拡張術・血栓除去術	4
食道異物摘出術 (内視鏡によるもの)	1
創傷処理 (長径 5 cm以上10cm未満 筋肉、臓器に達しないもの)	2
創傷処理 (長径 5 cm未満 筋肉、臓器に達しないもの)	4
内視鏡的消化管止血術	11
内視鏡的食道下部および胃内部異物摘出術	1
肉芽腫摘出術	2
皮膚切開術 (長径 1 0 cm未満)	3
血管塞栓術 (頭部の血管に対するもの)	1
脳血管内手術	7
合 計	93

7 リハビリテーション実施状況

リハビリ実施日数は245日

		実施患者数 (人)	1日あたり (人)	患者全体に 対する実施率
理学療法	入院	49,100	200.4	80.5%
	急性期	14,052	57.4	65.7%
	安定期	35,048	143.1	88.5%
	うちベッドサイド	8,297	33.9	13.6%
	急性期	6,453	26.3	30.2%
	安定期	1,844	7.5	4.7%
	うち訓練室	40,803	166.5	66.9%
	急性期	7,599	31.0	35.5%
	安定期	33,204	135.5	83.9%
	外来	1,897	7.7	5.5%
合計	50,997	208.2		
作業療法	入院	44,375	181.1	72.8%
	急性期	10,880	44.4	50.8%
	安定期	33,495	136.7	84.6%
	うちベッドサイド	7,862	32.1	12.9%
	急性期	5,153	21.0	24.1%
	安定期	2,709	11.1	6.8%
	うち訓練室	36,513	149.0	59.9%
	急性期	5,727	23.4	26.8%
	安定期	30,786	125.7	77.8%
	外来	2,583	10.5	7.5%
合計	46,958	191.7		
言語療法	入院	10,613	43.3	17.4%
	急性期	2,405	9.8	11.2%
	安定期	8,208	33.5	20.7%
	外来	2,734	11.2	8.0%
	合計	13,347	54.5	
心理療法	入院	1,476	6.0	2.4%
	急性期	278	1.1	1.3%
	安定期	1,198	4.9	3.0%
	外来	561	2.3	1.6%
	合計	2,037	8.3	
総計	入院	105,564	430.9	173.1%
	急性期	27,615	112.7	129.0%
	安定期	77,949	318.2	196.9%
	外来	7,775	31.7	22.7%
	合計	113,339	462.6	

(参考) 総患者数

	延患者数 (人)	1日あたり (人)
入院	90,858	248.9
急性期	31,886	87.4
安定期	58,972	161.6
外来	34,254	139.8
合計	125,112	

入院診療日数 365 日
 外来診療日数 245 日

資料3 A病院

術式別手術件数

集計期間:平成13年(13年1月1日～12月31日) A病院ホームページより

科別	術式名		件数
脳神経外科直達手術	血管病変等	脳動脈瘤クリッピング術	111
		未破裂脳動脈瘤	44
		破裂脳動脈瘤	67
		頸部内頸動脈内膜剥離術	20
		バイパス術	6
		脳動静脈奇形摘出術	5
		頭蓋内・脳内血腫除去術	34
	脳腫瘍等	頭蓋内腫瘍摘出術	74
		頭蓋内腫瘍摘出術	61
		広範囲頭蓋底腫瘍摘出術	9
		頭蓋内腫瘍部分摘出術	4
		聴神経腫瘍摘出術	5
		経鼻の下垂体腫瘍摘出術	6
	外傷等	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	62
		急性硬膜上(下)血腫除去術	19
		頭皮下血腫除去術	6
	その他	V-P・V-Aシャント術	27
		脳室ドレナージ	26
		頭蓋形成術	21
		脳・脊髄刺激装置埋込み術	15
		硬膜上(下)・頭皮下膿瘍除去術	11
		顔面神経除圧術	7
		内視鏡的第三脳室開窓術	7
		減圧開頭術	4
		その他	56
		小計	
	脊椎外科	椎弓・椎体固定術	25
椎弓・椎体切除術		8	
小計		49	
血管内手術	血管内コイル塞栓術	19	
	血管内ステント留置術	3	
	その他	18	
	小計	40	
ガンマナイフ	転移性脳腫瘍	296	
	聴神経腫瘍	37	
	髄膜腫	36	
	その他	73	
	小計	442	
心臓血管外科	ペースメーカー電池交換術	15	
	ペースメーカー埋込み術	9	
	胃瘻造設術	13	
	その他	23	
	小計	60	
整形外科	人工骨頭置換・挿入術	10	
	骨折観血的整復術(四肢)	59	
	骨内異物・プレート除去術(口腔外科含)	26	
	その他	62	
	小計	157	
口腔外科	骨折観血的整復術(鼻・頬・顎等)	28	
	その他	8	
	小計	36	
手術件数合計		1,306	

資料4 秋田県立脳血管研究センター

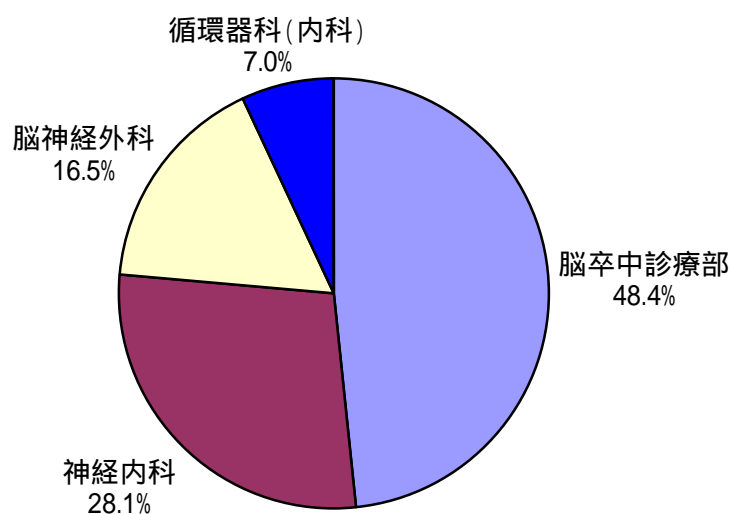
1 診療科別患者数

(1) 入院

		10年度		11年度		12年度		13年度	
		患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比
脳卒中診療部	新規患者	557	34.3%	728	44.3%	716	47.2%	752	53.7%
	延患者数	13,674	33.2%	13,103	34.3%	13,674	38.7%	18,899	48.4%
	1日平均	37.5	33.2%	35.8	34.3%	37.5	38.7%	51.8	48.4%
神経内科	新規患者	392	24.1%	351	21.4%	311	20.5%	233	16.6%
	延患者数	12,299	29.9%	12,688	33.2%	11,684	33.1%	10,985	28.1%
	1日平均	33.7	29.9%	34.7	33.2%	32.0	33.1%	30.1	28.1%
脳神経外科	新規患者	359	22.1%	362	22.0%	330	21.8%	312	22.3%
	延患者数	8,373	20.3%	8,519	22.3%	6,513	18.4%	6,438	16.5%
	1日平均	22.9	20.3%	23.3	22.3%	17.8	18.4%	17.5	16.4%
循環器科 (内科)	新規患者	265	16.3%	201	12.2%	159	10.5%	103	7.4%
	延患者数	5,049	12.3%	3,883	10.2%	3,465	9.8%	2,734	7.0%
	1日平均	13.8	12.2%	10.6	10.2%	9.5	9.8%	9.5	8.9%
放射線科	新規患者	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	延患者数	4	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%
	1日平均		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
老年内科	新規患者	50	3.1%	-	-	-	-	-	-
	延患者数	1,760	4.3%	-	-	-	-	-	-
	1日平均	4.8	4.3%	-	-	-	-	-	-
合計	新規患者	1,625		1,642		1,516		1,401	
	延患者数	41,159		38,193		35,336		39,057	
	1日平均	112.8		104.4		96.8		107.0	
退院患者数		1,607		1,683		1,506		1,404	
平均在院日数		25.5		23.0		23.4		27.8	

(注)老年内科は、平成10年度で廃止

診療科別延べ入院患者数の割合(平成13年度)

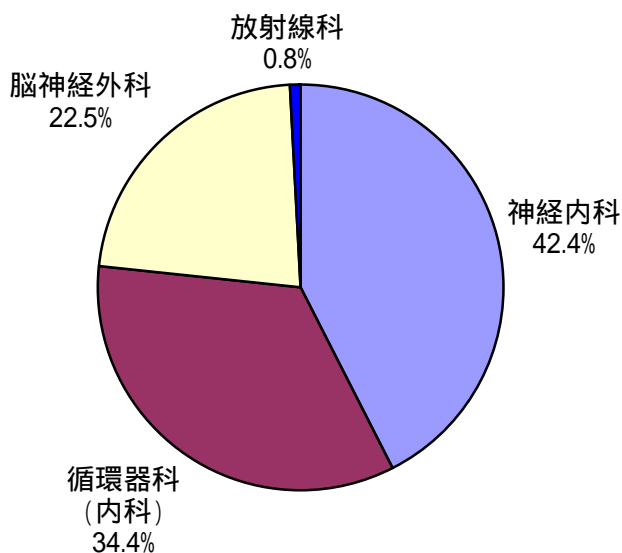


(2) 外来

		10年度		11年度		12年度		13年度	
		患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比
神経内科	新規患者	1,896	46.6%	1,593	44.9%	2,120	46.7%	1,916	41.4%
	延患者数	27,648	40.3%	27,017	40.4%	27,939	42.9%	25,698	42.4%
	1日平均	112.8	40.3%	110.7	40.4%	114.0	42.9%	104.9	42.4%
循環器科 (内科)	新規患者	444	10.9%	358	10.1%	432	9.5%	382	8.3%
	延患者数	23,117	33.7%	23,981	35.9%	22,239	34.2%	20,853	34.4%
	1日平均	94.4	33.7%	98.3	35.9%	90.8	34.2%	85.1	34.4%
脳神経外科	新規患者	1,434	35.2%	1,249	35.2%	1,720	37.9%	1,910	41.3%
	延患者数	15,798	23.0%	15,477	23.1%	14,563	22.4%	13,642	22.5%
	1日平均	64.4	23.0%	63.4	23.1%	59.4	22.4%	55.7	22.5%
放射線科	新規患者	261	6.4%	344	9.7%	268	5.9%	418	9.0%
	延患者数	277	0.4%	401	0.6%	341	0.5%	468	0.8%
	1日平均	1.1	0.4%	1.6	0.6%	1.4	0.5%	1.9	0.8%
老年内科	新規患者	35	0.9%	-	-	-	-	-	-
	延患者数	1,746	2.5%	-	-	-	-	-	-
	1日平均	7.1	2.5%	-	-	-	-	-	-
合計	新規患者	4,070		3,544		4,540		4,626	
	延患者数	68,586		66,876		65,082		60,661	
	1日平均	279.9		274.1		265.6		247.6	

(注)老年内科は、平成10年度で廃止

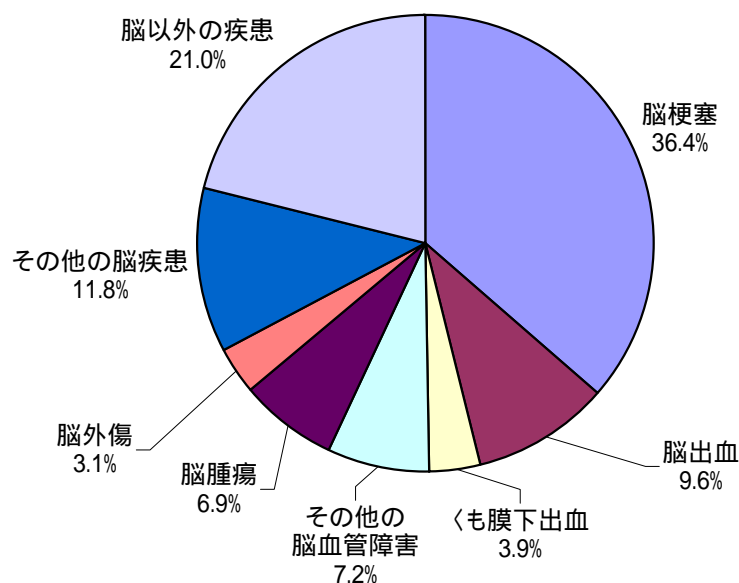
診療科別延べ外来患者数の割合(平成13年度)



2 疾患別入院患者数(新患)

		10年度		11年度		12年度		13年度	
		患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比	患者数(人)	構成比
脳卒中	脳梗塞	432	26.6%	542	32.9%	505	34.4%	509	36.4%
	脳出血	147	9.0%	132	8.0%	134	9.1%	134	9.6%
	くも膜下出血	61	3.8%	57	3.5%	35	2.4%	54	3.9%
	小計	640	39.4%	731	44.4%	674	45.9%	697	49.9%
その他の脳血管障害		170	10.5%	137	8.3%	185	12.6%	101	7.2%
脳腫瘍		57	3.5%	69	4.2%	60	4.1%	97	6.9%
脳外傷		51	3.1%	59	3.6%	51	3.5%	44	3.1%
その他の脳疾患		146	9.0%	233	14.2%	137	9.3%	165	11.8%
脳以外の疾患		561	34.5%	416	25.3%	363	24.7%	294	21.0%
総計		1,625		1,645		1,470		1,398	

疾患別入院患者の割合(平成13年度)



3 術式別手術件数

診療科はすべて脳外科

(単位：件)

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
脳動脈瘤	112	103	116	91	73
能動静脈奇形	21	15	21	12	24
脳出血	2	5	2	1	3
血管吻合	7	1	2	1	2
内膜剥離術	3	3	4	6	1
脳腫瘍	42	38	36	43	35
頭部外傷	1	3	2	0	0
慢性硬膜下出血	41	38	46	36	27
脳膿瘍	0	0	0	0	2
神経血管減圧術	11	13	7	8	7
減圧開頭術	7	6	4	5	4
頭蓋形成術	5	6	9	10	5
シャント術	30	34	35	25	18
バイパス	0	0	0	0	0
脳室ドレナージ	8	3	5	10	0
脊椎手術	0	0	2	0	1
血管内手術	0	0	14	5	0
その他	11	19	24	0	4
計	301	287	329	253	206

13 市民の健康危機への対応

1 これまでの主な対応

年 月	事 象	具 体 的 対 応 等
平成7年1月	阪神・淡路大震災への対応	市立病院及び市立大学病院の医師、看護師を中心とした医療応援チームを編成し、被災地に派遣 第一次(1月18日発、1月22日帰浜)【5班 32名】 5班編成で5つの保健所区域で診療にあたる 第二次(1月24日から3月1日まで)【12チーム92名】 長田区御倉小学校に、医療応援チームを4日単位で派遣し、継続した診療にあたる。
平成7年4月	横浜駅等の異臭事件への対応 (横浜駅西口、横浜ビブレ、JR関内及び石川町駅)	異臭事件に遭遇した被災者の救急受入 ・ 受入病院 …… 市民病院、港湾病院、市大浦舟病院及び市内5つの民間病院で対応 ・ 救急患者数 …… 約130人
平成10年9月	和歌山県で発生した集団食中毒(ヒ素)への対応	市内で発生する中毒事故へ迅速・的確に対応するため、解毒剤を備蓄と併せ、他の医療機関への提供体制を整備 ・ 解毒剤の種類 …… チオ硫酸ナトリウム、PVL、PVMなど10種 ・ 備蓄量 …… 100人分 ・ 備蓄場所 …… 市大病院救命救急センターほか、市内2か所の救命救急センターに分散備蓄し、他の医療機関の要請に応じて解毒剤を提供 ・ 対応する中毒物質… シアン、ヒ素等の化学薬品、有機リン剤等の農薬に含まれる17種の中毒物質
平成11年9月	茨城県東海村核燃料工場事故への対応	核燃料工場事故により被爆の疑いのある市民に対し、市立病院、市立大学病院及び地域中核病院において受診希望者を受入 ・ 対応状況 …… 放射線科外来への受診及び電話問い合わせ ・ 受診内容 …… 被爆線量の測定及び血液検査等
平成13年10月	炭疽菌等の生物テロに対する対応	炭疽菌等の生物テロ事件に即応するため、市立5病院及び4地域中核病院に薬剤を備蓄 ・ 備蓄薬剤 …… 予防内服薬、治療注射薬 ・ 備蓄量 …… 3,000人日分

2 災害時に対応した備蓄等

	市民病院	港湾病院	新港湾病院	脳血管医療センター
1 自家発電	500kw 2台 白灯油 60,000ℓ 60時間稼働	300kw 1台 軽油 1,600ℓ 23時間稼働	1,150kw 1台 500kw 2台 軽油 130,000ℓ 168時間稼働	1,000kw 1台 300kw 2台 白灯油 90,000ℓ 173時間稼働
2 水	受水槽 200ℓ 雑用水槽 800ℓ	受水槽 280ℓ	受水槽 800ℓ 雑用水槽 1,200ℓ	受水槽 150ℓ 雑用水槽 510ℓ

各病院では、食料について通常量の3日分、医薬品は通常量の7日分について、それぞれ備蓄

1 4 市立病院と他の医療機関との連携について

1 医療機関連携推進事業（参考1）

横浜市の医療機関相互の連携促進を目的として、行政・市医師会・市病院協会・中核病院・市民等の代表者で構成する「横浜市医療機関連携推進本部」を設置しています。

また、円滑な患者紹介を中心とした連携システムの更なる普及・定着・利用促進を図るため、同本部の下部組織である「横浜市医療機関連携推進協議会」が運営する「地域医療連携センター」を中心として、次の事業を実施しています。

- (1) 「医療機関情報データベース」の管理
- (2) 市民及び医療機関へのインターネットによる医療機関情報の提供及び事業の周知、広報の実施
- (3) 統一紹介状の作成・配布・普及・促進
- (4) 各区単位での病院・診療所相互の医師等による病診連携促進検討会の実施

2 医師会、病院協会等との連携による救急医療応需体制の整備（参考2）

救急患者が発生した場合の受入体制を初期救急から第3次救急の3段階に分け、市医師会・市病院協会・市歯科医師会・市薬剤師会などの関係団体の協力を得て、体系的・機能的に整備を進めています。

また、これらの機能が有機的に連携するよう、横浜市救急医療情報センターを設置し、情報提供を行っています。

3 横浜市立病院「医療の質」向上推進会議（参考3）

衛生局所管病院と市立大学病院とで、次の事項について連携、推進、情報交換を図ることにより、それぞれの病院が提供する医療の質の向上を図ることを目的として、設置しています。

- (1) 安全対策の推進について
- (2) 患者中心の医療の推進について
- (3) 開かれた病院運営の推進について
- (4) その他医療の質の向上策について

4 各市立病院独自の取組（参考4）

患者紹介システムの整備や医療連携室等を設置するとともに、地域医師会等との連絡協議会の設置、合同カンファレンスの実施など、連携の促進に努めています。

(参考1) 医療機関連携推進事業の概要

1 横浜市医療機関連携推進本部

行政・市医師会・市病院協会・中核病院・市民等の代表者で構成し、医療機関相互の連携の推進策等を検討するとともに、各関係機関の調整を行います。

2 横浜市医療機関連携推進協議会

連携推進本部の下部組織として、具体的な地域医療連携センターの実施事業などを検討する組織として機能します。

3 地域医療連携センター

全市的な視点にたち、医療機関の機能分担・連携を推進する中心的な機関として、市民や医療機関からの市内医療施設に関する診療機能情報の照会に応じ、そのための最新の情報管理を行っています。その他、市民・医療関係者への啓発広報活動や、統一紹介状の利用の普及促進を図るなど、必要な環境整備を行います。

- (1) 設置場所 横浜市医師会内
- (2) 運営体制 医師会常勤職員3名
- (3) 実施事業

ア 「医療機関情報データベース」の管理

市医師会・市病院協会加入の全医療機関の情報（医療機関名、所在地、交通アクセス、標榜科目、診療時間、休診日、専門分野、検査・治療機器、特色等）を地図情報（道路地図・住宅地図）システムと組み合わせ、医療機関の所在地を表示する地図付きの「医療機関情報データベース」を管理する。

イ 市民及び医療機関へのインターネットによる医療機関情報の提供及び事業の周知、広報の実施

ウ 統一紹介状の作成・配布・普及・促進

エ 各区単位での病院・診療所相互の医師等による病診連携促進検討会の実施

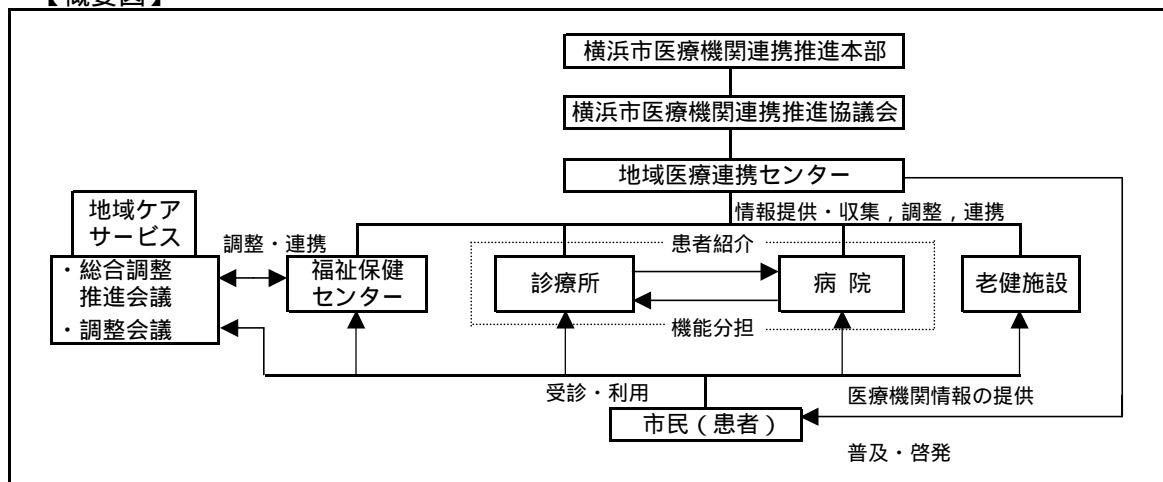
連携システム参加医療機関数（13年11月30日現在）

	参加数	参加率（%）
病院	114	79.2
診療所	1,878	79.1

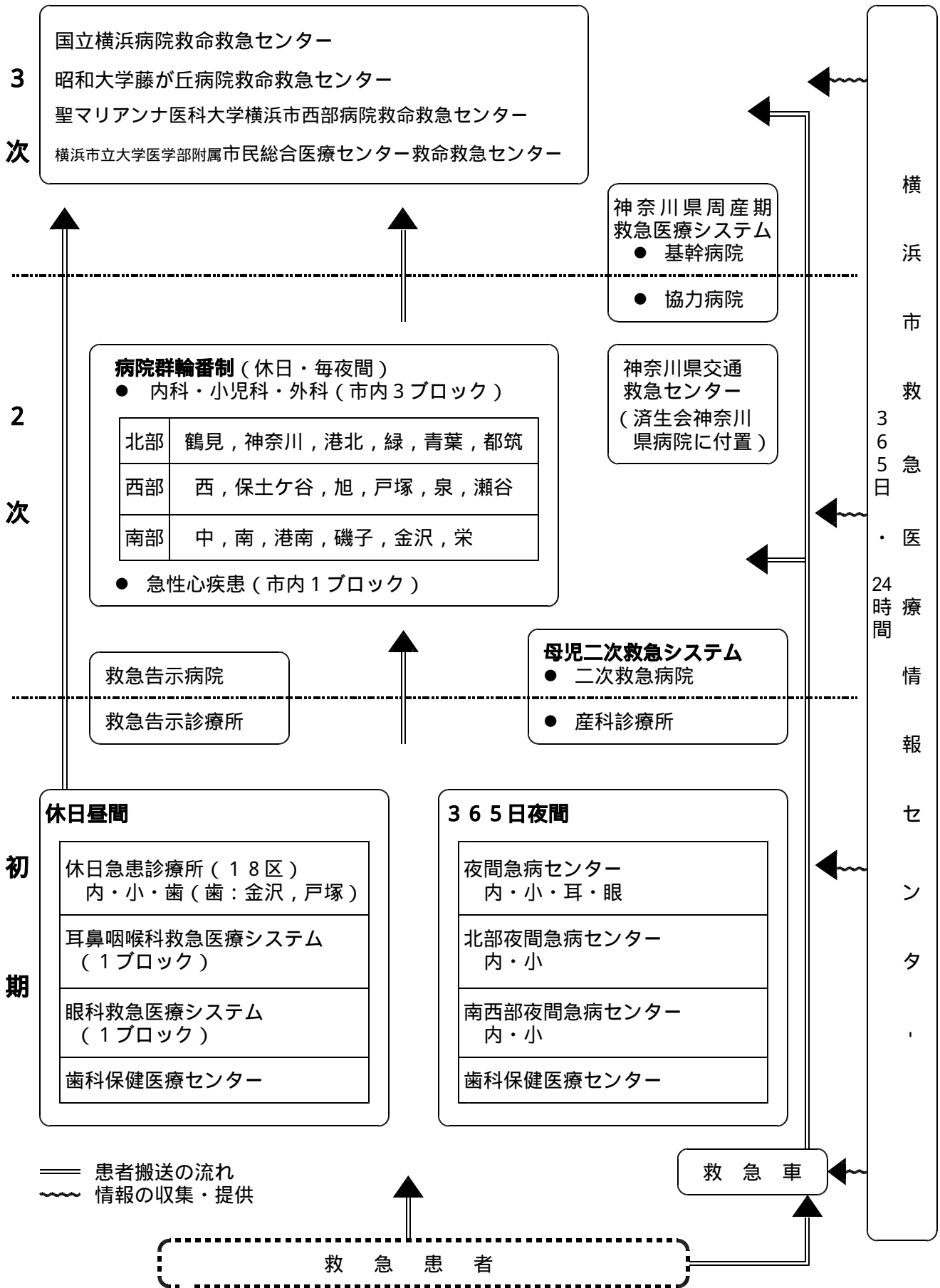
連携システム参加医療機関の患者取扱実績

	10年度	11年度	12年度
紹介患者取扱実績総数（件）	137,992	157,339	173,803
うち、統一紹介状利用実績（件）	41,593	55,022	63,146
統一紹介状利用率（%）	30.1%	35.0%	36.3%

【概要図】



(参考2) 横浜市の救急医療体系図



(参考3) 横浜市立病院「医療の質」向上推進会議の概要

1 所管事項

- (1) 安全対策の推進について
- (2) 患者中心の医療の推進について
- (3) 開かれた病院運営の推進について
- (4) その他医療の質の向上策について

2 委員

助 役	
衛生局	衛生局長 市民病院長 港湾病院長 脳血管医療センター長 アレルギーセンター所長
市立大学	市立大学事務局長 市立大学医学部附属病院長 市立大学医学部附属市民総合医療センター病院長

3 開催実績

回	開催年月日	議 題
第1回	平成11年11月29日	横浜市立病院医療憲章について 情報の共有化について
第2回	平成12年1月27日	横浜市立病院医療憲章について
第3回	平成13年2月13日	医療事故公表基準について 平成12年度市立病院安全管理の取組について

4 主な成果

- (1) 横浜市立病院医療憲章の制定
- (2) 医療事故公表基準の統一
- (3) 診療情報提供指針の策定（取組中）

(参考4) 各市立病院独自の取組

取組項目	市民病院	港湾病院	脳血管医療センター
患者紹介システムの整備	紹介患者経過報告書の返送 病診連携促進委員会の開催 地域医療連携室の設置 ・ファックスによる紹介の窓口 ・紹介患者経過報告書、逆紹介の取りまとめ	紹介患者経過報告書の返送 医療連携推進委員会の開催 ファックスによる診療の事前申し込み 放射線検査の事前予約 紹介入院患者訪問システム	紹介患者経過報告書の返送 医療相談室の設置 ・入院患者の在宅移行支援・転院補助 ・訪問看護ステーションとの連携窓口等 紹介・予約制の実施
受診案内等の発行	「診療のご案内」の発行	「診療のご案内」の発行	「診療のご案内」の発行
地域医師会等との 連絡協議会等の設置	市民病院連絡部会の開催(年1回) 市民病院病診連携交流会	港湾病院連絡部会(年1回) 病診連携を考える会(年1回不定期) 港湾病院病診連携連絡会(年5,6回)	横浜市立病院連絡協議会で全市的に対応
地域医師会医師等との 合同カンファレンス等の実施	病診連携カンファレンスの開催(年4回) 周辺3病院との持ち回りで開催 木曜日に肺がんを読む会(年7回) 横浜市西部小児科懇話会(年3回) 横浜市母児二次救急システム横浜市市民病院 連絡会 消化管X線読影勉強会	中区医師会及び港湾病院合同医学研究会の 開催(年1回) 中区・磯子区有志による心電図読影会(不定 期) 中区医学フォーラムの開催(年1回) 中区医師会等と共催	磯子区医師会脳血管医療センター勉強会 (年2回)
高度医療機器利用の連携	MRI、CT等の検査を目的とした外部からの診 療依頼に対応。	MRI、CT等の検査を目的とした外部からの診 療依頼に対応。	ポジトロン断層撮影(PET検査)を目的とした外部 からの診療依頼に対応。
年度	紹介患者数(人) (うち救急車搬送数)	紹介患者数(人) (うち救急車搬送数)	紹介患者数(人) (うち救急車搬送数)
平成8年度	9,497 (2,298)	3,366 (776)	
平成9年度	10,050 (2,384)	3,811 (876)	
平成10年度	12,064 (4,065)	4,573 (976)	
平成11年度	12,853 (4,215)	4,568 (1,131)	1,663 (420)
平成12年度	13,420 (4,544)	4,384 (1,155)	2,213 (770)
平成13年度	13,299 (4,520)	4,370 (1,225)	2,501 (940)
紹介率	紹介率	紹介率	紹介率
31.8%	19.9%	15.9%	
34.4%	24.5%	21.7%	
43.8%	27.7%	24.9%	
41.1%	30.7%	27.2%	81.3%
43.5%	31.8%	27.0%	76.1%
49.3%	33.7%	28.1%	78.1%
逆紹介率	逆紹介率	逆紹介率	逆紹介率
31.8%	31.8%	33.9%	
34.4%	34.4%	54.0%	
43.8%	43.8%	70.5%	
41.1%	41.1%	86.9%	32.7%
43.5%	43.5%	78.1%	60.3%
49.3%	49.3%	73.2%	89.4%

(注1) 紹介率 = (文書による紹介患者数 + 救急車搬送数) ÷ 初診患者数

逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 文書による紹介患者数

(注2) 脳血管医療センターは、平成11年8月開院

1 5 横浜市立病院医療憲章

私たちは、病院を利用される市民の皆様が、質の高い医療サービスを安心して安全に受けることができるよう、次の5項目を推進してまいります。

- 1 患者さんの声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた、医療サービスを提供してまいります。
- 2 患者さんの知る権利を尊重してまいります。
- 3 インフォームドコンセント（説明と、患者さんの理解・選択に基づく同意）を的確に行い、患者さんの自己決定権を尊重してまいります。
- 4 患者さんのプライバシーを尊重してまいります。
- 5 医療に関して、高い倫理観、十分な知識、確かな技術を持ち、さらなる研鑽に努めてまいります。

平成12年 1月27日

1 6 衛生局市立病院における 医療事故の公表について

平成13年3月

衛生局医療事故公表基準作成委員会

衛生局市立病院における医療事故の公表について

1 はじめに

平成11年1月に横浜市立大学医学部附属病院で起きた患者取り違え事故は、市民の間に大きな波紋を呼び起こしました。

また、それ以来、全国各地の病院での医療事故が続々と報道され、医療における安全性の問題は、国民的な関心事となっています。

そこで問われているのは、単に、これまで医療界が患者の安全について十分取り組んでこなかったということばかりでなく、その背景となる病院の組織とその運営体制・方法、医療従事者と患者・家族との関係、医療従事者の意識等、より本質的な問題にまで及んでいます。

我々は、これら市民の問いに対し、真摯に応えていく義務があります。

今回策定した「衛生局市立病院における医療事故の公表について」は、その取組の一つです。

市民病院、港湾病院、脳血管医療センター、アレルギーセンターの各病院は、今後これを適切に運用することにより、市民の信頼に応えていくことが求められています。

2 医療事故公表の意義

医療事故を公表することには、次のような意義があります。

「4 医療事故の公表基準」については、この意義を十分踏まえ運用を行うことが必要です。

病院が、自発的に医療事故を公表することにより、その病院においては、

- ・院内における患者の安全管理の質を高めることに役立ちます。
- ・病院運営の透明性が高まります。
- ・結果として、病院に対する市民の信頼を高めることができます。

また、他の病院にとっても、

- ・その病院の患者の安全管理の質を高めるための重要な情報になります。

以上のことを考えると、医療事故を公表することは、安全で質の高い医療の提供をめざす病院にとって、社会的責任であるといえます。

3 用語の定義

(1) 医療事故

患者さんが本来持っていた疾病や体質などの基礎的条件によるものではなく、医療において、その目的に反して生じた有害な事象をさします。

医療事故には、

- ・医療内容に問題があって起きたもの（過失による医療事故）と、
- ・医療内容に問題がないにもかかわらず起きたもの（過失のない医療事故）

とがあります。

(2) インシデント事例

医療従事者が医療を行ううえで、“ヒヤリ”としたり、“ハッ”とした経験で、医療事故には至らなかった事例をいいます。

4 医療事故の公表基準

- (1) 次のいずれかに該当する医療事故が発生した場合は、患者さんにご家族の同意の下に、速やかに公表します。
公表にあたっては、原則として、「5の委員会」の意見を聞くものとします。
 - ア 過失による医療事故で、それが、
 - ・「死因となった」場合、もしくは、
 - ・「生命の危険等、深刻な病状悪化をもたらす」、
 - ・「治療しても治癒しない」、
 - ・「治癒するが、かなりの負担を強いる」など、患者さんに相当の有害な結果を生じた場合。
 - イ 過失による医療事故で、有害な事象の程度が軽微であっても、病院の医療安全管理上重大であると判断される場合。
 - ウ 患者さんに相当の有害な結果を生じた医療事故で、過失によることが明らかでなくとも、公表すべきと判断される場合。
- (2) (1)以外の過失による医療事故は、包括的な形で一括して公表します。
- (3) インシデント事例は原則として公表しません。

5 医療事故の公表の判断・判定について

起こった医療事故が、この公表基準に該当するかどうか等については、病院長が判断して決定しますが、その判断及び公表の方法等の適正を期するため、外部の有識者で構成する、衛生局長の諮問機関である「衛生局患者の安全管理に関する評価委員会」で、次の事項を審議し、病院長は、その結果を受けて公表について決定します。

なお、衛生局長は、病院長から依頼を受けた場合は、必ずこの委員会に諮問することとします。

- (1) 速やかに公表すべき医療事故であるか否かについて。
- (2) 医療事故に関して、患者さんにご家族に対する説明が十分になされたか、また、公表に関する同意が得られたかの確認、及び公表の範囲について。
- (3) 患者さんのプライバシー・人権への配慮と、社会に対する説明責任との比較考量について。
- (4) その他、医療事故の公表基準の運用にあたって重要な事項について。

ただし、「4の速やかに公表すべき医療事故」に該当することが明らかで、公表の是非につき、この委員会に諮問する必要がないと病院長が判断する場合で、委員会を開催するいとまがない場合は、公表した後にその対応について委員会に報告するものとします。

6 適用等

- (1) この取扱いは、原則として、平成13年4月以降発生した医療事故について適用します。
- (2) この取扱いの施行以降、情勢の変化等により改正の必要が生じた場合は、適宜改めます。

7 おわりに (TO ERR IS HUMAN, TO FORGIVE DIVINE)

この度、医療事故の公表基準を作成しましたが、もとよりその目的は、公表することそのものではなく、ましてや当事者を責め立てることではありません。

我々の目的は、医療事故の発生を防止することです。
しかし、我々が人間である以上、必ず過ちを犯します。
従って、我々の市民に対する責務は、「医療事故を限りなく零に近づけるよう努力し続ける」こと以外にはありません。

そのためには、

- ・病院に働く職員一人ひとりが、医療にあっては患者さんの安全が第一であることをよく理解しており、実際にもそれに則った行動を常に行っていること。
- ・医療事故やインシデント事例が発生したときに、それを真摯に受け止め、職場全体で事故防止に役立てようとする行動がとれること。

が大切だと思っています。

各病院の多くの職員から、患者さんの安全性の向上のための様々な提言がなされることを期待しています。

1 7 横浜市立港湾病院再整備の概要



病院建物イメージ

横浜市立港湾病院は、横浜開港百年記念事業の一環として、昭和37年に開院しましたが、開院後40年近くが経過し、建物の老朽化、狭あい化が進み、時代の変化に対応した医療機能の充実や、患者サービスの向上を図ることが難しくなっております。

そこで、病院施設を一新し、地域における中核を担う病院として、再整備を行います。

1 再整備工事の概要

(1) 建設地

- ア 地名地番 中区新山下三丁目6番2号外（現病院正面向かい側の用地）
- イ 敷地面積 28,613㎡

(2) 規模・構造

- ア 延床面積 74,342㎡（地下駐車場等を含む）
- イ 構造・階数 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下1階地上8階（4階は設備階）
- ウ 建物高さ 8階屋上で38m（最高の高さ 47m）

(3) 駐車場

- ア 地下駐車場 約200台
 - イ 地上駐車場 約100台
- その他、現病院敷地側に200台程度の駐車場を整備する予定

(4) 工事スケジュール

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
病院建設工事	12年12月 着工	建設工事			15年12月 竣工予定
護岸工事		●	●		
		13年5月	護岸工事	15年3月	

(5) 計画図概要

図1、2、3のとおり

2 新病院の診療内容

- (1) 病床数 634床（一般584床、精神50床）（現在は300床）
- (2) 診療科目 22科（現在は14科）
内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、神経内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、精神科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科（アレルギー科）（ は新設診療科）

3 新病院の特徴

(1) 医療機能の充実

- ア 三大生活習慣病(心疾患、がん、脳血管疾患)に対する診断、治療機能を充実します。
- イ ICU(集中治療室)、CCU(心疾患集中治療室)、NICU(新生児集中治療室)などの集中治療機能を確保します。

- ウ 手術機能を充実します。(バイオクリーン室等の整備など)
- エ リハビリテーション機能を充実します。
- オ 高度医療機器を整備します。
(アレルギー疾患に対する医療機能を充実します。)

(2) 外来患者のサービスの向上

- ア 診察室の個室化や番号呼び出しなど、プライバシーに配慮します。
- イ 医療情報システムを導入し、待ち時間の短縮を図ります。
- ウ 総合相談室を設置し、医療相談などの相談機能を充実するとともに、地域の医療機関との密接な連携を推進します。

(3) 入院患者の療養環境の向上

個室の割合を高くするとともに、4床室は廊下側ベッドにも窓を設けるなどプライバシーに配慮したレイアウトとします。

(4) 精神科医療の実施

精神科救急や老人性痴呆疾患の合併症治療に取り組みます。

(5) 救急医療の充実

24時間365日体制の救急医療(内科、小児科、外科など)を実施します。

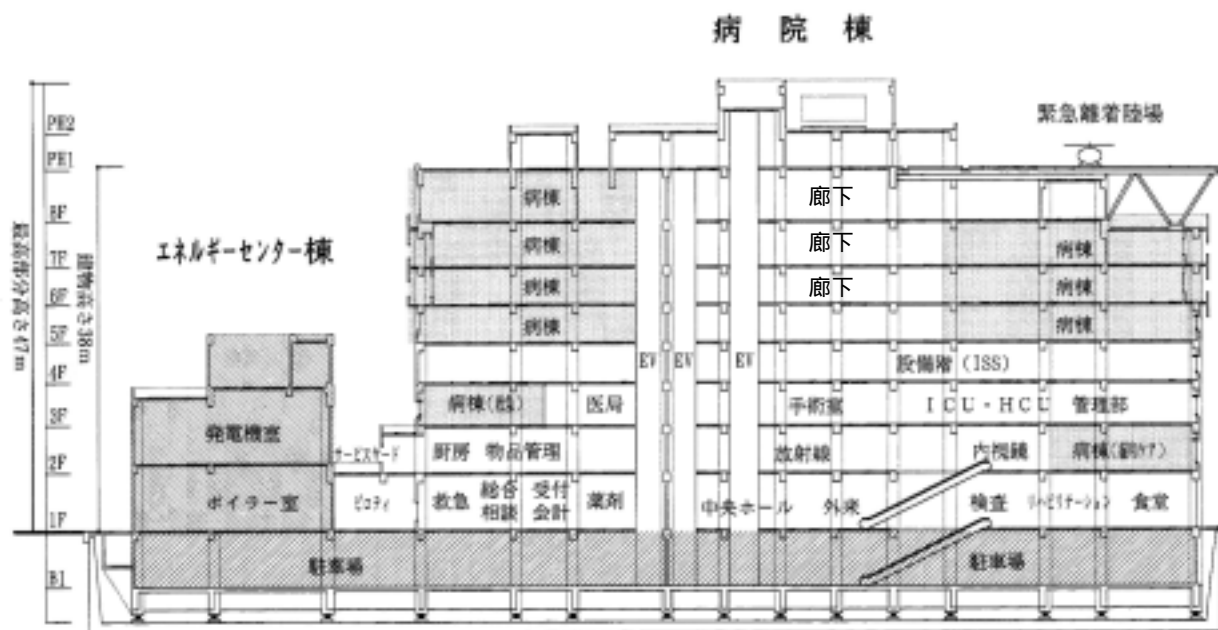
(6) 緩和ケア病棟の設置

横浜市立病院としては初めて、緩和ケア病棟を設置します。

(7) 災害対策

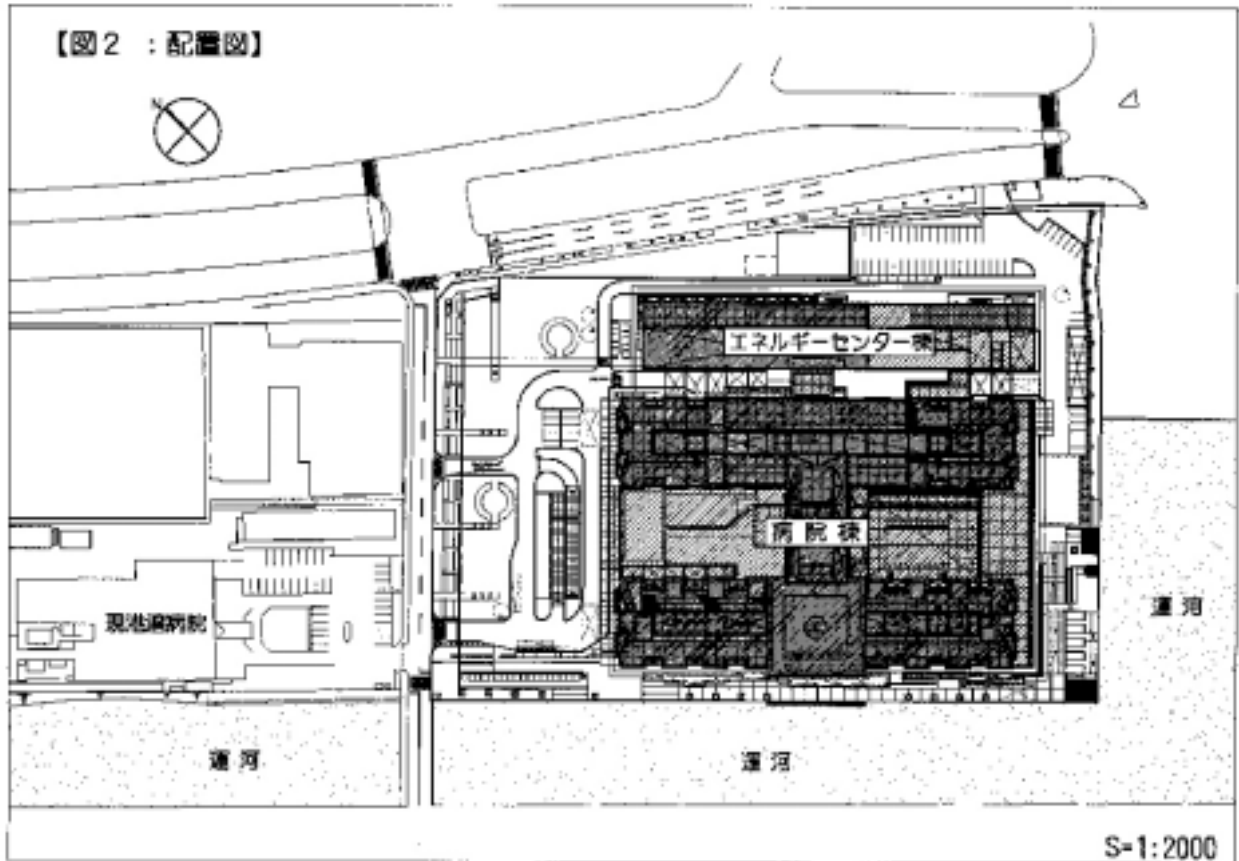
大地震等の災害時にも病院の機能を維持できるように、免震構造の採用や、医薬品、食料、水、燃料の備蓄を行います。

【図1】各階部門構成概略図

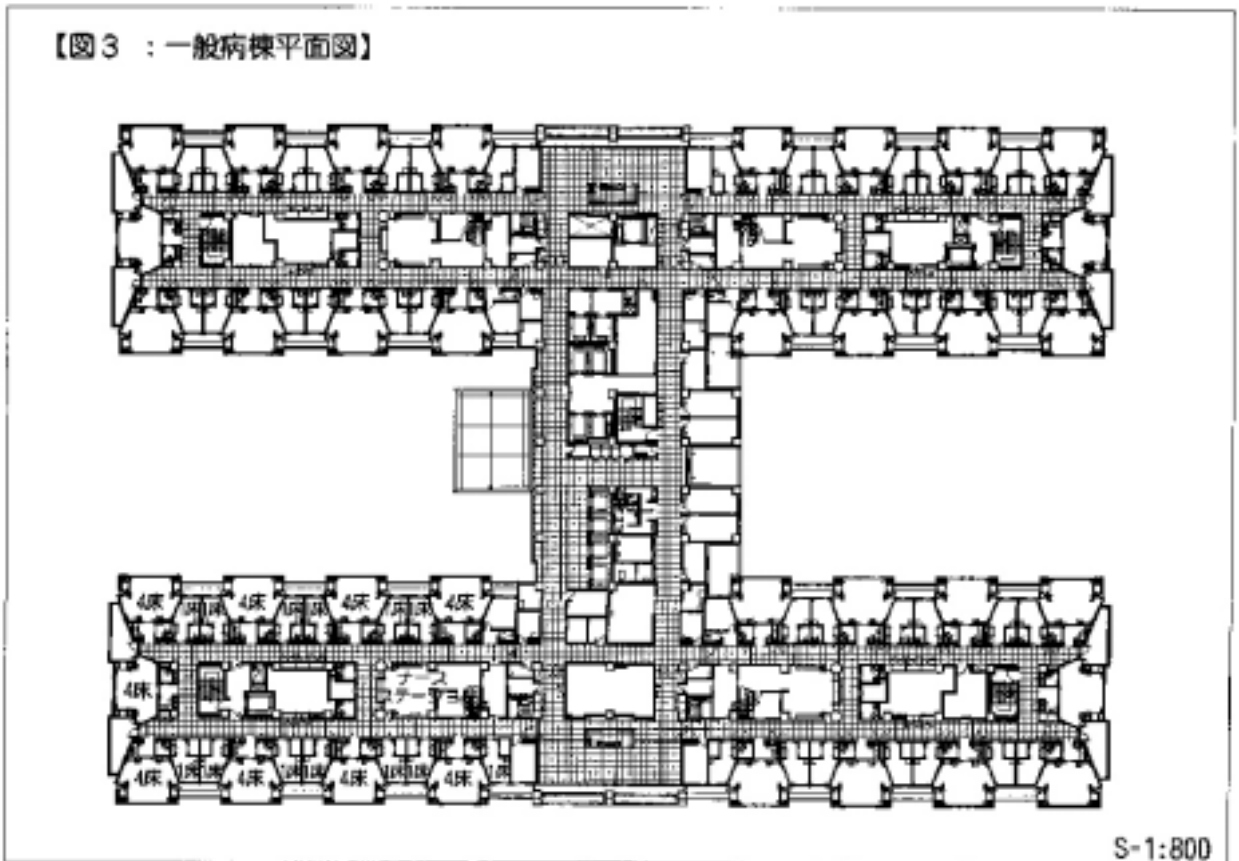


病院正面方向から見た断面

【図2 : 配置図】



【図3 : 一般病棟平面図】

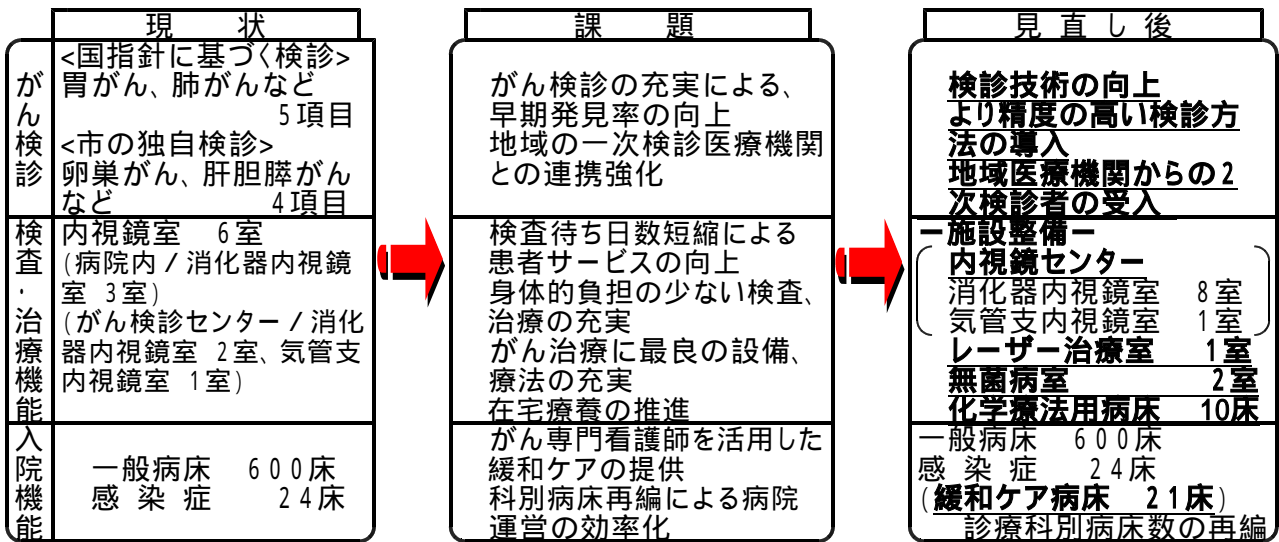


1 8 市民病院の医療機能向上について

1 事業概要

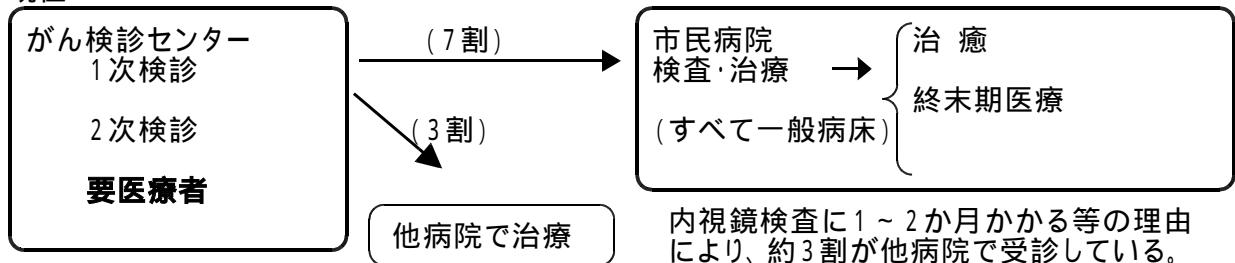
これまで市民病院は、24時間救急応需、がん疾患の治療、二類感染症への対応などの医療提供を行ってきていますが、がん検診センターを併設しているという特色を生かし切れないことや、患者ニーズに十分対応できないことなど、医療機能面で課題を抱えています。

このため、がん検診事業との連携強化による早期発見から早期治療の充実、さらに、終末期まで一貫したがん治療体制を整備を図り、特色ある病院として医療機能の向上を図ります。

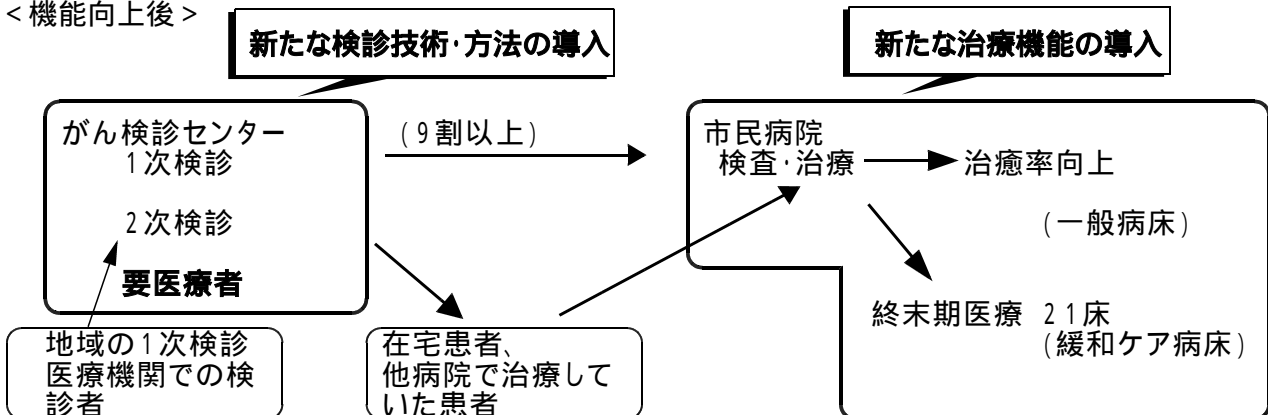


2 現状と見直し後のイメージフロー

<現在>



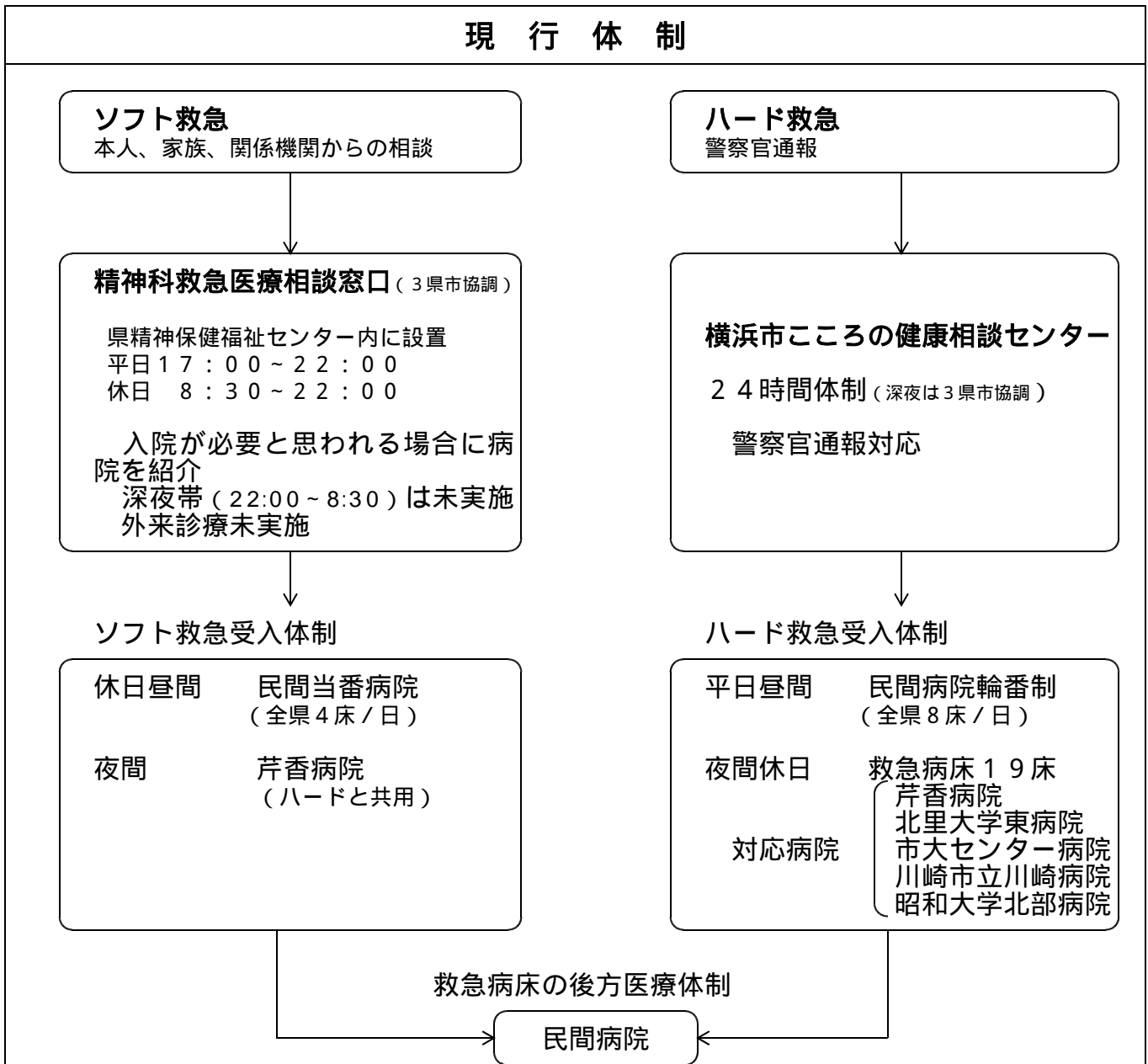
<機能向上後>



3 スケジュール等

14年度	15年度	16年度	17年度	事業費
基本計画 基本設計	実施設計	緩和ケア・内視鏡 センター整備 医療機器購入	オープン	約12億円

19 横浜市の精神科救急医療体制



1 横浜市の精神病床等の状況

(12年10月現在)

	人口(万人)	精神病院数	同 病床数	人口1万対病床数
横浜市	343	23	5,177	15.1
神奈川県域	381	33	7,131	17.3
全 国	12,693	1,669	358,153	28.2

(1) 人口1万対病床数は、都道府県・政令市の中で、大阪市、川崎市に次いで下位から3番目。
(東京都：21.4)

(2) 神奈川県保健医療計画(14年1月現在)

既存病床数 14,689床

基準病床数 17,442床 不足 2,753床

2 ハード救急の現状(14年度から24時間体制)

深夜帯における空床確保率が46%(14年4月~7月実績)

3 ソフト救急の現状

相談に対する169件(13年度実績)の病院紹介のほか、満床等のため紹介不可能件数が104件。

夜間における空床確保率が48%(14年4月~7月実績)

20 横浜市内の緩和ケア病床整備状況

・緩和ケア病棟を有する病院

(単位：床数)

二次保健医療圏	施設名	所在地	緩和ケア病棟	総病床数
横浜北部	昭和大学横浜市北部病院	横浜市都筑区	25	553
横浜西部	神奈川県立がんセンター	横浜市旭区	17	415
	横浜甞生病院	横浜市瀬谷区	12	81

(整備予定)

横浜西部	市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区	20程度	624
横浜南部	市立港湾病院(再整備後)	横浜市中区	25	634

・緩和ケア病棟の施設基準

- (1) 主として末期の悪性腫瘍の患者又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者を入院させ、緩和ケアを病棟単位で行うものであること
- (2) 当該病院において看護を行う看護師の数は、当該病棟の入院患者の数が1.5又はその端数を増すごとに1以上であること
- (3) 当該療養を行うにつき十分な体制が整備されていること
- (4) 当該療養を行うにつき十分な構造設備を有していること
- (5) 当該病棟における患者の入退等を判定する体制がとられていること
- (6) 健康保険法第43条第2項に規定する選定療養としての特別の療養環境の提供に係る病室が適切な割合であること
- (7) 財団法人日本医療機能評価機構等が行う医療機能評価を受けていること

参 考

神奈川県保健医療計画から抜粋

【神奈川県の施策展開】

1 緩和ケア病棟の整備

二次保健医療圏に1施設以上の緩和ケア病棟の整備を図るため、県は引き続き緩和ケア病棟の整備事業に対する助成を実施します。

2 在宅ターミナルケアの推進

在宅において身体的・精神的な苦痛の緩和を行うとともに、患者の心身の状況把握、適切なケアの提供、緊急時に入院できる医療施設の確保など、効果的な在宅ターミナルケアの推進を図るため、保険・医療・福祉分野が連携した在宅ターミナルケアのあり方について検討を進めます。

3 ターミナルケアを担う人材の育成

緩和ケア病棟を運営している医療機関が実施するターミナルケアの研修などへの助成を通じ、末期医療への理解や取組ができてきている医師、看護師、ボランティア等の人材育成を推進します。

2 1 アレルギー疾患への対応

《アレルギーセンターの現状と問題点》

- 1 児童生徒の入院患者は減少傾向にあるが、社会的入院が発生
- 2 症状の複合化に対し、小児科、皮膚科だけでは対応が困難
- 3 生涯を通じた（成人の入院治療等）一貫した医療提供が施設的に困難
- 4 単独施設として運営が非効率であり、年間約4億円の赤字経営（人件費含む）

《アレルギー疾患の現状と課題》

- 1 アレルギー疾患の患者数（外来）が増加傾向特に15歳以上の患者の割合が増加
- 2 喘息の入院需要は、治療ガイドラインの策定や治療薬の進歩により減少
- 3 成人のアトピー性皮膚炎は難治化、重症化の傾向
- 4 アトピー性皮膚炎に対する不適切な治療の横行

小児アレルギーセンターのあり方検討委員会報告（平成11年3月）

アレルギー疾患に対する医療機能整備

診療対象範囲を拡大し、重症化・複合化等に対応した包括診療体制を確立する。

外来機能の拡充 診療科の整備、相談機能の充実等

入院機能の見直し 長期入院の見直し、福祉・教育の連携

臨床と直結した調査・研究機能

国、他の医療機関等と幅広いネットワークを結び、研究成果を市民に情報公開する。

情報提供機能

アレルギー疾患に関する正確な情報、医療機関向けの研修を行い適切な治療方法の普及と地域医療のレベルアップを図る。

その他

地域の医療機関及び関係機関との連携や効率的な病院運営の確保に努める。

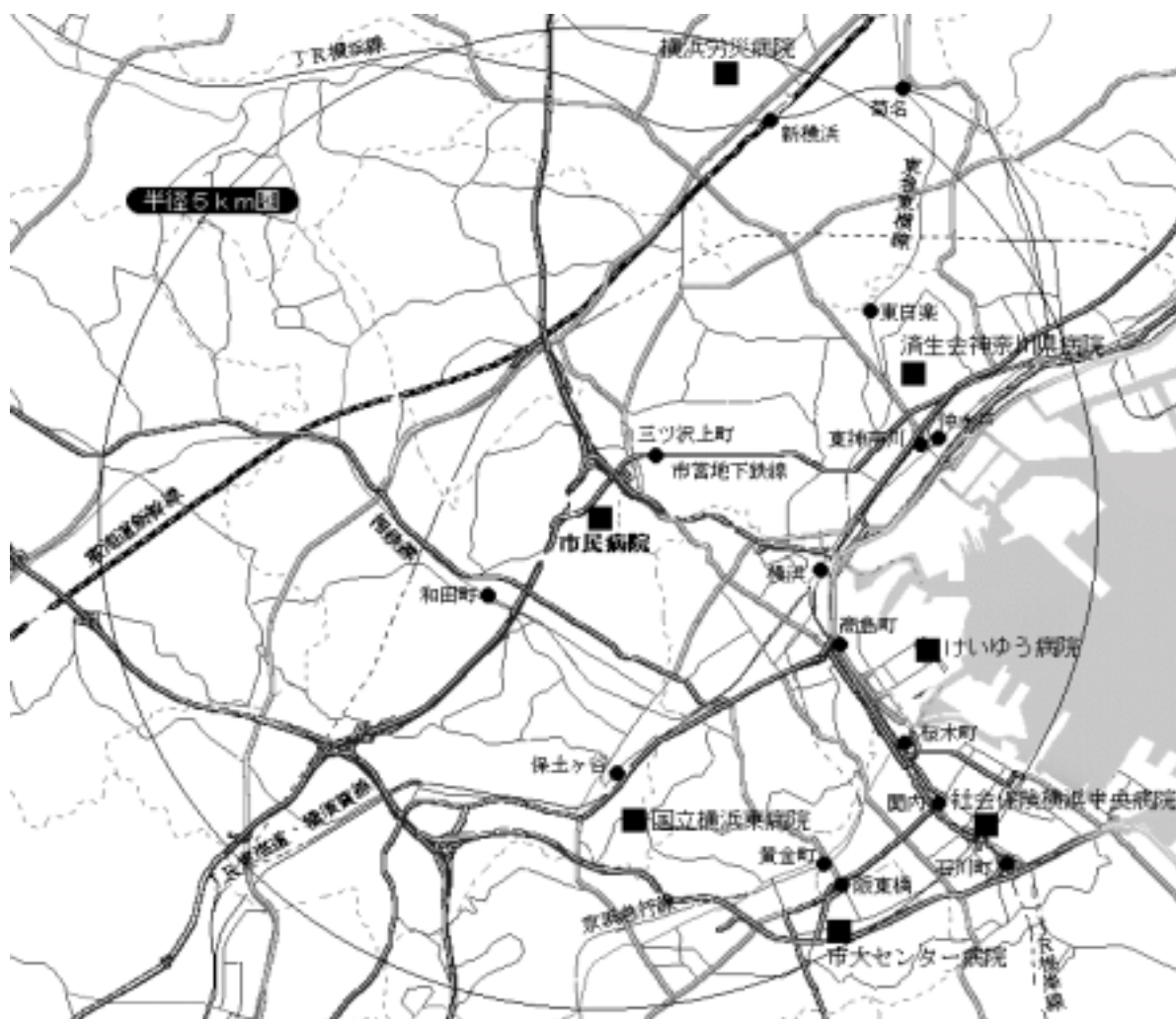
行政としての取組み課題

アレルギー疾患に対する
効率的な臨床機能の整備

増加するアレルギー疾患
への新たなアプローチ

2.2 市立病院を中心とした半径5 km圏内に所在する主な病院

(1) 市民病院



* 1 市民病院を中心に、一般病床300床以上の病院を表示した(県立病院、アレルギーセンターについては病床数にかかわらず表示した)。

* 2 半径5 km圏内に所在する主な病院への交通アクセス

【市民病院】

市営地下鉄「三ツ沢上町駅」から徒歩(約10分)

又はJR・東急・京急・相鉄・市営地下鉄「横浜駅」からバス(約20分)

【市大センター病院】

市営地下鉄「阪東橋駅」から徒歩(約5分) 又は京急「黄金町駅」から徒歩(約10分)

【横浜労災病院】

JR・市営地下鉄「新横浜駅」から徒歩(約10分)

【済生会神奈川県病院】

JR「東神奈川駅」又は京急「仲木戸駅」から徒歩(約5分) 又は東急「東白楽駅」から徒歩(約10分)

【国立横浜東病院】

JR「保土ヶ谷駅」より徒歩(約10分)

【社会保険横浜中央病院】

JR「石川町駅」から徒歩(約5分) 又はJR・市営地下鉄「関内駅」から徒歩(約10分)

【けいゆう病院】

JR・東急・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩(約15分) 又は東急・市営地下鉄「高島町駅」から徒歩(約20分)

市民病院を中心とした半径5km圏内に所在する主な病院の概要

	市民病院	市大 センター病院	横浜市北東部中核施設 横浜労災病院	済生会 神奈川県病院 *1	国立横浜東病院 *2	社会保険 横浜中央病院	けいゆう病院
開設者	横浜市	横浜市	労働福祉事業団	恩賜財団済生会	国(厚生労働省)	社団法人 全国社会保険協 会連合会	財団法人 神奈川県警友会
開設時期 *3	昭和35年 平成3年 再整備	昭和24年 平成12年 再整備	平成3年	昭和24年	昭和22年	昭和34年	平成8年 〔移転再整備〕
病床数	624	720	650	400 400 (うち交通救急センター 100床)	350	350	410
一般	600	670	650		300	350	410
精神		50					
その他	24(感染症病床)				50(結核病床)		
診療科目等 *4	20科	8センター+2.1科 救命救急センター 熱傷センター 母子医療センター 難病医療センター 感染症医療センター 精神医療センター 心臓血管センター 消化器病センター	2.2科	1.4科	1.4科	1.4科	1.4科
	内科	総合内科 血液内科 腎臓内科 内分泌・糖尿病内科	内科	内科	内科	内科	内科
	呼吸器科	呼吸器内科	呼吸器科	呼吸器科	呼吸器科	呼吸器科	呼吸器科
	消化器科	(消化器病センター)	消化器科		消化器科	消化器科	消化器科
	循環器科	(心臓血管センター)	循環器科		循環器科	循環器科	循環器科
	神経内科	神経内科	神経内科				
			心療内科				
	小児科	小児科	小児科	小児科	小児科	小児科	小児科
	外科	総合外科	外科	外科	外科	外科	外科
	胸部外科						
	脳神経外科	形成外科	形成外科			形成外科	形成外科
	整形外科	脳神経外科 整形外科 (総合外科)	脳神経外科 整形外科	脳神経外科 整形外科	整形外科	脳神経外科 整形外科	脳神経外科 整形外科
		(心臓血管センター)	心臓血管外科				
	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科
	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科
	産婦人科	(母子医療センター) 婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科
	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科
	リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科			
	神経精神科	(精神医療センター)	精神科	精神神経科			精神科
	放射線科	放射線科	放射線科		放射線科	放射線科	放射線科
	麻酔科	麻酔科	麻酔科		麻酔科	麻酔科	麻酔科
	歯科・口腔外科	歯科・口腔外科・矯正歯科 臓器移植科	歯科・口腔外科	歯科・口腔外科	歯科(休診中)	歯科・口腔外科	歯科
特徴	・365日24時間救急 (小児24時間 救急を含む)	・365日24時間救急 (救命救急センター 母子医療センター など)	・365日24時間救急 (小児24時間 救急を含む)	・365日24時間救急 (交通救急センター を含む)	・病院群輪審制 参加病院	・病院群輪審制 参加病院	・病院群輪審制 参加病院
	・母児二次救急シ ステム参加病院		・母児二次救急シ ステム参加病院	・母児二次救急シ ステム参加病院		・母児二次救急シ ステム参加病院	・母児二次救急シ ステム参加病院
	・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院 ・第二種感染症 指定医療機関 ・がん検診センター	・精神科救急(3次) ・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院	・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院	・臨床研修指定病院			・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院
			・労災医療				

*1 済生会神奈川県病院は、現在保有する病床のうち300床を東部地域中核病院に移転するとともに50床を増床し、150床となる予定。

*2 国立横浜東病院は、社会福祉法人聖隷福祉事業団に経営移譲され、平成15年3月に聖隷横浜病院(仮称)となる予定。

新設科:精神科、脳神経外科

病床区分:一般300床+療養50床

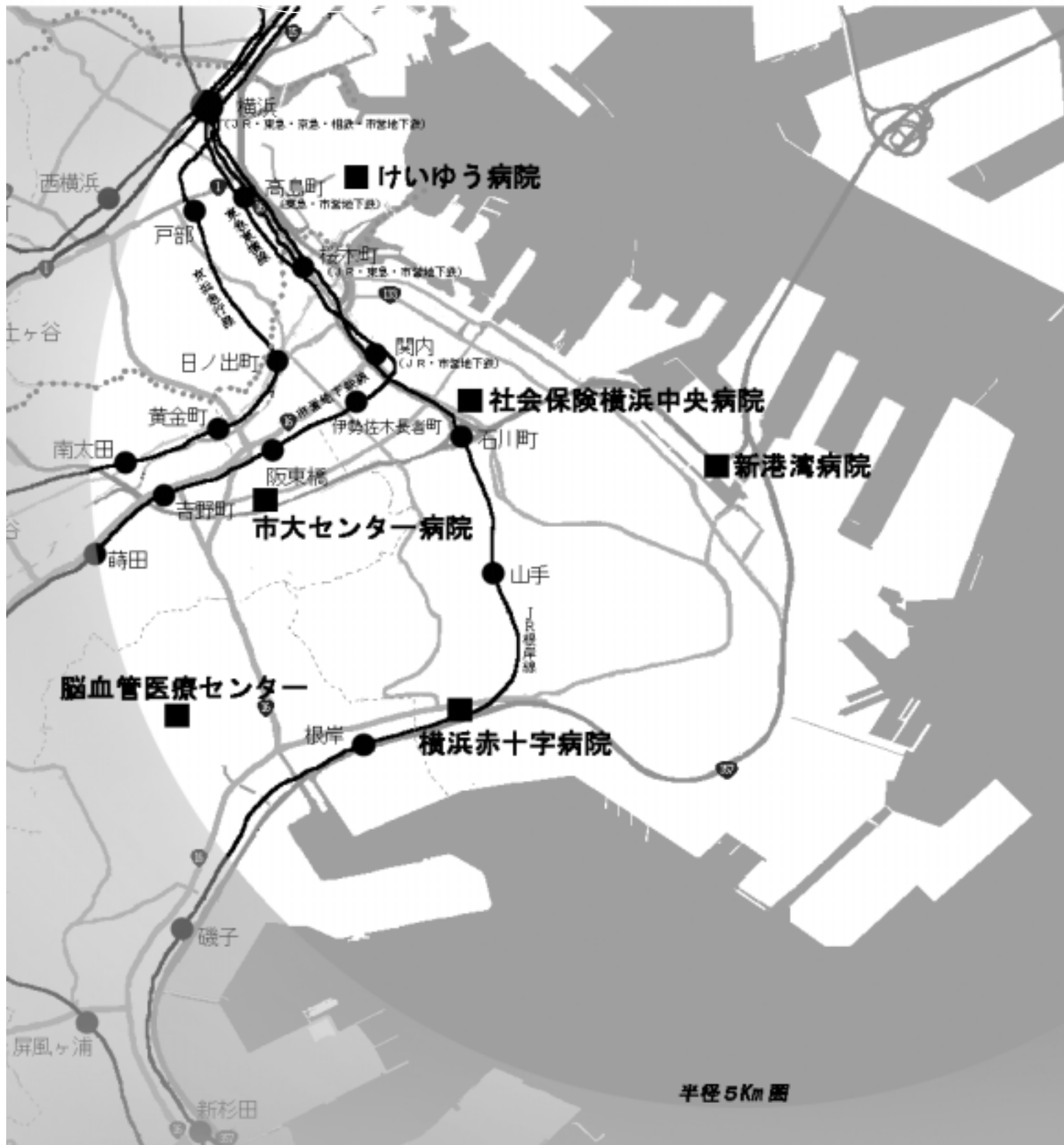
*3 開設時期は、現在地での開院時期で、横浜市衛生局「横浜市の医療施設(名簿編)」による。

*4 診療科目は、標榜科目(市民病院及び市大センター病院は条例・規則上のもの、他は各病院のホームページで確認できたもの)で、医療法上の届出によるものとは異なる。

ただし、市大センター病院については、特定の診療科名を標榜していないが、8つのセンター又は他の診療科が実質的な診療機能を有しているものについては、当該機能を有する主たるセンター又は診療科の名称を()書きで記載した。

参考：市民病院を中心とした半径5 km、8 km圏内に所在する主な病院





※1 新港湾病院を中心とした半径5Km圏内に所在する一般病床300床以上の病院を表示した。

※2 各病院への交通アクセス

- 【新港湾病院】 J R・東急・市営地下鉄「桜木町駅」からバス (約20分)、J R・市営地下鉄「関内駅」(最寄りバス停尾上町) からバス (約15分) 又はJ R「根岸駅」からバス (約20分)。
- 【市大センター病院】 市営地下鉄「阪東橋駅」から徒歩 (約5分) 又は東急「黄金町駅」から徒歩 (約10分)。
- 【脳血管医療センター】 J R「根岸駅」からバス (約15分) 又は市営地下鉄「吉野町駅」(最寄りバス停根岸橋) からバス (約10分+徒歩10分)。
- 【横浜赤十字病院】 J R「根岸駅」から徒歩 (約10分)。
- 【社会保険横浜中央病院】 J R「石川町駅」から徒歩 (約5分) 又はJ R「関内駅」から徒歩 (約10分)。
- 【けいゆう病院】 J R・東急・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩 (約15分) 又は東急・市営地下鉄「高島町駅」から徒歩 (約20分)。

新港湾病院を中心とした半径5km圏内に所在する主な病院の概要

	新港湾病院 *1	市大脳血管 センター病院 医療センター	管 横 浜 赤 十 字 病 院	社 会 保 険 横 浜 中 央 病 院	けいゆう病院	
開設者	横浜市	横浜市	横浜市	日本赤十字社 神奈川県支部	社団法人 全国社会保険協 会連合会	財団法人 神奈川県警友会
開設時期 *2	昭和37年 (平成16年度末 再整備開院予定)	昭和24年 (平成12年 再整備開院)	平成11年	昭和39年 (昭和63年増築)	昭和34年	平成8年 (移転再整備)
病床数	634	720	300	380	350	410
一般	584	670	300	380	350	410
精神	50	50				
その他			老人保健施設 定員 80人			
診療科目等 *3	22科	8センター+21科 救命救急センター 熱傷センター 母子医療センター 難病医療センター 感染症医療センター 精神医療センター 心臓血管センター 消化器病センター	6科	15科	14科	14科
	内科	総合内科	内科	内科	内科	内科
		血液内科				
		腎臓内科				
		内分泌・糖尿病内科				
	呼吸器科	呼吸器内科		呼吸器科		
	消化器科	(消化器病センター)		消化器科		
	循環器科	(心臓血管センター)		循環器科		
	神経内科	神経内科	神経内科			
	小児科	小児科		小児科	小児科	小児科
	外科	総合外科		外科	外科	外科
	整形外科	整形外科		整形外科	整形外科	整形外科
	形成外科	形成外科		形成外科	形成外科	形成外科
	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科
	呼吸器外科	(総合外科)				
	心臓血管外科	(心臓血管センター)				
	皮膚科	皮膚科		皮膚科	皮膚科	皮膚科
	泌尿器科	泌尿器科		泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科
	産婦人科	(母子医療センター)		産婦人科	産婦人科	産婦人科
		婦人科				
	眼科	眼科		眼科	眼科	眼科
	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科		耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科
	リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科			
	精神科	(精神医療センター)				精神科
	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科
	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	
	歯科・口腔外科	歯科・口腔外科・矯正歯科			歯科・口腔外科	歯科
		臓器移植科				
特徴	・365日24時間救急 ・病院群輪番制 参加病院	・365日24時間救急 (救命救急センター 母子医療センター など)	・365日24時間救急 (脳血管疾患のみ)	・病院群輪番制 参加病院	・病院群輪番制 参加病院	・病院群輪番制 参加病院
	・母児二次救急シ ステム参加病院			・母児二次救急シ ステム参加病院	・母児二次救急シ ステム参加病院	・母児二次救急シ ステム参加病院
	・精神科救急(2次)	・精神科救急(3次)				
	・緩和ケア					
	・アレルギー疾患					
	・災害医療拠点病院	・災害医療拠点病院				・災害医療拠点病院
	・臨床研修指定病院	・臨床研修指定病院		・臨床研修指定病院		・臨床研修指定病院
			・脳血管疾患に対 する、発症直後か ら回復期に至るま での一貫したリハ ビリテーションへ の取組			

*1 新港湾病院の記事事項は、現計画に基づく予定。

*2 開設時期は、現在地での開院時期で、横浜市衛生局「横浜市の医療施設(名簿編)」による。

*3 診療科目は、標榜科目(脳血管医療センター及び市大センター病院は条例・規則上のもの、他は各病院のホームページで確認できたもの)で、医療法上の届出によるものとは異なる。

ただし、市大センター病院については、特定の診療科名を標榜していないが8つのセンター又は他の診療科が実質的な診療機能を有しているものについては、当該機能を有する主たるセンター又は診療科の名称を()書きで記載した。

参考：新港湾病院を中心とした半径5 km、8 km圏内に所在する主な病院



(3) 脳血管医療センター



* 半径5km圏内に所在する主な病院への交通アクセス

【脳血管医療センター】

JR「根岸駅」からバス(約15分) 又は市営地下鉄「吉野町駅」(最寄りバス停吉野町駅前)からバス(約10分+徒歩10分)

【港湾病院】

JR・東急・市営地下鉄「桜木町駅」からバス(約20分) 又はJR・市営地下鉄「関内駅」(最寄りバス停尾上町)からバス(約20分) 又はJR「根岸駅」からバス(約20分)

【市大センター病院】

市営地下鉄「阪東橋駅」から徒歩(約5分) 又は京急「黄金町駅」から徒歩(約10分)

【横浜赤十字病院】

JR「根岸駅」から徒歩(約10分)

【国立横浜東病院】

JR「保土ヶ谷駅」から徒歩(約10分)

【社会保険横浜中央病院】

JR「石川町駅」から徒歩(約5分) 又はJR・市営地下鉄「関内駅」から徒歩(約10分)

【けいゆう病院】

JR・東急・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩(約15分) 又は東急・市営地下鉄「高島町駅」から徒歩(約20分)

脳血管医療センターを中心とした半径5 km圏内に所在する主な病院の概要

	脳血管医療センター	港湾病院	市大センター病院	横浜赤十字病院	国立横浜東病院*1	社会保険横浜中央病院	けいゆう病院
開設者	横浜市	横浜市	横浜市	日本赤十字社神奈川支部	国(厚生労働省)	社団法人全国社会保険協会連合会	財団法人神奈川県警友会
開設時期*2	平成11年	昭和37年	昭和24年 平成12年再整備	昭和39年 [昭和63年増築]	昭和22年	昭和34年	平成8年 [移転再整備]
病床数	300	300	720	380	350	350	410
一般	300	300	670	380	300	350	410
精神			50				
その他	老人保健施設 定員 80人				50(結核病床)		
診療科目等*3	6科	14科	8センター+21科	15科	14科	14科	14科
			救命救急センター 熱傷センター 母子医療センター 難病医療センター 感染症医療センター 精神医療センター 心臓血管センター 消化器病センター				
	内科	内科	総合内科 血液内科 腎臓内科	内科	内科	内科	内科
			内分泌・糖尿病内科 呼吸器内科 (消化器病センター) (心臓血管センター)	呼吸器科 消化器科 循環器科	呼吸器科 消化器科 循環器科		
	神経内科		神経内科				
		小児科 外科	小児科 総合外科	小児科 外科	小児科 外科	小児科 外科	小児科 外科
		整形外科	整形外科 形成外科	整形外科	整形外科	整形外科 形成外科	整形外科 形成外科
	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科		脳神経外科	脳神経外科(休診中)
		皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科
		泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科		泌尿器科	泌尿器科
		産婦人科	(母子医療センター) 産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科	産婦人科
			婦人科				
		眼科	眼科	眼科	眼科	眼科	眼科
		耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科
	リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科 (精神医療センター)				精神科
	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科	放射線科
	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科	麻酔科
		歯科口腔外科	歯科・口腔外科・矯正歯科		歯科(休診中)	歯科・口腔外科	歯科
			臓器移植科				
特徴	・365日24時間救急 (脳血管疾患のみ)	・病院群輪番制 参加病院	・365日24時間救急 (救命救急センター 母子医療センター など)	・病院群輪番制 参加病院	・病院群輪番制 参加病院	・病院群輪番制 参加病院	・病院群輪番制 参加病院
		・母児二次救急 システム参加 病院		・母児二次救急 システム参加 病院		・母児二次救急 システム参加 病院	・母児二次救急 システム参加 病院
		・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院	・精神科救急(3次) ・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院	・臨床研修指定病院			・災害医療拠点病院 ・臨床研修指定病院
	・脳血管疾患に 対する、発症直 後から回復期に 至るまでの一貫 したリハビリ テーションへの 取組						

*1 国立横浜東病院は、社会福祉法人聖隷福祉事業団に経営移譲され、平成15年3月に聖隷横浜病院(仮称)となる予定。

新設科：精神科、脳神経外科
病床区分：一般300床＋療養50床

*2 開設時期は、現在地での開院時期で、横浜市衛生局「横浜市の医療施設(名簿編)」による。

*3 診療科目は、標榜科目(脳血管医療センター、港湾病院及び市大センター病院は条例・規則上のもの、他は各病院のホームページで確認できたもの)で、医療法上の届出によるものとは異なる。

ただし、市大センター病院については、特定の診療科名を標榜していないが、8つのセンター又は他の診療科が実質的な診療機能を有しているものについては、当該機能を有する主たるセンター又は診療科の名称を()書きで記載した。

参考 : 脳血管医療センターを中心とした半径5 km、8 km圏内に所在する主な病院



2 3 救急搬送患者の市立病院等の受入状況

* 平成13年(暦年)

	総件数	軽症	中等症以上					計	計	その他	(参考) 市内一般 病床数比率
			中等症	重症以上			計				
				重症	重篤	死亡					
横浜市民病院	4,530 (3.5%)	2,502 (55.2%) 3.3%	1,465 (32.3%) 3.7%	265	156	141	562 (12.4%) 4.0%	2,027 (44.7%) 3.8%	1 (0.0%) 3.3%	600 2.8%	
横浜市立港湾病院	1,519 (1.2%)	859 (56.6%) 1.1%	569 (37.5%) 1.4%	67	18	6	91 (6.0%) 0.6%	660 (43.4%) 1.2%	0 (0.0%) 0.0%	300 1.4%	
横浜市立脳血管医療センター	1,037 (0.8%)	116 (11.2%) 0.2%	356 (34.3%) 0.9%	474	91	0	565 (54.5%) 4.0%	921 (88.8%) 1.7%	0 (0.0%) 0.0%	300 1.4%	
市立病院計 (重症度別構成比) 全市計に対する構成比	7,086 (100.0%) 5.5%	3,477 (49.1%) 4.6%	2,390 (33.7%) 6.1%	806	265	147	1,218 (17.2%) 8.6%	3,608 (50.9%) 6.8%	1 (0.0%) 3.3%	1,200 5.5%	
市大附属市民総合医療センター (救命救急センター設置病院)	3,189 (2.5%)	899 (28.2%) 1.2%	1,221 (38.3%) 3.1%	546	372	151	1,069 (33.5%) 7.6%	2,290 (71.8%) 4.3%	0 (0.0%) 0.0%	670 3.1%	
市大医学部附属病院	1,389 (1.1%)	739 (53.2%) 1.0%	488 (35.1%) 1.2%	134	23	5	162 (11.7%) 1.1%	650 (46.8%) 1.2%	0 (0.0%) 0.0%	577 2.7%	
市大病院計 (重症度別構成比) 全市計に対する構成比	4,578 (100.0%) 3.6%	1,638 (35.8%) 2.2%	1,709 (37.3%) 4.4%	680	395	156	1,231 (26.9%) 8.7%	2,940 (64.2%) 5.5%	0 (0.0%) 0.0%	1,247 5.7%	
横浜労災病院	6,428 (5.0%)	4,093 (63.7%) 5.4%	1,624 (25.3%) 4.1%	362	186	163	711 (11.1%) 5.0%	2,335 (36.3%) 4.4%	0 (0.0%) 0.0%	650 3.0%	
済生会 横浜市南部病院	3,679 (2.9%)	2,020 (54.9%) 2.7%	1,219 (33.1%) 3.1%	214	112	114	440 (12.0%) 3.1%	1,659 (45.1%) 3.1%	0 (0.0%) 0.0%	500 2.3%	
聖マリ 横浜市西部病院 (救命救急センター設置病院)	1,459 (1.1%)	238 (16.3%) 0.3%	461 (31.6%) 1.2%	442	299	19	760 (52.1%) 5.4%	1,221 (83.7%) 2.3%	0 (0.0%) 0.0%	518 2.4%	
昭和大学 横浜市北部病院	1,410 (1.1%)	812 (57.6%) 1.1%	474 (33.6%) 1.2%	85	31	8	124 (8.8%) 0.9%	598 (42.4%) 1.1%	0 (0.0%) 0.0%	553 2.5%	
地域中核病院計 (重症度別構成比) 全市計に対する構成比	12,976 (100.0%) 10.1%	7,163 (55.2%) 9.5%	3,778 (29.1%) 9.6%	1,103	628	304	2,035 (15.7%) 14.4%	5,813 (44.8%) 10.9%	0 (0.0%) 0.0%	2,221 10.2%	
市立+市大+地域中核病院計 (重症度別構成比) 全市計に対する構成比	24,640 (100.0%) 19.1%	12,278 (49.8%) 16.3%	7,877 (32.0%) 20.1%	2,589	1,288	607	4,484 (18.2%) 31.8%	12,361 (50.2%) 23.2%	1 (0.0%) 3.3%	4,668 21.5%	
その他医療機関計 (重症度別構成比) 全市計に対する構成比	104,137 (100.0%) 80.9%	63,101 (60.6%) 83.7%	31,374 (30.1%) 79.9%	7,193	1,669	771	9,633 (9.3%) 68.2%	41,007 (39.4%) 76.8%	29 (0.0%) 96.7%	17,045 78.5%	
全 市 計	128,777 (100.0%) 100.0%	75,379 (58.5%) 100.0%	39,251 (30.5%) 100.0%	9,782	2,957	1,378	14,117 (11.0%) 100.0%	53,368 (41.4%) 100.0%	30 (0.0%) 100.0%	21,713 100.0%	

- 1 取扱件数は、暦年による。ただし、昭和大学横浜市北部病院は、平成13年4月1日開院時からの件数。
- 2 各構成比は、小数点以下第2位を四捨五入した(個々の値の和は、必ずしも計とは一致しないことがある)。
- 3 市内一般病床数比率は、市内一般病床数に占める市立病院等の一般病床数の数及び割合を示す。
- 4 市内一般病床数は、平成13年10月1日現在の許可病床数。
- 5 市立・市大・地域中核病院の一般病床数は、平成13年12月31日現在の許可病床数(ただし、港湾病院の一般病床数は再整備後の増床数284床(許可済み)を除いた300床とした)。
- 6 重症度は、次の区分によるもので、搬送(初診)時に診察を行った医師の判定に基づく。
 軽症：入院を要せず 中等症：入院3週間未満 重症：入院3週間以上
 重篤：生命の危険が切迫しているもの 死亡：初診時死亡

2 4 地域中核病院の主な機能及び支援内容

区 分	南部病院	西部病院	労災病院	北部病院
開院年月	昭和58年6月	昭和62年5月	平成3年6月	平成13年4月
病床数, 診療科目	500床、18科	518床、26科	650床、23科	653床 循環器センター等の6センター及び14科
救急医療・高度医療・特殊診療機能等	365日24時間救急 循環器系疾患	救命救急センター 周産期センター	365日24時間救急 脳・循環器系疾患 医学的リハビリテーション 労災医療	365日24時間救急 精神科救急 がん・心・脳血管疾患 緩和ケア 老人性痴呆疾患
事業方式	「共同建設方式」 横浜市と済生会が共同で病院を建設	「誘致方式」 聖マリアンナ医大が病院を建設	「誘致方式」 労働福祉事業団が病院を建設	「誘致方式」 昭和大学が病院を建設
整備事業費の負担等				
用地	用地面積 (1.5ha)	用地面積 (5.3ha)	用地面積 (6.1ha)	用地面積 (2.3ha)
	本市が取得し、無償貸付 (30年間)	本市が取得し、無償貸付 (30年間)	本市が取得し、有償貸付 (30年間)	本市が取得し、無償貸付 (30年間)
建設等	設計監理費及び準備工事費は本市負担 建設費の約2分の1を本市負担等 負担割合に応じ建物を持分所有	設計監理費及び準備工事費は本市負担 建設費の約10分の1を本市負担等 (文化財調査等周辺整備費を負担)		設計監理費及び準備工事費は本市負担 建設費の約10分の1を本市負担等 (放射線専門学校・地下駐車場建設費の一部を負担)
医療機器整備	医療機器整備費の4分の3を補助	医療機器整備費の10分の1を補助	本市購入分(40億円)を有償貸付	医療機器整備費の10分の1を補助
整備事業費合計	総額 120.4億円 内訳 横浜市 64.8億円 (53.8%) 病院 55.6億円 (46.2%)	総額 157.7億円 内訳 横浜市 26.3億円 (16.7%) 病院 131.4億円 (83.3%)	総額 438.5億円 内訳 横浜市 53.7億円 (12.2%) 病院 384.8億円 (87.8%) 横浜市は有償貸付分を含む	総額 402.9億円 内訳 横浜市 81.0億円 (20.1%) 病院 321.9億円 (79.9%)
その他の補助等	借入金利子全額補助 50.4億円 開院後3年間の赤字補填 10.4億円 貸付金 15.0億円	事業主体負担事業費の2分の1を対象とする借入金利子補助 42.7億円	-	事業主体負担事業費の2分の1を対象とする借入金利子補助 53.4億円
運営費の負担等 (平成13年度実績)	救急医療体制運営費 23,000千円 病院群輪番制 24,488千円 母子二次救急医療 4,000千円 計 51,488千円	救命救急センター運営費 47,184千円 周産期センター運営費 80,000千円 日本中毒センター 100千円 計 127,284千円	小児救急医療委託 10,000千円	救急医療体制運営費 23,000千円 精神科救急運営費 13,411千円 病院群輪番制 8,109千円 計 44,520千円
備 考	延べ床面積28,706㎡	延べ床面積38,445㎡	延べ床面積65,045㎡	延べ床面積83,300㎡

注1 整備事業費合計欄の()内は負担等の割合を示す

注2 北部病院の借入金利子補助金額は見込み額を示す

地域中核病院の配置

【凡例】

- 地域中核病院 (4)
- ◎ 市立病院 (4)
(アレルギーセンターを含む)
- 市大病院 (2)
- その他の病院 (16)
- ※アレルギーセンター以外は
300床以上の病院を記載。



【保健医療圏別行政区】

北部保健医療圏：鶴見，神奈川，港北，緑，青葉，都筑

西部保健医療圏：西，保土ヶ谷，旭，戸塚，泉，瀬谷

南部保健医療圏：中，南，港南，磯子，金沢，栄

地域中核病院整備の考え方

1 経緯

昭和 56 年（1981 年） 『よこはま 21 世紀プラン』

・・・身近なところに診療所から総合病院までを整備するために、交通の便等から市域を 7 つの医療ブロックに分け、行政と医療機関団体が協力して、ブロックごとに医療施設の適正な配置をすすめていく。既に医療施設が充実している中央部地域を除いて、残りのブロックに「地域中核総合病院」を整備する。なお、運営は民営を基本とする。新たに 6 箇所の地域中核総合病院（500 床規模程度）を整備することが定められている。

平成 6 年（1994 年） 『ゆめはま 2010 プラン』

事業名が「地域中核病院」となり、人口構造や医療需要の動向を踏まえながら、方面別に整備が進められることになった。

2 「横浜市地域中核総合病院計画」（昭和 57 年 6 月）の概要

「すべての人にその必要とする高水準の医療を必要なときに直ちに提供する」を本市の医療体系づくりの基本理念とし、医療施設の不足を早期に解消し、望ましい医療水準を達成することを目指した。

具体的にはプライマリーケアを担う診療所機能を基盤として、病院との機能分担を図り連携を推進し、医療サービスの確保に努める考えである。また、病院機能としては地域住民に密着し、住民の身近な場所に配置された「地区病院」を軸に、比較的広域で人口 30 万人前後を医療圏とする地域中核病院を配置し、地域医療計画の基本医療施設として位置付けた。この計画において地域中核総合病院は「地域の中核となる総合病院で、救急分野では二次応需機能を中心とし、一部の専門分野では三次応需機能を有する高度医療機能の病院」と定義された。

3 地域中核病院の医療圏

人口 30 万人を目途に設定し、国の医療施設基準（人口 10 万対 700 床）を参考に整備する医療圏を設定した。

「横浜市地域中核総合病院計画」策定時（昭和 55 年 12 月）の人口と整備状況は、次のとおり。

横浜市	対象人口	2,774 千人	、人口 10 万対 466 床
中央部	対象人口	810 千人	、人口 10 万対 774 床
南部	対象人口	496 千人	、人口 10 万対 390 床
南西部	対象人口	329 千人	、人口 10 万対 387 床
西部	対象人口	332 千人	、人口 10 万対 200 床
北部	対象人口	274 千人	、人口 10 万対 440 床
北東部	対象人口	324 千人	、人口 10 万対 113 床
東部	対象人口	209 千人	、人口 10 万対 586 床

2 5 市立病院及び地域中核病院の経常収支の概要（平成13年度）

単位 = 万円

区 分	市 立 病 院			地 域 中 核 病 院				
	市民病院	港湾病院	脳血管医療センター	南部病院	西部病院 * 3	横浜労災病院	北部病院	
開院年月（再整備期間）	昭和35年10月 （S58～H3年度再整備）	昭和37年5月	平成11年8月	昭和58年6月	昭和62年5月	平成3年6月	平成13年4月	
病床数及び診療科目数	624床，20科	300床，14科	300床，6科 介護老人保健施設80人	500床，18科	518床，26科	650床，23科	653床 6センター及び14科	
特色	・365日24時間救急 ・感染症指定医療機関 ・がん検診センター併設 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・365日24時間救急 ・脳血管疾患への一貫した治療 ・リハビリテーション ・介護老人保健施設併設	・365日24時間救急 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院 ・循環器系疾患	・救命救急センター ・周産期センター ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・365日24時間救急 ・労災医療 ・リハビリテーション ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院 ・脳・循環器系疾患	・365日24時間救急 ・緩和ケア ・精神科救急 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院 ・がん・心・脳血管疾患 ・老人性痴呆患者の治療	
事業方式	「公設公営」	「公設公営」	「公設公営」	「共同建設方式」 市と済生会が共同で建設	「誘致方式」 聖マリアンナ医大が建設	「誘致方式」 労働福祉事業団が建設	「誘致方式」 昭和大学が建設	
経常収支の状況	収益	1,388,800	595,400	519,400	1,228,100	1,113,700	1,582,200	703,400
	うち医業収益 * 1	1,246,200	537,100	325,000	1,190,500	1,097,000	1,551,100	664,700
	うち入院収益	737,900 (59.2%)	309,200 (57.6%)	264,200 (81.3%)	674,100 (56.6%)	738,500 (67.3%)	1,029,100 (66.3%)	520,500 (78.3%)
	診療単価	37,210 円	34,973 円	29,076 円	42,254 円	43,493 円	44,578 円	43,593 円
	1日当たり患者数（病床利用率）	543 人 [87.1%]	242 人 [80.7%]	249 人 [83.0%]	437 人 [87.4%]	462 人 [89.1%]	633 人 [97.3%]	301 人 [60.5%]
	うち外来収益	316,600 (25.4%)	189,800 (35.3%)	31,600 (9.7%)	493,100 (41.4%)	288,100 (26.3%)	474,700 (30.6%)	144,200 (21.7%)
	診療単価	7,378 円	8,780 円	9,429 円	11,561 円	7,312 円	7,884 円	8,556 円
	1日当たり患者数	1,751 人	882 人	137 人	1,591 人	1,455 人	2,457 人	630 人
	費用	1,472,500	682,600	770,400	1,216,800	1,117,600	1,578,200	764,000
	うち医業費用 * 2	1,402,900	672,900	696,200	1,197,000	1,083,100	1,578,200	764,000
うち人件費	734,800 (59.0%)	351,700 (65.5%)	334,800 (103.0%)	512,900 (43.1%)	433,600 (39.5%)	638,100 (41.1%)	364,800 (54.9%)	
うち材料費	313,000 (25.1%)	190,500 (35.5%)	65,400 (20.1%)	404,700 (34.0%)	271,900 (24.8%)	416,200 (26.8%)	185,800 (27.9%)	
うち経費	253,000 (20.3%)	103,200 (19.2%)	128,900 (39.7%)	250,100 (21.0%)	306,300 (27.9%)	363,500 (23.4%)	211,500 (31.8%)	
うち減価償却費	98,400 (7.9%)	25,500 (4.7%)	166,100 (51.1%)	27,500 (2.3%)	71,300 (6.5%)	153,000 (9.9%)	1,900 (0.3%)	
経常損益	83,600	87,200	250,900	11,300	3,900	3,900	60,600	

* 1 医業収益の（ ）内は、医業収益全体に占める構成比。

* 2 医業費用の（ ）内は、医業収益比率。

* 3 西部病院の経常収支は、平成12年度。

26 市立病院・中核病院の比較

区分	市立病院				地域中核病院				
	市民病院	港湾病院	新港湾病院	脳血管医療センター	南部病院	西部病院	横浜労災病院	北部病院	
開院年月(再整備期間)	昭和35年10月 (S58~H3年度再整備)	昭和37年5月	(平成12年度~再整備中)	平成11年8月	昭和58年6月	昭和62年5月	平成3年6月	平成13年4月	
病床数及び診療科目数	624床, 20科	300床, 14科	634床, 22科	300床, 6科 老人保健施設80人	500床, 18科	518床, 26科	650床, 23科	653床 6センター及び14科	
特色	・365日24時間救急 ・感染症指定医療機関 ・がん検診センター併設 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・365日24時間救急 ・精神科救急 ・緩和ケア ・がん・心・脳血管疾患 ・老人性痴呆患者の合併症治療 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・365日24時間救急 ・脳血管疾患への一貫した治療 ・リハビリテーション ・介護老人保健施設併設	・365日24時間救急 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院 ・循環器系疾患	・救命救急センター ・周産期センター ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院	・365日24時間救急 ・労災医療 ・リハビリテーション ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院 ・脳・循環器系疾患	・365日24時間救急 ・緩和ケア ・精神科救急 ・災害医療拠点病院 ・臨床研修病院 ・がん・心・脳血管疾患 ・老人性痴呆患者の治療	
事業方式	「公設公営」	「公設公営」	-	「公設公営」	「共同建設方式」 市と済生会が共同で建設	「誘致方式」 聖マリアンナ医大が建設	「誘致方式」 労働福祉事業団が建設	「誘致方式」 昭和大学が建設	
*1 経常収支	経常収益	138億8,800万円	59億5,400万円	127~132億円	51億9,400万円	122億8,100万円	112億6,000万円	158億2,200万円	*3 70億3,400万円
	*2 横浜市一般会計負担額	22億4,600万円	11億5,800万円	35~40億円	17億8,000万円	5,200万円	1億2,800万円	1,000万円	4,500万円
	内訳	・救急医療等経費 14億3,200万円 ・高度・特殊医療等経費 4億6,900万円 ・基礎年金拠出等経費 3億4,500万円	・救急医療等経費 3億9,500万円 ・高度・特殊医療等経費 3億1,600万円 ・基礎年金拠出等経費 1億6,400万円 ・運営資金補填額 2億8,200万円	・救急医療等経費 11億~12億円 ・高度・特殊医療等経費 3億~4億円 ・基礎年金拠出等経費 約3億円 ・運営資金補填額 18億~21億円	・救急医療等経費 2億0,000万円 ・高度・特殊医療等経費 9億9,700万円 ・基礎年金拠出等経費 1億7,700万円 ・運営資金補填額 4億0,500万円	・救急医療体制運営費 2,300万円 ・病院群輪番制運営費 2,500万円 ・母子二次救急システム運営 400万円	・救命救急センター運営 4,800万円 ・周産期センター運営費 8,000万円	小児救急医療委託 1,000万円	・救急医療体制運営費 2,300万円 ・精神科救急運営費 1,400万円 ・病院群輪番制運営費 800万円
	経常費用	147億2,500万円	68億2,600万円	169~170億円	77億 400万円	121億6,800万円	114億8,400万円	157億8,200万円	*3 76億4,000万円
	経常損益	8億3,600万円	8億7,200万円	38~42億円	25億 900万円	1億1,300万円	2億2,400万円	3,900万円	6億 600万円
	1床当たり経常収益	2,226万円	1,985万円	2,000~2,100万円	*4 1,367万	2,456万円	2,173万円	2,434万円	*3 1,077万円
	1床当たり横浜市一般会計負担額	360万円	386万円	560~620万円	*4 468万	10万円	25万円	2万円	7万円
	1床当たり経常費用	2,360万円	2,275万円	2,600~2,700万円	*4 2,027万円	2,433万円	2,217万円	2,428万円	*3 1,170万円
	1床当たり経常損益	134万円	291万円	600~650万円	*4 660万円	23万円	43万円	6万円	93万円

76

*1 整備費に対する横浜市一般会計負担	14億7,600万円	4億3,500万円	18億2,400万円	10億 500万円	*9 3億8,400万円	*9 2億3,000万円	-	*9 4億4,800万円
*5 用地	本市が一般会計で取得し、病院事業会計に所管換え	本市が一般会計で取得し、病院事業会計に所管換え	*6 病院事業会計で起債にて取得	一般会計所有地を病院事業会計に所管換え	本市が取得し、無償貸付(30年間)	本市が取得し、無償貸付(30年間)	本市が取得し、有償貸付(30年間)	本市が取得し、無償貸付(30年間)
建設費	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	・設計監理費は本市負担 ・建設費の約2分の1を本市負担 ・負担割合に応じ建物を持分所有	・設計監理費は本市負担 ・建設費の約10分の1を本市負担	建設工事は労災病院で施(本市負担はなし)	・設計監理費は本市負担 ・建設費の約10分の1を本市負担
*7 4億6,200万円	*7 9,300万円	*8 8億5,900万円	*8 5億6,200万円	1億6,600万円	7,300万円	-	2億4,300万円	
医療機器整備費	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	起債にて実施し、償還時に2/3を一般会計から繰入	医療機器整備費の4分の3を補助	医療機器整備費の10分の1を補助(救命救急センター・周産期センターは別途補助)	本市購入分(40億円)を有償貸付	医療機器整備費の10分の1を補助
*7 3億0,200万円	*7 1億3,200万円	*8 5億8,200万円	*8 1億9,600万円	5,000万円	1,500万円	-	2,700万円	
支払利息	償還時に2/3を一般会計から繰入	償還時に2/3を一般会計から繰入	償還時に2/3を一般会計から繰入	償還時に2/3を一般会計から繰入	借入金利息を全額補助	事業主体負担事業費の2分の1を対象とする借入金利息補助	-	事業主体負担事業費の2分の1を対象とする借入金利息補助
*7 7億1,200万円	*7 2億1,000万円	*8 3億8,300万円	*8 2億4,700万円	1億6,800万円	1億4,200万円	-	*10 1億7,800万円	
1床当たり横浜市一般会計負担額	237万円	145万円	288万円	265万円	77万円	44万円	-	69万円

*1 経常収支は平成13年度決算額、整備費に対する一般会計負担額は全体事業費のうちの横浜市負担額から算出した。ただし、新港湾病院の経常収支は、平成13年度市民病院決算数値等をもとに病床利用率84%~90%の幅で試算した

*2 経常収支中「横浜市一般会計負担額」は、市立病院については繰入金、地域中核病院については補助金又は委託料として病院の収益となっているもの

*3 北部病院は平成13年4月一部開院で段階的に開院したため、経常収益及び費用が低くなっている。また、1床当たり経常収益及び費用の算出には許可病床数を用いたため、他病院と比較して低く算出されている

*4 脳血管医療センターの1床当たり経常収支は、老人保健施設の定員を病床数と同義にとらえ、380床として算出した

*5 用地は、市立病院・地域中核病院ともに横浜市一般会計において取得しており、同一条件といえること(新港湾病院を除く)、また、各病院の用地の購入時点が異なり大幅な価格のひらきがあることから、算出から除外した

*6 新港湾病院の用地については、病院事業会計で、起債で取得しているため横浜市一般会計の負担が生じているが、他の病院との比較のため、この表では計上していない。

*7 市民病院・港湾病院の建設費、医療機器整備費及び支払利息は、貸借対照表の簿価に基づいて、建設費及び建設費に係る支払利息については30年、医療機器整備費及び医療機器整備費に係る支払利息については10年で除して算出した

*8 新港湾病院・脳血管医療センターの建設費、医療機器整備費及び支払利息は、各病院の償還計画における元利償還総額をもとに、建設費及び建設費に係る支払利息については30年、医療機器整備費及び医療機器整備費に係る支払利息については10年で除して算出した

*9 地域中核病院の整備費に対する横浜市一般会計負担額は各項目の負担総額を30年で除して算出した

*10 北部病院の整備費に対する横浜市一般会計負担額のうち、支払利息は、現在の支払計画額をもとに算出した

27 市立病院の人事管理について

1 医師の所属医局について

病院名	主な所属医局
市民病院	慶応義塾大学・横浜市立大学
港湾病院	横浜市立大学
脳血管医療センター	横浜市立大学・東海大学

2 看護職（看護師・助産師）の採用状況

選考年度	11	12	13
受験者数	810人	840人	765人
合格者数	364人	396人	536人
倍率	2.2倍	2.1倍	1.4倍
採用者数	289人	272人	407人

3 看護職（看護師・助産師・准看護師）の平均勤続年数，平均年齢（平成14年9月1日現在）

	市民病院	港湾病院	脳血管C (老健含む)	3病院合計
病床数	624床	300床	300床 80人(老健)	1224床 80人(老健)
人数	519人	214人	290人	1023人
平均勤続年数	8.5年	9.3年	6.8年	8.2年
平均年齢	32.1才	33.2才	30.6才	31.9才

4 事務職員について

(1) 採用

横浜市職員として一括採用された職員を配置しています。

(2) 平均病院業務経験年数及び平均年齢（平成14年9月1日現在）

	市民病院		港湾病院		脳血管医療センター		合計	
	経験	年齢	経験	年齢	経験	年齢	経験	年齢
管理職	4.7	44.7	5.9	46.8	5.3	47.7	5.2	46.2
職員	4.8	34.3	4.5	35.0	4.6	35.1	4.7	34.6
合計	4.8	36.8	5.0	38.8	4.8	40.0	4.9	38.1

衛生局病院及び市立大学病院，衛生局病院事業課の通算経験年数

2 8 市立病院の経営の現状について

1 経営状況（平成13年度までは決算額、14年度は予算額）

【医業収支】《診療等の収入から費用を差し引いた収支》（単位：百万円）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
市民病院	1,617	1,513	1,683	1,567	2,172
港湾病院	904	898	1,009	1,357	1,259
脳血管医療センター		2,469	3,911	3,712	3,788
計	2,521	4,880	6,603	6,636	7,219

脳血管医療センターは平成11年8月に開院、12年6月全床オープン。

【経常収支】《総収入から総費用を差し引いた収支》（単位：百万円）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
市民病院	755	613	757	836	1,238
港湾病院	384	379	484	872	708
脳血管医療センター		1,512	3,093	2,509	2,429
計	1,139	2,504	4,334	4,217	4,375

脳血管医療センターは平成11年8月に開院、12年6月全床オープン。

【繰入金】《地方公営企業法に基づく一般会計からの負担金，補助金》（単位：百万円）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
市民病院	2,725 (2,444)	2,711 (2,450)	2,728 (2,464)	2,802 (2,558)	2,834 (2,595)
港湾病院	1,559 (852)	1,507 (860)	1,634 (856)	1,671 (886)	2,589 (911)
脳血管医療センター	426 (19)	3,791 (1,689)	1,627 (1,290)	2,679 (1,749)	3,806 (1,852)
計	4,710 (3,315)	8,009 (4,999)	5,989 (4,610)	7,152 (5,193)	9,229 (5,358)

収益的収入と資本的収入の合計額。下段（ ）内は収益的収入。

地方公営企業法で認められている主なもの

救急、集団検診、感染症等の政策医療

ICU、高度医療機器等の高度医療

リハビリテーション等の特殊医療

建設工事、企業債の償還等の建設改良費

2 収 入 (平成12年度決算値)

【診療単価】《診療単価=診療報酬+自主料金(選定療養費(除室料),分べん料,文書料)》

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
入院診療単価円	37,605	35,064	29,091	42,043	43,493	44,039	39,655	32,700
外来診療単価	9,974	8,531	8,448	10,973	7,916	10,653	9,555	8,200
入院収益(百万円)	7,447	3,129	2,276	6,789	7,385	9,587	7,369	-
外来収益	4,357	1,822	234	4,677	2,881	6,401	3,342	-

「病院経営実態調査報告」、「病院経営分析報告」
(全国公私病院連盟)による。

【自主料金】《診療報酬以外で、病院が独自に徴収できる料金》 (単位:円)

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市
自賠償診断書	3,150	3,150	3,150	5,250	5,250	5,250	3,885
その他の診断書	1,050	1,050	1,050	2,100	2,625	2,500	1,702
分 娩 料	80,000	80,000	-	115,000	100,000	146,667	82,231
初診時特定療養費	1,380	1,140	1,700	2,100	1,500	3,000	0~1,700

【病床稼働率】《年間延病床数に対する実稼働病床数の割合》

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
病 床 数 (床)	624	300	300	500	518	650	592	231
病床稼働率 (%)	87.0	81.5	75.0	88.5	89.1	96.7	89.6	81.7
1床当りの収入(円)	11,935	10,432	7,965	13,579	14,257	14,749	12,448	9,867

3 費用（平成12年度決算値）

【人件費】

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
職員数（人）	771	352	416	640	654	964	-	-
人件費（百万円）	6,623	2,931	3,066	4,060	4,279	5,906	-	-
医業収益比率（%）	53.2	58.8	119.3	34.5	40.3	35.6	63.2	49.0

[参考] 職員数等

《100床当たり職員数》

（単位：人）

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
全職員	123.6	117.3	139.8	128.0	130.7	148.3	120.9	127.5
医師	15.1	14.7	9.7	17.6	26.8	22.2	16.1	13.1
看護職員	79.2	65.0	87.0	79.4	74.5	72.5	76.3	71.6

《医師、看護職員1人当たり患者数》

（単位：人）

		市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
医師	入院	4.9	5.4	7.3	5.0	3.3	4.4	5.3	7.4
	外来	10.8	12.8	2.6	17.5	10.5	17.1	10.0	15.4
看護職員	入院	1.0	1.3	0.8	1.1	1.2	1.3	1.2	1.6
	外来	2.1	3.2	0.3	3.9	3.8	5.2	2.3	-

【薬品費】

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
薬品費(百万円)	3,276	1,304	278	2,863	1,610	2,660	-	-
医業収益比率（%）	26.3	26.2	10.8	24.3	15.2	16.0	-	16.3

【経費】《病院施設の運営に要する費用》

	市民病院	港湾病院	脳血管	南部病院	西部病院	労災病院	指定都市	民間病院
経費総額（百万円）	2,632	1,024	1,197	2,296	3,063	3,684	-	-
うち委託料	1,502	657	808	1,252	1,603	1,683	-	-
うち光熱水費	398	133	230	278	345	392	-	-
医業収益比率（%）	24.5	24.1	50.4	19.5	28.9	22.2	23.6	16.7

1 3 大都市主要病院経営状況(1 2 年度自治省決算統計資料)

	病床数	(百万円)	(百万円)	経常収支 比率 (%)	繰入金を除く 経常収支 比率 (%)	繰入金を除く医業収益に占める費用の割合 (%)			
		経常収支	繰入額			人件費	材料費	経費	減価 償却費
札幌市立病院	820	1,338	3,813	93.5	81.2	51.4	34.3	17.1	11.5
仙台市立病院	525	118	3,068	101.0	80.9	61.2	34.4	23.5	1.9
千葉市立病院	301	10	1,458	100.1	78.9	61.2	22.3	25.8	10.3
東京都立東横病院	500	304	3,379	97.1	65.0	79.8	31.1	30.4	8.9
川崎市立川崎病院	733	1,031	5,781	95.0	66.7	55.0	33.1	25.4	17.1
名古屋市立東市民病院	498	18	1,403	100.2	83.4	67.3	25.8	15.4	6.4
京都市立京都市立病院	586	0	2,593	100.0	81.5	57.0	36.3	13.9	8.2
大阪府立大塚総合医療センター	1,063	385	10,078	98.8	68.3	61.8	37.1	22.4	13.0
神戸市立中央市民病院	792	41	4,305	99.8	83.3	59.3	37.2	17.1	4.1
広島市立広島市民病院	825	437	2,492	97.9	89.0	50.4	35.5	20.0	5.4
北九州市立医療センター	636	138	1,583	101.3	89.4	47.9	26.3	19.9	7.0
福岡市立市民病院	200	345	929	93.0	74.0	45.1	37.4	22.3	10.3
市民病院	624	757	2,728	95.2	79.7	53.2	35.8	24.5	7.5
港湾病院	300	484	1,634	92.4	78.9	58.8	37.7	24.1	5.4
脳血管医療センター	300	3,093	1,627	57.5	39.8	119.3	19.6	50.4	69.4

繰入額については、収益的収入と資本的収入の合計額

地域中核病院経営状況(1 2 年度決算)

	病床数	(百万円)	(百万円)	経常収支 比率 (%)	繰入金を除く 経常収支 比率 (%)	市補助金を除く医業収益に占める費用の割合 (%)			
		経常収支	繰入額			人件費	材料費	経費	減価 償却費
南部病院	500	193	202	101.6	100.1	44.5	33.2	19.5	2.1
西部病院	518	39	364	99.6	96.4	40.9	25.6	28.9	6.7
労災病院	650	124	0	100.7	100.7	36.6	32.0	24.9	9.8

2 9 市立病院経営状況統計資料

目 次

市立病院業務実績（平成13年度決算）

1 - 1	収入	8 3 頁
1 - 2	支出	8 4 頁
2	患者実績	8 5 頁
3	患者一人あたりの診療収入	8 6 頁
4	業務実績	8 6 頁
市立病院の経常収支の推移		8 7 頁

市立病院業務実績（平成13年度）

（単位：千円）

1 - 1 収入

	市民病院			港湾病院			脳血管医療センター		
	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減
病院事業収益	13,888,408	15,099,120	1,210,712	5,953,833	5,876,736	77,097	5,194,435	4,183,709	1,010,726
医業収益	12,461,743	13,674,550	1,212,807	5,371,055	5,324,930	46,125	3,249,582	2,745,561	504,021
入院収益	7,378,573	7,447,184	68,611	3,092,311	3,129,528	37,217	2,641,762	2,276,792	364,970
外来収益	3,165,809	4,356,500	1,190,691	1,898,217	1,822,220	75,997	315,860	234,203	81,657
検診収益	288,902	316,966	28,064						
室料差額収益	309,091	330,318	21,227	34,560	32,895	1,665	91,455	58,856	32,599
一般会計繰入金	1,319,368	1,223,582	95,786	345,967	340,287	5,680	200,505	175,710	24,795
医業外収益	1,426,665	1,424,570	2,095	582,778	551,806	30,972	1,618,417	1,165,060	453,357
国・県補助金	43,286	44,413	1,127	5,671	5,954	283	1,656	0	1,656
一般会計繰入金	1,238,538	1,240,642	2,104	539,683	515,783	23,900	1,548,186	1,114,718	433,468
その他	144,841	139,515	5,326	37,424	30,069	7,355	68,575	50,342	18,233
介護老人保健施設収益							326,436	273,088	53,348
入所収益							292,152	241,740	50,412
通所者収益							23,603	23,843	240
室料差額収益							10,680	7,504	3,176
その他							1	1	0

経常収支	836,420	756,827	79,593	871,789	484,362	387,427	2,509,127	3,092,809	583,682
医業収支	1,567,088	1,682,931	115,843	1,357,396	1,008,818	348,578	3,711,740	3,911,457	199,717
現金収支	366,372	427,489	61,117	552,737	181,037	371,700	740,376	1,310,064	569,688

病院事業資本的収入	244,475	263,511	19,036	5,407,403	10,765,154	5,357,751	930,531	336,326	594,205
資本的収入	244,475	263,511	19,036	5,407,403	10,765,154	5,357,751	930,531	336,326	594,205
企業債	0	0	0	4,622,000	9,987,000	5,365,000	0	0	0
一般会計繰入金	244,475	263,511	19,036	785,403	778,154	7,249	930,531	336,326	594,205
国・県補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0

資本的収支不足額	640,495	712,280	71,785	112,551	170,089	57,538	266,490	170,262	96,228
----------	---------	---------	--------	---------	---------	--------	---------	---------	--------

長期借入金	0	0	0	422,912	351,126	71,786	973,129	1,370,725	397,596
-------	---	---	---	---------	---------	--------	---------	-----------	---------

1 - 2 支出

(単位：千円)

	市民病院			港湾病院			脳血管医療センター		
	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減
病院事業費用	14,724,828	15,855,947	1,131,119	6,825,622	6,361,098	464,524	7,703,562	7,276,518	427,044
医業費用	14,028,831	15,357,481	1,328,650	6,728,451	6,333,748	394,703	6,961,322	6,657,018	304,304
給与費	7,348,355	7,038,150	310,205	3,516,729	3,110,543	406,186	3,347,953	3,165,455	182,498
うち職員給与費	6,943,704	6,623,038	320,666	3,319,959	2,931,459	388,500	3,228,942	3,066,575	162,367
材料費	3,129,707	4,458,901	1,329,194	1,905,307	1,876,989	28,318	653,949	504,642	149,307
薬品費	1,949,747	3,276,154	1,326,407	1,346,053	1,303,869	42,184	395,045	278,389	116,656
診療材料費	1,019,793	1,009,916	9,877	472,942	491,335	18,393	163,902	149,142	14,760
給食材料費	145,250	153,117	7,867	70,508	70,167	341	91,104	75,330	15,774
医療消耗備品費	14,917	19,714	4,797	15,804	11,618	4,186	3,898	1,781	2,117
経費	2,530,065	2,632,398	102,333	1,031,900	1,024,121	7,779	1,289,115	1,196,503	92,612
光熱水費	389,101	397,870	8,769	127,275	133,390	6,115	208,091	229,913	21,822
修繕費	123,730	105,510	18,220	59,698	39,584	20,114	5,406	4,649	757
賃借料	412,808	436,656	23,848	77,251	78,789	1,538	87,314	87,717	403
委託料	1,428,308	1,501,933	73,625	650,534	656,941	6,407	920,653	808,352	112,301
その他	176,118	190,429	14,311	117,142	115,417	1,725	67,651	65,872	1,779
研究研修費	37,119	43,716	6,597	19,583	18,770	813	9,293	7,673	1,620
減価償却費等	983,585	1,184,316	200,731	254,932	303,325	48,393	1,661,012	1,782,745	121,733
医業外費用	695,997	498,466	197,531	97,171	27,350	69,821	742,240	619,500	122,740
支払利息及び諸費	468,494	489,083	20,589	20,479	19,320	1,159	634,466	619,404	15,062
繰延勘定償却 控除対象外消費税	219,207	0	219,207	64,120	0	64,120	107,739	0	107,739
その他	8,296	9,383	1,087	12,572	8,030	4,542	35	96	61
予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0

病院事業資本的支出	884,970	975,791	90,821	5,519,954	10,935,243	5,415,289	1,197,021	506,588	690,433
建設改良費	518,258	580,516	62,258	5,051,361	10,301,970	5,250,609	1,159	1,140	19
企業債償還金	366,712	395,275	28,563	186,424	172,486	13,938	790,499	505,448	285,051
長期借入金返還金				282,169	460,787	178,618	405,363	0	405,363

一般会計繰入金計	2,802,381	2,727,735	74,646	1,671,053	1,634,224	36,829	2,679,222	1,626,754	1,052,468
収益的収入	2,557,906	2,464,224	93,682	885,650	856,070	29,580	1,748,691	1,290,428	458,263
資本的収入	244,475	263,511	19,036	785,403	778,154	7,249	930,531	336,326	594,205

2 患者実績

	市民病院			港湾病院			脳血管医療センター			
	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減	
入院	延患者数(人)	198,298	198,038	260	88,419	89,253	834	90,858	78,265	12,593
	1日平均患者数(人)	543	543	0	242	245	3	249	214	35
	平均在院日数(日)	17.5	18.4	0.9	16.9	16.5	0.4	54.8	55.2	0.4
	一般病床利用率(%)	90.5	90.4	0.1	80.7	81.5	0.8	83.0	75.0	8.0
外来	延患者数(人)	429,103	436,808	7,705	216,190	214,047	2,143	33,499	27,722	5,777
	初診(人)	37,020	39,883	2,863	13,666	13,791	125	2,568	2,337	231
	再診(人)	392,083	396,925	4,842	202,524	200,256	2,268	30,931	25,385	5,546
	1日平均患者数(人)	1,751	1,783	32	882	874	8	137	113	24
	紹介率(%)	33.7	31.8	1.9	28.1	27.0	1.1	78.1	74.6	3.5
	逆紹介率(%)	49.3	43.5	5.8	73.2	78.1	4.9	89.4	60.3	29.1
	院外処方せん発行率(%)	90.4	20.5	69.9	2.3	2.4	0.1	0.2	0.1	0.1
	救急患者数(人)	12,042	11,814	228	5,029	4,977	52	1,613	1,299	314
うち直入院患者数(人)	2,283	2,112	171	817	823	6	1,084	906	178	
がん検診	一次検診者数(人)	36,846	35,955	891						
	1日平均(人)	150	147	4						
	二次検診者数(人)	25,919	25,740	179						
	1日平均(人)	106	105	1						
介護老人保健	入所者数(人)						21,923	18,291	3,632	
	1日平均(人)						60	50	10	
	通所者数(人)						2,091	2,151	60	
	1日平均(人)						9	9	0	

3 患者1人1日あたりの診療収入

(単位：円)

	市民病院			港湾病院			脳血管医療センター		
	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減
入院	37,210	37,605	395	34,973	35,064	91	29,076	29,091	15
基本診療料	18,230	18,199	31	17,002	17,053	51	15,601	15,732	131
投薬・注射料	4,600	5,034	434	4,314	3,858	456	2,127	1,665	462
処置・手術料	8,872	8,752	120	8,697	9,125	428	1,371	1,491	120
検査料	2,755	2,663	92	2,328	2,338	10	1,300	1,199	101
画像診断料	1,432	1,521	89	1,098	1,100	2	1,730	1,726	4
その他	1,321	1,436	115	1,534	1,590	56	6,947	7,278	331
外来	7,378	9,973	2,595	8,780	8,513	267	9,429	8,448	981
基本診療料	781	761	20	968	975	7	873	839	34
投薬・注射料	1,093	4,135	3,042	4,188	3,928	260	4,045	3,123	922
処置・手術料	292	270	22	327	355	28	94	125	31
検査料	2,072	1,960	112	1,703	1,704	1	1,183	1,074	109
画像診断料	1,200	1,209	9	1,084	1,050	34	1,927	2,005	78
その他	1,940	1,638	302	510	501	9	1,307	1,282	25

4 業務実績

(単位：件)

	市民病院			港湾病院			脳血管医療センター		
	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減	平成13年度	平成12年度	増減
手術件数	4,096	3,952	144	2,501	2,554	53	96	81	15
分娩件数	697	752	55	238	266	28			
検査件数	2,387,768	2,610,968	223,200	1,455,960	1,503,909	47,949	125,250	104,334	20,916
放射線件数	176,582	172,889	3,693	467,632	392,688	74,944	6,258	5,629	629
調剤件数	734,663	741,410	6,747	420,605	433,280	12,675	150,965	121,181	29,784
解剖件数	23	42	19	31	28	3	6	11	5
M R I	2,438	2,924	486	2,541	2,559	18	3,999	3,484	515
C T	6,682	6,958	276	4,606	4,001	605	3,762	3,141	621
血管撮影装置	865	790	75	235	270	35	203	227	24
リニアック	3,620	6,022	2,402						
P E T							463	382	81

市立病院の経常収支の推移

(単位：百万円)

		10年度	11年度	12年度	13年度 (決算)	14年度 (予算)
市民病院	収益的収入	15,140	15,229	15,099	13,888	14,441
	収益的支出	15,895	15,842	15,856	14,725	15,679
	経常収支	755	613	757	837	1,238
	経常収支比率	95.3%	96.1%	95.2%	94.3%	92.1%
	繰入金	2,444	2,449	2,464	2,558	2,595
	実質収支比率	79.9%	80.7%	79.7%	76.9%	75.6%
港湾病院	収益的収入	5,787	5,973	5,877	5,954	6,573
	収益的支出	6,171	6,352	6,361	6,826	7,281
	経常収支	384	379	484	872	708
	経常収支比率	93.8%	94.0%	92.4%	87.2%	90.3%
	繰入金	852	860	856	886	911
	実質収支比率	80.0%	80.5%	78.9%	74.2%	77.8%
脳血管医療センター	収益的収入	26	2,885	4,183	5,194	5,950
	収益的支出	96	4,397	7,276	7,703	8,379
	経常収支	70	1,512	3,093	2,509	2,429
	経常収支比率	27.1%	65.6%	57.5%	67.4%	71.0%
	繰入金	19	1,689	1,290	1,749	1,852
	実質収支比率	7.3%	27.2%	39.8%	44.7%	48.9%

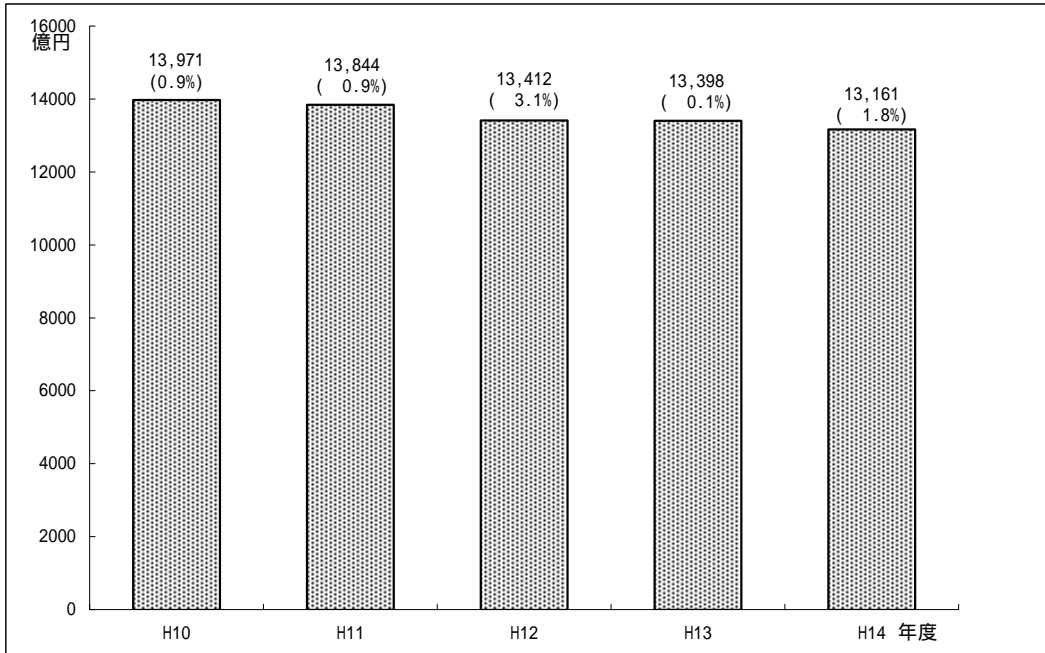
実質収支比率は、繰入金を除いた収支比率。
脳血管医療センターは平成11年8月開院。

30 市立病院のこれまでの経営改善の取組

年 度	市 民 病 院	港 湾 病 院	脳血管医療センター
8 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・直営洗濯業務の委託化 ・卵巣がん検診の実施 ・病床管理システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食調理業務の委託化拡大 ・病棟薬剤管理指導業務の開始 	/
9 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・初診時の非紹介患者に対する特定療養費の徴収 ・地域医療連携室と医療相談室の統合 ・注射薬患者個別セット渡しの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・初診時の非紹介患者に対する特定療養費の徴収 ・形成外科の実施 ・入院処置伝票等の改善 	
10年度	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃委託仕様の見直しによる委託料の削減 ・滅菌業務の院外処理の廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ・診療材料管理システムの導入 ・稼働手術室の増(4室から5室)等による患者数の増 	
11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期入院加算の取得(紹介率30%以上 平均在院日数20日以内) ・院内保育所の委託化 ・光熱水費の節減 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床管理の一元化 ・院内保育所の委託化 ・救急医療体制の拡充 	
12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特別室使用料の改定 ・給食調理業務の全面委託化 ・診療材料管理システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別室使用料の改定 ・看護職員民間借り上げ宿舎の整理による経費削減 	
13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・院外処方せん全面实施 ・委託業務契約の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院診療計画実施の拡大 ・診療材料の採用品目の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・病床利用率の向上 ・コジェネレーション設備の効率的な運転による光熱水費の節減

3 1 横浜市の財政状況について

一般会計予算規模の推移



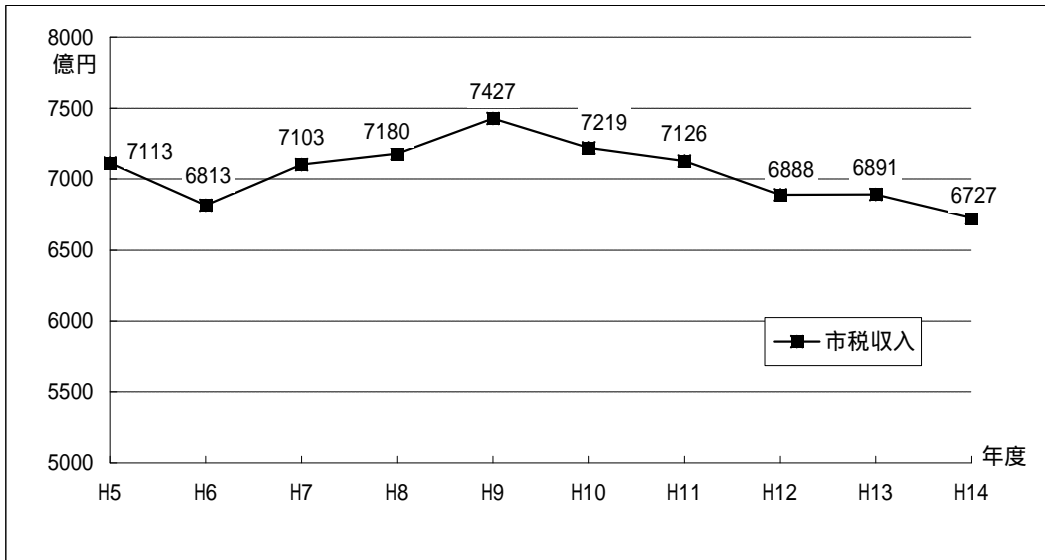
単位：億円，%

一般会計	H10					H11					H12					H13					H14				
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率									
	13,971	0.9	13,844	0.9	13,412	3.1	13,398	0.1	13,161	1.8															

()内は伸び率を示します。

数値は当初予算、ただし10年度は6月補正後、14年度は5月補正後の予算です。

市税収入と伸び率の推移



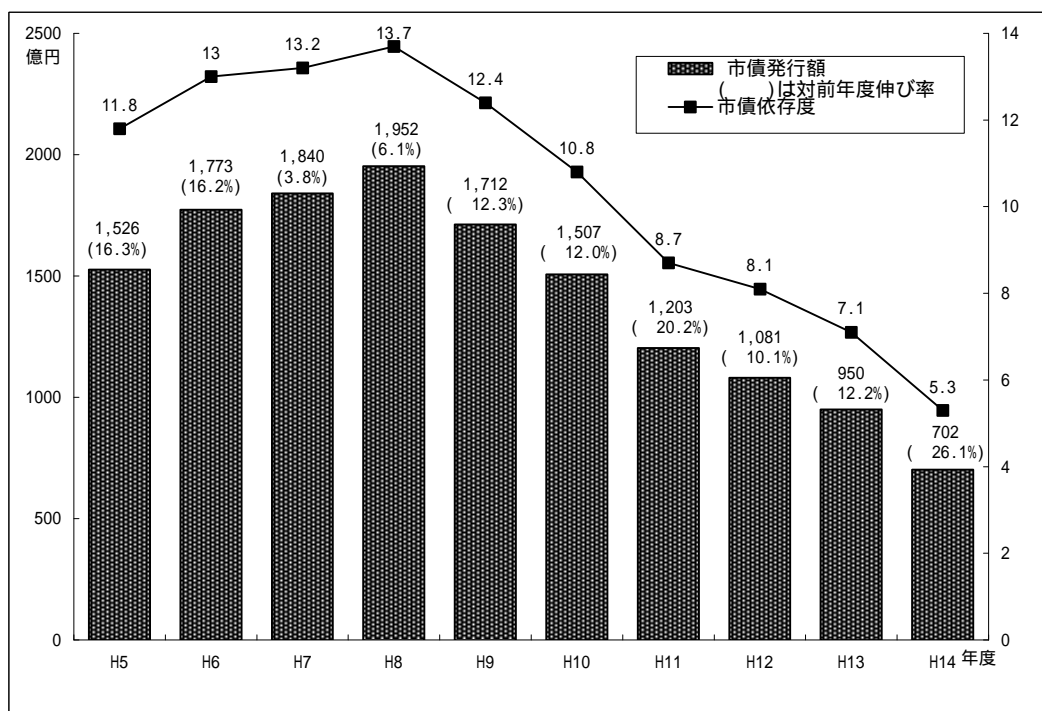
単位：億円，%

市税収入	H5					H6					H7					H8					H9				
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率									
	7,113	1.4	6,813	4.2	7,103	4.3	7,180	1.1	7,427	3.4															

H10	H11	H12	H13	H14
7,219	7,126	6,888	6,891	6,727
2.8	1.3	3.3	0.0	2.4

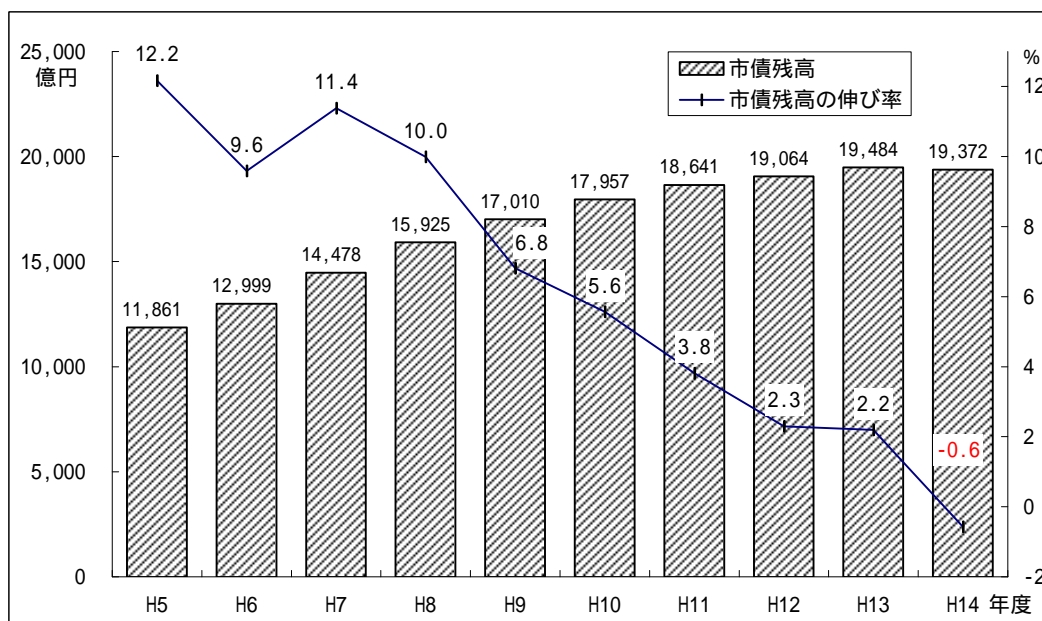
5年度から12年度までは決算、13年度は決算見込、14年度は実収見込です。

一般会計市債計上額と市債依存度の推移



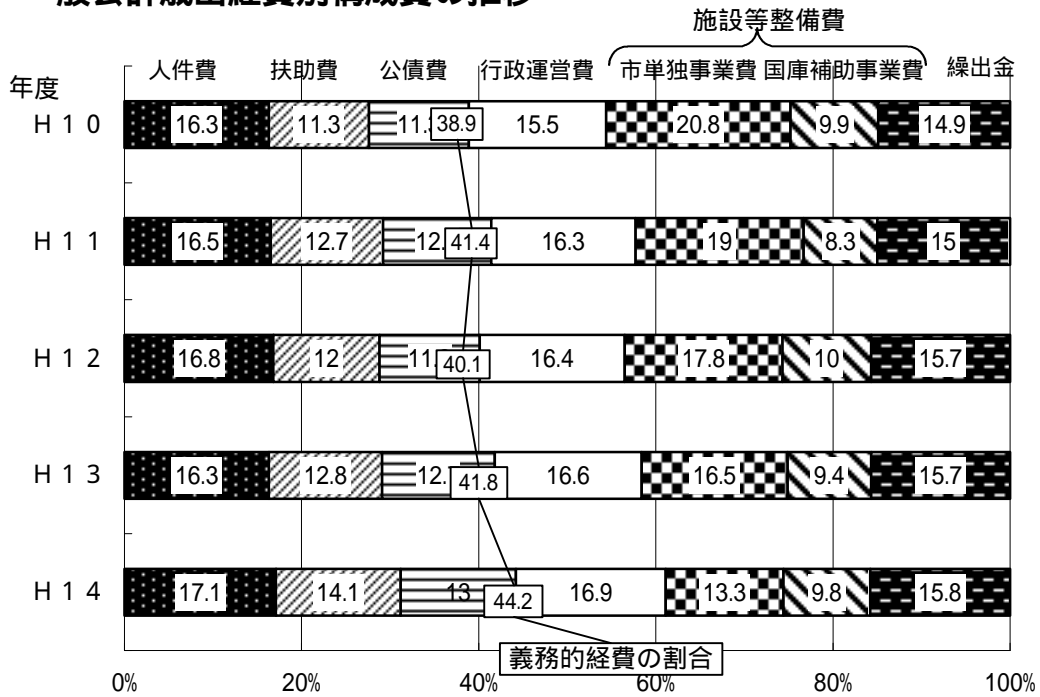
市債計上額は一般会計当初予算、ただし6年度及び10年度は6月補正後、14年度は5月補正後の予算です。

一般会計市債残高と伸び率の推移



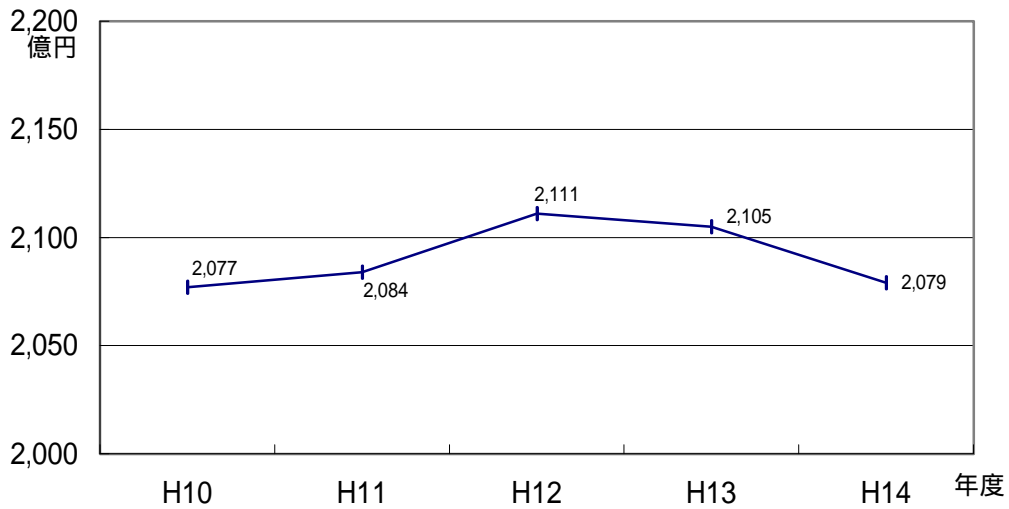
市債残高は5年度から12年度までは決算、13年度は2月補正後、14年度は5月補正後の予算数値です。

一般会計歳出経費別構成費の推移



注：数値は当初予算、ただし10年度は6月補正後、14年度は5月補正後の予算で

一般会計歳出における繰出金の推移



単位：億円

		H10	H11	H12	H13	H14
繰出金	金額	2,077	2,084	2,111	2,105	2,079
	構成比	14.9	15.0	15.7	15.7	15.8

横浜市市立病院あり方検討委員会
座 長

横浜市長 中 田 宏

横浜市市立病院のあり方について（諮問）

次の事項について貴委員会の御意見を承りたく、次の事項を諮問します。

- 1 市立病院の役割
- 2 経営上の課題とその対策
- 3 経営形態

〔 諮問理由 〕

市立病院は、これまで、市民が安心できる地域医療を確保するとともに、市内に不足する医療や一般医療機関では対応が困難な政策的医療、高度・専門医療などを適正に提供することを基本的な役割として、運営してきたところです。

一方、一般的な医療の提供体制が充実しつつあり、一部の保健医療圏では病床が過剰となっているとともに、少子・高齢化の本格的な進展や生活環境の変化などに伴って、市民の医療ニーズの多様化が進んでいます。

また、医療制度改革の流れの中で、市立病院を取り巻く経営環境は大きく変化しているとともに、本市の財政状況もますます厳しさを増しています。

こうした状況を踏まえ、市立病院が今後担っていくべき役割や他の医療機関との連携、経営上の課題とその対策及び経営形態について、行政の市民医療への責任とサービス提供のあり方の面から早急に検討を行う必要があります。

答申については、平成15年3月末までをお願いします。

なお、港湾病院については、再整備後の病院運営に適切に反映させるため、他の事項に優先して年内の答申をお願いします。

横浜市市立病院あり方検討委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、横浜市病院事業の設置等に関する条例（昭和41年12月条例第60号）第3条第2項に規定する病院事業が経営する病院（以下「市立病院」という。）のあり方を検討するために設置する横浜市市立病院あり方検討委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について検討し、その結果を市長に報告する。

- (1) 市立病院の役割
- (2) 現行の経営上の課題とその対策
- (3) 経営形態

(組織)

第3条 委員会は、医療経済や病院経営の専門家等のうちから市長が委嘱する委員8人以内で構成する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、平成14年8月27日から平成15年3月31日までとする。

(座長)

第5条 委員会に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選により選出する。
- 3 座長は、委員会の会務を総理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、座長が招集する。

- 2 会議の議長は、座長が務める。
- 3 委員会は、必要に応じ、委員以外の者に会議への出席を求め、又は他の方法により意見を聴取することができる。

(会議の公開)

第7条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）第31条に基づき、会議を公開する。

- 2 会議の公開に関し必要な事項は、横浜市審議会等の公開に関する要綱（平成12年6月26日市市情第44号）の定めるところによる。

(庶務)

第 8 条 委員会の庶務は、衛生局医療対策部病院事業課において処理する。

(その他)

第 9 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、座長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年8月27日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、平成15年3月31日限り、その効力を失う。

横浜市市立病院あり方検討委員会の公開に関する要領

(目的)

第1条 この要領は、横浜市審議会等の会議の公開に関する要綱第6条第4項及び横浜市市立病院あり方検討委員会設置要綱第7条に基づき、横浜市市立病院あり方検討委員会(以下「委員会」という。)の公開について、必要な事項を定める。

(傍聴の定員)

第2条 委員会の傍聴を認める者(以下「傍聴者」という。)の定員は、衛生局長が定める。

(傍聴希望の登録)

第3条 委員会の傍聴を希望する者は、委員会開催当日の開催時刻の1時間前から30分前までの間に、会場において傍聴申込みの受付を済ませなければならない。

2 前項において、傍聴を希望する者が定員を超えたときは、開始時刻の30分前までに受付を済ませた者の中から抽選を行い、傍聴者を決定するものとする。

ただし、定員に満たない場合には、受付終了後、委員会開催時刻まで、会場にて先着順により傍聴の申し込みを受け付けるものとする。

3 傍聴者は傍聴人名簿に、住所及び氏名を登録しなければならない。

(秩序の維持)

第4条 傍聴者は、会場の指定された場所に着席しなければならない。

2 傍聴者は、会場において写真撮影、録画、録音等を行ってはならない。

ただし、委員会の座長(以下「座長」という。)が許可した場合は、この限りでない。

3 危険物を持っている者、酒気を帯びている者、その他座長が委員会の運営に支障があると認める者は、会場に立ち入ってはならない。

(会場からの退去)

第5条 座長は、傍聴者が委員会の進行を妨害する等委員会の運営に支障となる行為をするときは、当該傍聴者に会場からの退去を命じることができる。

附則

この要領は、平成14年8月27日から施行し、平成15年3月31日をもって失効する。

検 討 経 過

	開 催 日 時	審 議 項 目
第 1 回	14年 8月27日(火) 午後2時45分から4 時45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会への諮問 ・ 今後のスケジュールについて ・ 基礎資料の説明
第 2 回	9月30日(月) 午後1時から3時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立病院のあり方について
第 3 回	10月25日(金) 午後2時30分から5時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港湾病院視察 ・ 医療関係団体からの意見聴取 ・ 新港湾病院のあり方及び経営形態について(その1)
第 4 回	11月6日(水) 午後3時から5時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各市立病院院長からの意見聴取 ・ 新港湾病院のあり方及び経営形態について(その2)
第 5 回	11月26日(火) 午前10時から正午	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間答申骨子(案)について
第 6 回	12月12日(木) 午後3時から5時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間答申(案)について
第 7 回	1月9日(木) 午後2時から5時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民病院のあり方及び経営形態について
第 8 回	1月29日(水) 午後2時から5時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳血管医療センターのあり方及び経営形態について
第 9 回	3月26日(水) 午後3時から5時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終答申(案)について

委 員 名 簿

氏 名	現 職
座 長 かい はら しげ こと 開 原 成 允	財団法人 医療情報システム開発センター 理事長
いい だ しょう へい 飯 田 修 平	財団法人 東京都医療保健協会 理事長（練馬総合病院 院長）
お ち と よ こ 越 智 登 代 子	ジャーナリスト
かわ きた ひろ ぶみ 河 北 博 文	医療法人財団 河北総合病院 理事長
た むら まこと 田 村 誠	国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療経営管理学科 教授
つじ もと よし こ 辻 本 好 子	NPO法人 ささえあい医療人権センターCOML 理事長
ね ぎし いさ お 根 岸 勇 夫	社団法人 全国自治体病院協議会 事務局長
まつ い みち ひこ 松 井 道 彦	学校法人 慈恵大学 専務理事（東京慈恵会医科大学 教授）